



伊藤音次郎日記

1915(大正4)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼1ページ▲▼

大正四年

▲▼1ページ▲▼ 一月行事

大正四年

▲▼2ページ▲▼ 大正4(1915)年1月1日(金)

天気 快晴 七五六

時事 飛行隊ガイセンズ 荻田大坂ニ飛ブ

午前四時就床 十時起床 別ニ新ラタナ或(ママ)想モ何ニモ起コラズ御祝ヲナス。終リテ河村氏ノ發起ニテ岩ドント二人デ横浜ニ行ク 電車込合ヒ困難ス

神奈川ヨリ一銭蒸氣デ鉄ノ橋迫行キ波止場ヲ見本牧迫テクル 充分外国式ノ空氣ニ接ス サレドモ此行初メヨリ氣進ザリシ爲メ面白カラズ帰途ニツク 横浜駅ヨリ氣車ニテ新新橋ニ下車 帰宅 六時過ギ夕食ニアリツク。メシ冷タク寒サイヤマシテフルエ上ルコソナ時一杯ノミタイト思フ 岩ドソボスコト甚ダシ

▲▼3ページ▲▼ 大正4(1915)年1月2日(土)

時事 荻田大坂ヨリ京都ニ行キ深草ニ着陸ス

七時半起床 朝食後TMニ行ク 豊サンヲ連レテ白戸ニ行ク 酒後チ花 三時半ジシテ、テクニテ村山加藤ニ行キ帰途太田屋ニテ夕食 TMニ帰り酒馳走ニナリシモ多クノマズ。帰途大正軒ニテノミ直シ少々ヨツテ帰ル 十時 少時花 就床

▲▼4ページ▲▼ 大正4(1915)年1月3日(日)

時事 荻田京都稻荷山附近ニ墜落 助手大橋ト共ニ惨死ス

七時起床 朝食 オゾーニハモーイヤニナツタ

十一時入浴

晝食後一時過ギ出デテ都築氏ヲ訪フ 煮卷ヲ馳走ニナリテクニテ芝公園ト日比谷ヲ散歩シTMニ寄り一杯ノミ帰宅 夕食

夜投扇興ヤ天狗ハイカイナドシテ遊ブ 一向面白カラズ 十時床ニツク

夕方神田ノ花切ヲ電話ニテ呼バル ツヒニ來ラズ

▲▼5ページ▲▼ 大正4(1915)年1月4日(月)

天気晴

八時起床 朝食新聞 TMヨリ電話アリ早速洋服ニ着替テ東京自動車(同社製ルノ一七十ノ試運轉ヲ見ニ行ク 丁度廻ス要ナリキ 廻轉數千七百廻ツタトハ少々ウタガワシ ナントナレバ「プロペラ」ハ陸軍ノモノナレバ千七百廻レバクランク軸ニテ百回ノ減少プロペラ軸ニテハヅカニ五十回轉少ナキノミナレバ今少シ風ガツヨクナクテハナラナイノミナラズ目デ見タプロペラノ廻リ工合ハ左様ニ沢山廻ッテ居ル様ニハ見エナカッタ。シカイトシテ今少シ長時間廻サナケレバ分カラナイ ソレカラ工場ヲ見物シ半製ノピストンヤ各部分ヲ見タ 沢山ノ鑄物ヲツクツテ、ヤット一台分仕上ゲタ努力ハ多トシナケレバナラナイ

TMニテ晝食後又行ク 今朝ヨリモ宜シカラズ 一二分間ニテ終ル

帰宅 夕白戸夫妻ヨツパラツテ來ル 失礼多ク後チ河村妻君ヨリ云ワレル毎ニ自分ノコトノ如ク赤面セザルヲ得ザリキ

夜小僧タチヲ遊バス爲メ面白クモナキ種々ナコトヲナス 殊ニ河村氏僅ノ立腹シテ 面白カラザリキ 妻君ノ氣ヲ兼ネルコト氣ノ毒ナリ

荻田氏墜落ニツキ最モ感ジタルコトハ己レノ分ヲ知ルコトナリ

▲▼6ページ▲▼ 大正4(1915)年1月5日(火)

天気晴

白戸ト所沢ニ行クベク八時宅ヲ出テ麻布ニ行ク 白戸朝食後時間ヲ見ルニ九時半ニ間ニ合ハズ十一時ノ氣車ニナル ツヒニヤメルコトニナリ年始方々發動機ノコトヲ議スベク當間氏ヲ訪ワント電話ニテ在否ヲ聞キシニ旅行中ニテ十日ゴロ帰京セラルベシトノコトナリキ

晝食後花 負ケル 其金ニテ「ラジューム」ニ行ク

六時帰宅 花 今度ハ大キニ勝ツ 其内時間過ギ九時頃ニナル 丁度、余ノ發言ニテ合ノ子井ヲツクルベク準備ノ出來タ處ナリシカバ帰宅ノオクレンコトヲオソレ宅ニ電話ヲカケ今夜ハ麻布泊リ 合ノ子井アタ、カクウマカリキ

將來ノコト發動機問題ニツキ白戸五十ヲ借り得ラルコト確實ノモノノ如ク考エ居レバ其アヤマルノトキ安心セザル様ケイカイス

▲▼7ページ▲▼ 大正4(1915)年1月6日(水)

天気 晴

八時起床 朝食日記

晝食後田辺氏ヲ訪フベク雷門ニテ下リテクシナガラ途中小供ニト水菓子ヲ一カゴ求メテ行ク 不在 夕方行クベク約シテ立出デ帝国館ノ活動ヲ見ル アマリ面白クナカッタ 五時頃出タガマダ少々時間ガ早ク、タメシデモ喰ツテト思ツタガ財政モ大分考慮ヲ要スル様ニナツタノデ約三十分バカリ附近ヲ散歩シナガラツヒニ天プラ屋ニ這入ツタ 六時半再ビ行キテ面會 久シ振ノ挨拶ト共ニ其後ノ話シ色々トナス 奈良原氏何ソノ音沙汰ナキ由 發動機ヲ如何ニスベキカニツキ相談アリタレドモ云フベキニアラス意見ヲ聞クノミ。最後ニ白戸ニ貸スヤ否ヤヲ聞キシモ白戸デハ話ス必要ナシトノコトナリキトソト雑煮ヲ馳走ニナリ十時前帰宅ス 帰途イロ、考ヘタガドーモ非(ママ)觀ニナル外ナイニツヒテモ飛行協会ノアヤマル方針ニ對シ一文ヲ叢シテヤロト思ツタ

▲▼8ページ▲▼ 大正4(1915)年1月7日(木)

天気 曇後雪

朝食後白戸ノ處へ田辺氏ト會見ノ模様ヲ話スベク行ク 晝食後白戸ト共ニ村山氏ヲ訪ヒ將來ヲ議ス 結極(ママ)白戸自身當間氏ニ面談シタル上他ノ方法ニツキ研究スルコトトナル 四時半帰宅 入浴 一日以來ノ切抜ヲ整理ス 夜玉突投扇興ヲナシテ十時床ニ入ル 晝頃ヨリ雨マジリノ雪ニ夜ニ入り雪ノミトナリ世ハ白クナリヌ

▲▼9ページ▲▼ 大正4(1915)年1月8日(金)

天気 雨雪

起床 日記朝食新聞切抜 TMニ白戸ノジヤケツト長靴ヲ取りニ行き晝前迄遊ブ 晝食後一時間切抜ヲ張リテ後チ頭ノ中ガ近來モヤ、シテイケナイノデ浅草ニデモ遊バンモノト豊サンヲサンヒ出ス 赤煉瓦ヲ通ル時大キナ屋上ノ雪落チテ驚カサル 浅草ハ金龍館ノ五九良ト近頃問題ノ女木村駒子ノカチユーシヤヲ見ル 三番目ノヌレ手拭ガ一番面白カッタ 西洋劇ハ見付ケナイセイカ、ヤリ手ガヘタナノガ少シデ憾(ママ)興ヲ引起サレナカッタ。 タ、駒子ノ歌ツタカチユーシヤノ歌ヤ節ガヨク聞ク須磨子ノヨリ高尚ナ様ニ聞ヘタソシ テイカニモアワレンーデアッタ 支那料理デ腹ヲツクリ七時帰宅 花 十時床ニ入りテ後チ將來ノ飛行界ヲイロ、トエガキ出シテ夜更ク

▲▼10ページ▲▼ 大正4(1915)年1月9日(土)

天気晴

気持ノヨイ天気ニナツタ 起床 朝湯ニ行キ朝食新聞後目下ノ民間飛行家ノ現状ニツキ帝国飛行協会ニ対シ一文ヲ叢シホンマノ記ニ記シ居ク

午後白戸來 後加藤來 イツレモ夕刻帰ル

加藤野島氏ヨリ事傳リタリトテ余ニ明日野島氏宅ニ來テ貰ヒタシトノコト 何事ナラシカ。夜昨日ヨリ御母サント落語ヲ聞キニ行クベク約束アリ仕度中川辺君利根君ト共ニ來 八時半頃帰ル。余ノ事ニ付野島氏が呼ヨセルニ川辺君何事モ知ラザリシハ不思議。君ノ想像ニヨレバ野島氏ノ後繼問題カ或ハグレゴア買入ノ件ナルベシトノコト

相カワラス川辺君ハ飛行家ニランガイシツ、アリ否彼レハ、スデニ世ヲノロイツ、アルニアラザルカ？金モナキ様子ニ煙草ニツ求メ時計ヲ賣代ナセシト云フニ余ハ二個ノ時計ハ必要ニアラザレバ一個ヲ與フ

▲▼11ページ▲▼ 大正4(1915)年1月10日(日)

天気晴

八時起床 朝食日記新聞後TMニ立寄り日比谷ヨリ電車ニテ野島氏ヲ訪フ 丁度十時頃 挨拶ノ後飛行談アリ 玉井君ノ事ニ及ビ兵營生活ノ談トナル 十一時過ぎ玉井君軍服姿ニテ來 益々話ニ花ガ咲キ晝食ヲ馳走ニナリ式時頃玉井君帰ル 後チ又飛行談トナリ飛行協会ノ方針ノアヤマレルヲカタリ合フ

三時辭シテ青山ノ格納庫ニ至ル 丁度都築アリ 工事ハカドリ居タリ 都築氏ト打連レテ帰途ニツク 途中白戸ニ立寄ル 不在 夕食前帰宅

園田氏所有ノグリーンヲ買入ルベク奔走セリト

八時帰途ニツク

不在中川辺君二度來リ昨日ノ話良好ナリトノコト ニツトモナラ有難イガドーカ知ラ

十一時就床

▲▼12ページ▲▼ 大正4(1915)年1月11日(月)

天気雨

朝來ノドシヤ降り 川辺君モ來ラザル由電話來ル

午前中原稿ヲ書キ晝食後帝国館へ名馬ヲ見ニ行ク 近來マレニ見ル大活劇

帰途ハ雨上ガツテ心地ヨイ青空ガ見エテ居タ

夜切抜張り

▲▼13ページ▲▼ 大正4(1915)年1月12日(火)

天気晴

午前中切抜張りト模型ノ操縦線ヲ取り替へタ
午後川辺君今ヤ來ルト待ツ處へ白戸ヨリ電話アリ 園田ノエンジンヲ一所ニ見ニ行ツテ
呉レトノコト 一寸事ハツタガ最(ママ)非ニト云フノデ仕度スル内川辺君來 模型ト原稿
ヲ渡ス

二時半白戸來 共ニ駒込千駄木ナル園池工作所ニ行ク。園田氏令息武彦氏ト同道シ
芝白金ノ自宅ニ行キエンジンヲ見ル 重イカワリニエンジンハ中々大キク、ガンジョーデア
ツタ。ドコトナク英国カタギガ見ラレタ。

五時過ギ帰宅 川辺君スデニ帰ヘツタ後模型ハ二十円ノ包金ニシテ呉レトノコト 明後
日呉レル筈。原稿ハ一度目ヲ通シタ後チ決定ストノコト。後TMニ行キ豊サント時計ヲ
直シニヤリツヒデニ京橋カラ新橋迄散歩ス

▲▼14ページ▲▼ 大正4(1915)年1月13日(水)

天気晴

今日ハ如何ナル悪日ゾヤ 寢テ居ル内カラ稲毛カラ手紙ガ來タ。ウルサイガ、ナントモ
ツカヌ返ヲシテヤッタ 久シ振りデ宅ヘモ出シタ。晝食後十時頃不圖硝子紙カラ思ヒッ
ヒテ翼布ヲ作ル 考ヘテ色々試験シタガ結極(ママ)防火装置ヲシナケレバナナイト思
タノデTMへ工業藥品辭典ヲ借りニ行キ一寸調べタ

午後加藤ヲ訪ヒ打連レテ芝、アタゴ、日比谷ノ各公園ヲ散歩シタ 四時頃帰宅 丁度
大口君來 談話 加藤君帰ル 大口ト連立チ川辺君ヲ訪フ 不在 浅草大黒屋ニテタ
食。矢場ヲヒヤカシ大口ノ知レル家ニテ茶ヲノミ帰ル

大口十時ニテ稲毛ニ帰ル 余帰途大正軒バーニ入りイツモノト違フ女來ル。イヅレモ変
ナ奴バカリナリ

▲▼15ページ▲▼ 大正4(1915)年1月14日(木)

天気晴

翼布ニツイテ研究スベク午前中諸材料ヲ求メル
午後約東アリ川辺君來ルカト待チ受ク

三時晝頃鳥飼自身電話ヲ懸ケ飛行機ヲ使用シテモヨシト云ツテ來タ

四時頃川辺君宗里君ト共ニ來 相変ズ二人共大言壯語シテ帰ヘツタ 模型ノ金六両三

日遅レルトノコト ソゴテ大口君ニタノマレタ金六野島氏ニ送ツテ貰ヘル様取ハカライヲ川
辺君ニ頼ンダ
夜豊サン來 格納庫何時ニテモ借リラレルヤト聞キニ來タノデ、余ニダケ貸シテ呉レル
様ナコトニ話シテ居イタ 尚飛行機ニツキ練習費迄鳥飼氏ニ出サセテハ後チガ少々面倒
ナノデ其話ニ行ツタガ不在デアッタ

▲▼16ページ▲▼ 大正4(1915)年1月15日(金)

天気晴

八時起床 新聞朝食後TMニ行き鳥飼氏ニ飛行機ハ何時拝借シテモヨロシイカト聞イテ
見タラ、ハイ宜シイト答(テ)呉レタ デ早速白戸ノ處へ行ツタ 丁度村山ノ處へ行クノダ
トノコトデ一所ニ行ク。園田ノエンジン價千八百円トノコト 実ニ安イモノダ。シカシ村
山ハナントカカントカ云ツテ、決極(ママ)二十日頃村山氏ノ病氣全快ノ上デトノコトニ
ナツタ
ソレカララジユムへ行ク道デ白戸ニ練習ノコトヲ話シタ 安(ママ)外ニ賛成シテ呉レタ。ラ
ジユームハ奥村少将ガ居ラレテ初メテ會ツタ
白戸ニテ夕食後田辺氏ヲ訪フタ。シカシテ練習ノコトヲ話スト、ソレハヨイ大将ニスグ話
シマシヨート、コチラカラ頼マナイウチニ云ツテ呉レタ シカシ、スグ金ヲトハ云ヘナカッタ
十時帰宅 一時半数寄屋橋向ニ火事ガアッタ

▲▼17ページ▲▼ 大正4(1915)年1月16日(土)

天気晴

八時起床 朝食新聞 タムチニ川辺君ノ處へ模型代ヲ請求シテ貰フベク行ツタ マダ寝
テ居タ シバラク話スウチ利根君ガヤツテ來タ 晝食ヲ馳走ニナリ、二階ノ日當リノヨ
イ處デ三時過ぎ迄話シ込ミ、ソレカラ浅草ヲ散歩シタ 川辺君ハ活動デモ見様ト云ツ
タガ大変ナ人ナノデヨシテ、大蛇ト云フノヲ見テ支那料理ヲ喰ツタ 之レハ僕ガオゴツ
タ ソレカラ吉原へ見物ニ行ツタ 久シ振リデ君津ノ前ヲ通ツタ 大口ト志賀サンノ相
方ガ居テ一寸立話シヲシタ 僕ノヤツハ病氣デ寢テ居ルトノコトデアッタ 大分長イラ
シイノデ様子ヲ聞イテヤレバヨカッタト後デ思ツタ
八時半帰宅

▲▼18ページ▲▼ 大正4(1915)年1月17日(日)

天気 快晴

近頃ノ快晴續キ何處モ賑フソダ 今日ハ終日在宅 大坂へ三十円無心ヲ云ツテヤツ

夕。午前中切抜整理 午後店番ヲシナガラ飛行界ヲ讀ム
川辺ヨリトートー電話ガ來ナカッタ 夜豊サンガ遊ビニ來タ。後チ四人バカリデ花ヲヤ
ル 不思議ト今日勝ツタ

▲▼19ページ▲▼ 大正4(1915)年1月18日(月)

八時起床 新聞朝食日記
松本氏來 圍碁ヲシテ三時頃迄遊ブ 余白戸ヘ行ク 此處デモ碁會所ヘ行ツタトノコト
デ見ニ行ク
夕食後花 後チ又碁會所ニ行ク 帰途散髪ヲナシ十時十分帰宅

▲▼20ページ▲▼ 大正4(1915)年1月19日(火)

天気晴

今日ハ終日店番 山田屋サンノ葬式ヤ先主人ノ命日デ午後ハ御母サンモ河村氏モ不在
午前加藤君來 三時頃帰ル
午後ハ店デ落語ノ本ヲ讀ム

▲▼21ページ▲▼ 大正4(1915)年1月20日(水)

午前七時半起床 朝食新聞ヲ讀ム内九時半 第二回ノ飛行ハ所沢発トアッタノデー
タン止メ様ト思タガ又行ク氣ニナツテ飛ビ出シタ 電車ガドーモモドカシカッタ 青山
一丁目ヲ過ギルト一機代々木ノ空ニ飛ンデ居タ 式回リカ大円ヲ畫キナガラ飛ンデ居
ルノデ、渋谷ニツイタ頃マダ機影ガ見エテ居タガ代々木ニツイタ時ニハスデニ見エナカッタ。
九號機ガ一台残ツテ居タガイツマデ待ツテモ飛バナイノデ、ジレテ居ルト自動車ガ飛ブ
様ニヤツテ來テ中カラ車輪ガ出デ、ナル程車輪ヲコワシテ豫備ヲ取ヨセタノト分カッタ。
ソレカラ間モナク飛揚シテ場ヲ三週スル内ニ所定ノ高サニ達シタト見エテ帰ツタ ドーモ
速力ガ遅イ様ナ氣ガシテナラナカッタ ソレカラ一時間程シテ所沢カラ十二號機ガ來
タ ソレガ着陸スルト十三號ト九號ガ順次ヤツテ來タ イヅレモ、モドカシイ程丁寧ナ
飛ビ方ヲシテ居タ
着陸ハイヅレモ一様ニウマカッタガ、風ハナシ 場所ガ広イカラ、ホントーノ技量ハ分ラナ
カッタ 着陸ガ終ルトスグ帰途ニツイタガスデ二十二時デアッタノデ青山ノ通りヲ徒歩
ニテ練兵場ノ格納庫ヲ尋ネテ見タ。シバラクシテ都築氏ガ來タ。少時シテ共ニ帰途ニツ
ク 余ガ練習ヲ初メルカラ寄附金ヲ頼ムト云フト應分ノコトハシマシヨト云ワレタ 三
時頃帰宅

午後御母サンハ松本サン母子ト花チヤント歌舞伎ヘ行カレタ 夜ハ花ヲナス 十時帰ヘラ

ル 花君三會フ 十時四十分帰ル

▲▼22ページ▲▼ 大正4(1915)年1月21日(木)

天気晴

朝食新聞日記後TM三行ク 豊サンハシキリニ飛行機ノ手入レヲシテ居タ。翼布ヲ少シ貫ツテ帰途葉屋デ亜麻仁油ヲ一ビン買テ帰ル。ソシテ翼布ヲ張ルベキ枠ヲ作ル 其時サシヲ取りニ行クベク奥ニ階ハ勢ヨクトシ、トカケ上リ様ガラリ襖ヲ開クトソコニ四十格工ノ女ノ人ガスワツテ居タニハ少ナカラズ面喰ツタ 下デ聞イテ見ルト妻君ノ御母サンダトノコトデ次ギニ他ノ材料ヲ取りニ行ツタ時アイサツヲシタ
晝食後白戸ヘ行ク

九時頃帰途ニツク 十時鏡滋氏終(ママ)眠後御母サント練習ノコトニツキ一寸話シシタ御母サンモ出來ル時ニハヤツテ居タ方ガヨカロト云ワレタ

▲▼23ページ▲▼ 大正4(1915)年1月22日(金)

天気晴

朝食日記新聞後奥ニ階ニテモーターヲ讀ム 主人來 囲碁ヲナス 折柄大口君來 僕ノハガキニヨリ、大口君出發前ニ道具ヲ見ニ來テハドーカト親切ニ云ツテ來テ呉レタノデアツタ。丁度晝ニナツタノデ清新軒ノ洋食辨当ヲ馳走ス。ソレカラ獵ノ話デ大分遊ンデ深川ノ区役所ヘ行ツテ帰りニ寄ルト云ツテ帰ツタ。後チ又囲碁 ツヒニ三番バカリマケコンデヤメタ

夜ドーモ、脳ガ分明シナイノデ御湯カラ上ツテ御母サンニ御灸ヲ下シテ貰ツタ
大口ガ來ルカト思ツタガツヒニ來ナカッタ

▲▼24ページ▲▼ 大正4(1915)年1月23日(土)

天気 曇少雨 寒シ

八時起床 朝食 新聞ヲ讀ム内加藤君來

後チ奥ニ階ニテ鏡滋氏ト碁ヲ打ツ 午前午後ヲ通ジテ一勝一負 決セザリシモ最後ニ二度ツゞケテ勝ツ氏。脳ガフラ、シテ來タノデヤメタ

神田ノ花子嬢一寸來テ帰ヘラル

四時頃御母サン帝劇ニ行ク。夕食後加藤君ト店ノ人ナドデ花ヲ十時迄引ク 少シ負ケタ

昨日大口午後ハ加藤ヘ行キ夜迄遊ンデ帰ヘタトノコト。加藤ノ親父ハ僕ニ翼ヲ新ラシク作ルト云ツテ居タトノコト 金ハイツデモヨイトノコト。有難イガコトワツテ、其カワリコ

ワレタ時ニ直シテモローコトニ頼ンデ居イタ。ソレカラ上総屋ノ吉ガ僕ニドートカトカ話シテ居タガ、大口ガ話シタモノラシイ。困ツタモノダ

◆▼25ページ◆▼ 大正4(1915)年1月24日(日)

天気 曇

八時起床

明日模型ノ金受取ル日ニ付川辺君ニ來駕ノ依頼急グハガキヲ出ス 又自宅ヘモ金件ニツキハガキ

午前中切抜整理 晝食後加藤君ヲ訪フ 親父ニ會ヒ修繕ノ場合ノコトヲ依頼ス。ソレヨリ白戸ヲ訪フベク加藤ト共ニ出デ村山宅ニ立寄ル 丁度白戸來合ス。エンジンノ方村山ドモハカバカシカラザル模様ナリ。コモリヲ白戸ニ依頼シ加藤君ト芝山内ヲアルキ、スケート場ニ入りアダカモ今日ハ競争會ガアルノデソレヲ見夕食前帰宅ス

夜川辺君ヨリ電話アリ 明日方ヲ附ケルトノコト 後チTMニ行ク 豊サンニ會フ 金ハ親父ガ出ストノコト 明日イヨ、出來ナケレバドーナルモノカ 兎ニ角ヤツテ見様

銀坐通リヲ散歩シ、パウリスタニテコーヒーヲノミ帰途宅ニ豊サンヲトモナイプレーンノ塗料ヲ見セル

◆▼26ページ◆▼ 大正4(1915)年1月25日(月)

天気 晴

朝カラ午後三時過ギ辻川辺君ガ今カ、ト待チ通シタガツヒニ來ラズ 日比谷ヲ散歩シ帰宅シテモマダダト云フノデ飛行荘ヘ電話ヲカケルト丁度居テコレカラ話ヲスル處ダトノコト。ソレカラシバラクスルト、ヤツテ來テ半分十円ダケ呉レアトハスノ朝クレル由其内川辺君ニ五円御札ヲ渡シタ イクラガ川辺君ノ内ヨリ宗里君ニモヤツテ貰フコトニシタ。

御晝過ギ加藤白戸両君來 白戸ヨリ十円寄附ヲ受ク

◆▼27ページ◆▼ 大正4(1915)年1月26日(火)

今日ハ大分活動シタ シカモ皆成功シタ

先ヅ九時過ギ今川橋ニ當間氏ヲ訪ヒ練習ノ事ヲ話シ後援ヲ依頼シテ承認ヲ受ケ帰途TMヨリ馬車ヤ其他ノ打合セヲナス 帰宅 晝食シテ青山ニ都築氏ヲ訪フベク出懸様トスル處ヘ川辺君ガ残金ヲ持ツテ來テ呉レタノデ共ニ青山ニ行 丁度都築氏居リタイヤーヲ一本拝借シタイト頼ムト三本呉レラレタ。ソレカラ三時頃辻雑談 川辺君ト分カレテ奈良原氏ヲ訪フ 例ニヨツテ不在 ソコデ練習出來ル様ニナツタコトヲツゲ白戸ニ行

キ飛行帽メガネナドヲ借り、加藤君ニ行キ櫓ヲ取りニ行クベク話シテ居イテ帰ル。夕食後豊サンニ取りニ行ツテ貰フ。余ハ田辺氏ヲ訪ヒ後援ヲ依頼シタ。殊ニ此頃昨年來マレナ好景氣ダカラ多分成功スルダロトノ話シ。尚ヨク頼ンデ帰途浅草デ金カシ定シナガラバーニ這入ツタ處十六七ノ娘ガ三人共愛キヨク待遇シテクレタノデツヒ一円バカリ喰ツタリノンダリヲシタ。十一時就床。

▲▼28ページ▲▼ 大正4(1915)年1月27日(水)

天気晴

午前八時起床。朝食新聞後加藤へ固拔ヲ返シニ行キ帰りニプロペラヲ貰ヒTMニ行ク。少時タイヤーヤ其他ノコトヲナシ豊サント「ノ、ヤ」へ模型材料ヲ求メニ行ク。帰宅後TMニテ晝食。馬車賃金折合ワズ鳥飼事(ママ)ワル。然シテ津田沼ノ馬車屋ニハガキヲ出ス。本日積出サレズ明日トナル。大口君來。共ニ一寸散歩シ晝食ヲ馳走ス。大口スグ帰ルトノコトニ津田沼へ途中下車。馬車屋ニ明日最(ママ)非來ル様ニコト傳ス。夕食後談話。余ハ土産モノナド求メ帰宅。八時頃ナリシ。定吉君今朝早く出タマ、帰ラザル由店ニテウワサ中芝高輪警察署ヨリ電話アリ。定吉コト、不シンノカドアリ取シラベシ處余程ツカヒ込ミ有ル由、シラベヨトノコト。ソレカラ十一時頃再ビ電話來。明朝八時迄ニ同所へ出頭セヨトノコト。余行クコトニ話シ一時過ギ迄取シラベモノヲナス。

▲▼29ページ▲▼ 大正4(1915)年1月28日(木)

天気雨

六時起床。仕度シテ高輪警察署ニ行ク。定吉ガ使込被害金高ヲ取調べ報告セヨトノコトニ帰宅ス。丁度定吉ガ昨日芝ヨリ出シタル手紙ノ中ニ使込金高ヲシルシアリタルニヨリソノ通り書イテ晝食後行ク。木下刑事ノカ、リニテ取調べヲ乞フ處へ品川ノ品川旅館ニアヤシキ夫妻ツレガ泊ツテ居ルトノコトニ出テ行ツテ三時頃同行シテ帰ヘテ來タ。ドチラモキレイナ若イ男女デアッタ。ソレカラ僕ノ方ノ取シラベガアツテ結局二百八十七円十錢ノ外二十五円ばかり、ワカラナイツカヒ込ミガアルコトガワカリ、始末書ヲ書イテ出セトノコトニ代書へ行ツタガ、使込ミ金ヲ受取ツタトクイ先キノ處ガ不明ノデ明朝出スコトニシテ帰ヘテシラベ様トシタガ川村サンガドーモ、留(ママ)イキバカリシテ居テラチガアカナカッタ。

夜定吉ノ父ヲヨビニヤリ警察ノ話ヲシテ金ノ使道ガイカニモアヤシイノデ、僕ガイロ、トオドカシテヤッタ。結局現金三十円デ月賦ト云フコトニナリ願下ヲスルコトニシタ。川村サンハ大変ヨロコビデコレカラモイツ迄モツキアウコトヲ約サレタ。

御母サンモ非常ニヨロコバレタ。ソレ程大シタコトデモナイニ僕ノ方ガヨホド氣ノ毒ニナツタ。

▲▼30ページ▲▼ 大正4(1915)年1月29日(金)

天気晴

七時起床 仕度 定吉ノ父ト岩ドント僕ト辨護士末見サンニ行キ□□屋ノ紙ヲ公正証書ニスベク手ツゞキヲナシ願下ルベク末見サント僕ト警察ニ行ク。刑事マダキタラズ。始末書ヲ代書ニカゝス末見サンタヨリナイコトオビタゞシイ。ソレデ先キニ帰ヘテモライ、始末書ト定吉ノ所持金十五円三十四銭五厘ノ仮下渡ノ受取リヲ出シ、願下書ヲ出ス然ルニ金額多キ爲メケンジ局ニ明日送ルカラ明日其方へ出セトノコトニテ帰宅。晝食後末見サンニ行キ、全金高ノ中ヨリ三十円ト十五円ヲ差引キ二百四十二円ヲ証書ニシ芝ノ公証役場柴田猛甫宅ニ行キシモ河村ノ印鑑証明必要ノ爲メ帰宅セシモ先主人ノ印紛失ノ爲メ紛失トゞケヲ出ス。ヨツテ印鑑証明ハ四日シナケレバ取レナイノデ公正ヲ延期ス。夕方警察ヨリ電話アリ明朝定吉ノ父ヲ出頭セシムベシトノコトナリシ。御母サンノ話ニヨレバ妻君ノ之ノナ、上主ヨリ六百円請求シテ來タトノコト 悪イ時ニ悪コトノ起ルモノ シカシ此方ハ神田デメイワクラカケナイコトニトノコトニナツタガ河村氏ハ益々心配シテ昨日モ二度今日モ晝食ヲ喰ワナカッタ ソレヲ又御母サンモ妻君ト心配シテ居ラレルノデ何ント云ツテナグサメテヨイヤラ、ワカラナカッタガ万一ノ場合ハ余モ何コトヲギセイニシテモ尋(ママ)カシナケレバナルマイ
(300ページへ続く)

▲▼31ページ▲▼ 大正4(1915)年1月30日(土)

天気晴

練習第一日 昨日馬車一台ヨリ來ラズ 今朝十時半頃漸ク來ル 昨日途中馬病氣ヲ起シタル爲ナリシト
直チニ組立ヲ初ム 夕刻ホゞ出來上リシモ不足品多少アリ夕食後豊サンヲ東京へ帰ス 尚河村氏ニテ金五円借用スベク手紙ヲソへ、ソレニテ買物ヲタノム。又田辺氏へ當間高井両家へノ頼ミ手紙ヲ出ス
昨夜ハ夢ヲ見通シ時二目ヲ醒シ眠レザリキ

▲▼32ページ▲▼ 大正4(1915)年1月31日(日)

天気 曇リ少雨

降ツタリ止ンダリ 時々風モアツタ 午前八時過ぎ起床 朝食前浅間神社ニ参拜 後チ一人デ方向舵ヲ取付操縦線ヲ張ル 晝食 一時頃豊サン帰ル。午後八車輪ヲ付ケスベテ完成シプロヘラトマグネットノミヲ残シ居タ。夕方終ル

大口君ハオシメ干ヲ作ツテ居タ
夕食後川辺、都築、河村加藤諸氏へ礼状ヲ出ス

◆◆33ページ◆◆ 補遺

稲毛ニテ練習丸一ヶ月

◆◆35ページ◆◆ 大正4(1915)年2月1日(月)

天気 曇リ後晴レ

天候昨日ト大差ナク模型ノ製作ヲナス 奥村少將ニ寄贈スベクニューポールトモーターヲ
ソルニエーノ折中(ママ)ナリ

夜菓子ヲカケ花ヲ引ク 十一時就床

午後正雄君來 マグネトヲツケテ呉レタ

◆◆36ページ◆◆ 大正4(1915)年2月2日(火)

天気 曇リ後雨

曇リタレドモ風ナシ 九時朝食 十時頃ヨリ仕事 オイルタンクヲ取付ケプロペラヲツケ
ル。十一時海岸ニ引出ス 一昨々年ノ如キ恐フノ念ハナカリシモ、ヒタスラ真線ニ滑走シ
得ルヤ、ソレノミヲ念ジタリキ 東北ノ風カスカナリキ 滑走幾回 エンジン一本バクハツ
セス速力ナケレバ方向ヲ定メルニ都合ヨカリシモ時々風ツヨキ時ハ方向舵キカザリキ
四五回目ニ黒砂沖ヲ目ザシテ滑走セシ時風ヤ、ツヨク横ニナガサル、如ク感じタト車
輪ヲ氣ツカヒタリシモ無事ナリシハガ中止シテ、エンジンノ、調子ヲ直スベク岸ニ上ゲ試験
ス 一番シリマグネトノコード線ニ故障アリ 全力ヲ出ス。390頁へ

今日ノ練習中天佑多カリシハ神々ニ深謝ス

(390ページへ続く)

◆◆37ページ◆◆ 大正4(1915)年2月3日(水)

天気 曇

今日ハ余リ氣ガ進マナイ日デアッタ 空、相変ラズ曇ツテ水平線ガハツキリトシテ房総ノ
山々ガキワ立ッテ目立ッタ ドーモ風ノ出ソーナ日デアッタ ハタセルカラ(ママ)午後ハ
東北風ガ大分強カッタ。一寸模型ヲ作ツタリ川村川辺両氏へハガキヲ出シタリ、マグネ

ト水ノカヽラナイ様大口君ニ箱ヲコシラヘテ貰フベク見ニ行タリ、ヨゴレタプレーンノ箱ヲ洗ツタリシタ

夜ハ花ト歌カルタ 東京カラ養生ニ來テ居ル光子ト云フ娘モ交ツテ

今上京ノ御婆サンガ自動実鏡ヲナヲシテ呉レトテ大口君ノ處ヘモツテ來タ 余モ手ツタツテ見タ 夕方圖不氣ツイテ見ルト、写真デ見テハタゞノ平面ダガ目鏡ヲ通シテ見ルト近イモノハ近ク遠イモノハ遠ク立体的ニ見エルノデ、コノメガネデ活動写真ヲ見タラ、イカニモヨカロト思ツタト同時ニ一時間一錢位ヲ活動写真館ノ中デ貸シタラ、モ一カルダロト思タ。ソレデ大口君ニモ話シ目鏡ヲハツシテ見ルト三角ガラスデ遠クノモノハハッキリ見エナイ シカシ見ルモノノソバニ目鏡ヲ居イテ遠クカラ見テモカワリハナイ様デアッタカラ、望遠鏡式ニ遠クノモノヲ近ク引ヨセテ居イテコノ目ガネヲ通シタラヨイト氣ツイタ 一ツタメシテ見ヨ一

◆▼38ページ◆▼ 大正4(1915)年2月4日(木)

天気 雨

朝カラハラヽトキリ雨が降ツテ居タガ午後カラハ本雨ニナツタ 午前中白戸カラ手紙ガ來テ諏訪カラ大變ハケ間敷云ツテ來タノデ園田ノエンジンデ行カウカモシレヌトノコトデアツタ。ソレデハ大變ナノト田辺氏ヲ訪フベク帰京スルコトニシテ一時ノ氣車ニ乗ツタ 東京ニツクト大變ナ雨風ニナツテ帰宅スルトモ一、外出ハ出來ナクナリ夜ニ入ツテ風益々ツヨクナツタ シカシ十一時頃ニハケロリトナツテ星ガキラヽヽ輝イテ居タ

◆▼39ページ◆▼ 大正4(1915)年2月5日(金)

天気 曇リ

八時朝食新聞後TMニ行ク 昨日鳥飼白戸村山三氏會合 今日稲毛ニ行キグレゴアノ成績ヲ見悪シケレバ、園田ノエンジンヲ借入レル筈ナリトノコトニグレゴアハ絶対ニダメト、アキラメサセ白戸ニ行ク 丁度仕度ヲシテ今出様トスル處ナリシカバ中止サセ共ニ村山ニ行ク 白戸ノ話シニヨレバ諏訪ヘ請求スル様云ツテヤツタトノコト 多分グリーンヲ一日モ早ク買ワセテシマオート云フ考ヘラシイ。村山ト白戸トハ又鳥飼ヘハグリーンヲ一ヶ所二百円ヅヽデ借リルト云ツテ居イテ實ハ買求メルナリト ソレゞヽコンタンヲヤリ居ルワイシカシ諏訪ヲ間ニ合セルニハ前ノ七十ノ機体ヲ組立ソレニ、グレゴアノ翼ヲ取付ケル筈ナレバ一時余ノ練習ヲ中止セザルベカラザルノミナラズ、ウマク飛バ其マヽニナリソ一ナノデ、余ノ今日練習ヲ初メ得タノハ一人ナツタ訳ニアラズ 多クノ人ノ後援ニヨルモノナレバソレ等ニ対シ余ノ信用ヲ落サザランコトヲオソルルコトヲ述ブ。村山氏ハ、グリーンンデ練習サセルト云ヒ居タリ。

夕方帰宅。日比谷ニ散歩。北ノ水平線ヨリ晴レ來リ風ツヨシ。

夜田辺氏ヲ訪ツモリナリシモ、川村宅ニテ受ニ入ツタ御祝イガアツタ爲メ、ハタサズ。十時二十分ノ終列車ニテ稲毛ニ帰ル

▲▼40ページ▲▼ 大正4(1915)年2月6日(土)

天気 晴

九時二十分ニテ豊サンヲ東京ニ帰ヘス 即チ七十ノ機体組立ノ爲メ 天久シ振りニ晴レテ風無クイト心地ヨク勇マシ 十時半ヨリ床屋ニ行キ十二時半帰ル 其中ニ風ヤ、出テ來ル 晝食後仕事シテ格納庫ニ飛行準備ニ行ク 風ヤ、ツヨクナル 中止シテ夕風ヲ待ツベク模型ヲツクル。夕方ニイタリ風益々ツヨク、ツヒニ夜ニ入ル 無念
夜近所ノ馬丁君ト大口、光子諸君ト歌カルタヲナス 十時床ニ入ル

▲▼41ページ▲▼ 大正4(1915)年2月7日(日)

天気 晴

強風ニハアラザレドモ風アリ。アキラメテ模型ヲツクル 汝干ク頃ヨリ風ヤ、ナギタレバ御晝過ギ浅間神社ニ参拜 仕度シテ待ツ 四時頃風マツタクナギテ絶好ノ練習日和トナル 今日ハ豊サン居ラザレバ大口君ト宿ノ主人ニ手傳ワレ機ヲ出シ自ラ廻シツケ黒砂沖合ヲ目表(ママ)トシテ走ル 機首ヲ轉ジテ帰ル時機ハ飛揚セリ 之レヨリ約三十分縦横ニ走り廻リ、ジャンプヲ行フ。飛揚スレバ方向定マラズ大テイ左ニ廻ルカタムキアリ。之レヲ直ス中ニ機ヲ下ゲル爲メ、シヨックツヨクニ三度バウンドスルコト度々ナリキ サレドモ幸ニシテ針金一本、ユルマザリシハ何ヨリナリキ

兎ニ角今日ノ練習員先日ニ比シテ又一曾イソガシカリキ。手モ足モ少シモ、止マラズ大ニツカル。鳳號ニテナセル時ハコンナコトナカリシモ機ノ安定モ宜シカラザルナラン

大口君ハテールガ少シ重イ様ダトノコトデアッタ。考ヘレバドーモソーラシイ 水平ニ飛行シタ時ニ目表(ママ)ヲ見ウシナイウノハ一ツハ機ノ前部ガ上ガツテ居ルカララシイノデ次ギカラハ目表(ママ)ヲ遠方ニ取ルコト、飛揚シテモ下ヲ見ズ目表(ママ)ヲ見ハナサザルコト、着陸ノ際ハ必ズスローニスルコトヲ後忖心付今後注意セザルベカラズ。

夜大口君ト雑談ノ中二十時就床

▲▼42ページ▲▼ 大正4(1915)年2月8日(月)

天気 晴

快晴ナラザル無風ノ上天気ナリ 午前中テールニ半度バカリ角度ヲ増シキールヲ取り去リ、ラジエーターニ水ヲ張り準備ヲト、ノエ置ク 晝食後浅間神社ニ詣デ社前ノ船板ベンチニ腰ヲ下シ松林ヲ通シテ海上ヲ瞰下シナガラ今日ノ練習ニ心得ベキ事柄ヲ繰リ

返ス内、心気共ニスミ渡リテ静カナル林ノ中ニ小鳥ノサ、ヤキノミ声エヌヤ、シバラク斗才所謂無我トデモ云フノカノ風デ居タガ突然後ロノ山ニ変ナ声張上ゲ來ル學生ニ、タノシイ夢ヤブラレタル心地シテ宿ニ帰ツタ

四時半機ヲ引出ス 例ニヨツテ小供ガ大勢サワギ出シタ

今日モ自分デプロヘラヲ廻シイツモノ方向ニ滑走シ初メタ

二度目沖カラ海岸ニ向ツタ時ニ六滑走ヲ永クシテ静カニ、上ゲ舵ヲ引イタ。ソシテ少シ水平ノマ、飛ンデ、エンジンヲスローニシテ心持下ゲ舵ヲ取ツタ。ソシテ地面ニ接近シタ時水平ニスベク手ヲ働カセタガドントシヨックガアツタ

三九二頁へ

(392ページへ続く)

▲▼43ページ▲▼ 大正4(1915)年2月9日(火)

天気晴

七時ノ気車デ八時半東京着 TMニ寄りタイヤートチユーブヲトノへ川村ニヨリ、スグ加藤君ニ行ク 大ロニ話シヲマカセ余ハ村山ニ金ヲ借りニ行ク。ギヤスリン一罐TMカラ持ツテ行テ居ケバ村山ガノチニ金ヲ支拂ツテヤルトノコトナリシモ実ハ金ガナイノダカラ金ガホシイノダガト、ロニ出セス其マ、帰ル。加藤ノ方ハ大吉。一度帰宅 川村サンデ御母サンニ又五円借リタ 三時頃四ツ谷ニ行キ帰途奈良原氏ヲ訪フ 不在 帰宅 夕食後、機ノ設計ト計算ヲナス 五十円デトニカク出來上ルノデ百円アレバ充分トワカッタ 七時頃ヨリ、田辺氏ヲ訪フ。マダ店カラ帰宅サレテ居ナカッタ マツ。風ツヨシ 格納庫気ニカ、リ浅草郵便局迄電報ヲ打ニ行ク。帰リシバラクシテ帰宅サル。今日ハジメテ主人ニ話シタバカリトノコト 明日當間サンへ電話ヲカケテ居クカラ十一時頃ニ行ツテ見テ呉レトノコトニテ十時頃帰途ニツク。アマリ寒イノデ雷門前デソバヲ喰フ ドーモ話ノモヨーガカンバシクナイ 実ニ余ハシラズ涙グマレタ

▲▼44ページ▲▼ 大正4(1915)年2月10日(水)

天気晴

十一時頃時ヲハカッテ當間サンニ行ツタ 万一ヲ頼ミニシセメテアス練習ノギヤソリンダケデモト思ツタ甲斐モナク伊豆地方へ旅行中トノコト イヨ、ダメトアキラメテ成行ニマカセルヨリ外ナカッタ。五円ノ金モ、ソーイツ迄モナイシギヤソリン買フコトモ出來ズ。マ、ヨ 明日カ明後日ハ白戸ノ方ガ來ル筈ダカラ其ギヤソリンヲ貰フコトニシヨト思テ帰ル 尙時頃大ロハ芝へ御参リニ行クトテ出タ 加藤君ガ來テ居タ 三時ニナツテモ五時ニナツテモ大ロガ帰ヘツテ來ナイニハ氣ガモメタ中ニモヒヨット、ナニカノコトカラウマイ話シ

デモ出来ヤシナイカト、ソシナコト迫考ヘタガ六時頃何事モナク帰ヘツテ來タ。デ宅ヲ出テ徒クツモリデ人形町迫來タ處夕食ガマダダト云ヒ出シ電話ニテ江東橋ニ行キソコデアソバヲ喰ヒ本所ステーションヨリ乗ル
十一時床ニツク

◆▼45ページ▲▼ 大正4(1915)年2月11日(木)

天気 雨

朝カラシト、降リトイテ止ミソーニモナイ 九時起床 御晝迄田辺氏ヘ礼状ト願状トヲ書キ日本飛行研究會ヘ練習日記ヲ書テカラ一ヶ月ニギヤソリンヲ二箱ヅ、寄附セラレタイト云フテヤッタ。午後キリ抜ヲ整理シ後格納庫ニ行キ一昨日ノ風デ落サレタスダレヲ直シテ居ル處へ、上ノ別荘ノ主人ガ來ラレ今先キノ農商務大臣ノナントカサンガ見エタカラ飛行機一寸説明シテ上ゲテ呉レトノコトニ、早速御見セシタ 別ニ説明スル程デモナカッタガ發動機ノ話ヤライトノコトナド何ントナク話シテ居タ。ソレガスムト小止ミナツタ海岸ヲ静遊館ノ方ヘ行カレタ後カラ二頭立ノ馬車ガ行ツタ。スタレガ出來上ガツテツルシテ居ル時帰ツテ來ラレタ一行ハ其大臣閣下余リセイノ高クナイ、ヤ、太ツタ血色ノヨイフランス髪ノウタイヲウナリナガラ徒イテ居ル人ト妻君ヲシイノト娘カソレトモ藝者カトモ思ワレル二十才位ノ女ヲツレテ居ラレタ

◆▼46ページ▲▼ 大正4(1915)年2月12日(金)

天気 曇リ後晴

今日ハ三リンボーデ金曜日ト來テ居ルノデ、タトエ汐ガヨクテモ、ガソリング、アツテモヤレナイ日デアル。ソレハ大口君カラ硬ク云ワレテ居ルカラデアアル
朝カラ三時頃迄タイヤノ破レヲ縫ツタ
御晝食中自動車ガ一台來タ 高橋サンガ修繕ヲシタノダソーデ其試運轉ニ飛行機ヲ見ニ來タノダトノコト。ガソリンヲ少シ貰フト思ツタガ向フサンガホソーデアッタ。ソレハ、ガソリンタンクヲ調べテ見テ東京迄足リルカシラント、シキリニ心配シテ居タカラ後チ、車輪ノ前ノ、折レタ、ボールトヲ取替ヘタ
夕方お光ちゃんニ雑誌ヲ借り小説ダケヲ讀ンダ
發信 白戸ニイツ來ルカ 都築ヘ車輪ノ件

◆▼47ページ▲▼ 大正4(1915)年2月13日(土)

天気 晴

朝チラ、雪ガ降ツタガ間モナク晴レテ、アタ、カナ天気ニナツタ。今日ハ終日模型ノ翼

ヲ作ル 七分通り出来上ガッタ

夕方入浴後浅間神社ニ参拜。例ノベンチニ依ツテ考ヘニシヅンダ。ソレハ今後ノ方針ニツイテデアッタ。ドー考ヘテモ、余ハ小策ヲ講ゼズ自然ニマカセタ方ガヨイト考ヘタ。夕日ハキラ、ト高い水平線カラ松ノ根先迄キラ、ト輝イテ美シカッタ

ソシテ、コイ紫ノムラ、シタ雲ハ一ソー美シサヲ増シテ見エタ。此雲デ十二三ノ頃ヤハリ此様な雲ヲ見テ嵐山ヲ思ヒ出シタコトガ不圖ウカンデ來タ。海気館横ヲ通ツテ海岸ニ出テ帰ツタ

海気館ノ若イ人ヤ女中ガ犬ニ猫ヲ追ワシテキヤ、トサワイデ居タ

◆▼48ページ◆▼ 大正4(1915)年2月14日(日)

天気晴

旧暦元旦 天晴レ風無ク汐時モ正午ガ丁度ト云フノダカラ寒ニタマラナイ。タマラナイガガソリンガナイノダカラ尚タマラナイ。店ヘ行クト今日何ゼヤラナイノト答(ママ)ワレル毎ニヒヤリ、トスル。シマイニ泣キタクナルノデセツセ模型ヲツクッタ。御晝前イヨ、トタマラナクナツテ豊サンニ、ガソリン一罐以(ママ)テ來ル様手紙ヲ書ク處ヘ丁度豊サンカラ手紙ガ來テ試運轉シタガプロ。ペラ破壊シタト報セテ來タ

朝浅間様ニ御参リヲシタ。目白ノ小サイ様ナ小鳥ガ沢山サエツリナガラタワムレテ居タ。夕方ハキレイデアッタ。スケッチヲ一枚シタ

◆▼49ページ◆▼ 大正4(1915)年2月15日(月)

天気晴

天気ヨケレドモ風アリ十時半迄模型 ソレヨリ千葉ヘ大口君ト寒川ノ築港ヲ見ニ行ク。行ク、ト汐干タル州ヲ視察シ寒川埋立地ニ着ク。東京ノ月島三號地ノ式倍程ノ廣サヲ有シ着陸場トシテ頗ルヨシ。ソレヨリ千葉町ヲ見物シ羽衣館前ノバーニテ晝食。停車場附近ノ頭ノ宅ヲ訪問ス。近頃頭ガ意地ヅクデ引カセタ茶屋女ヲ見ル。一寸シタ女デアツタ。帰途大口君ハヤシヤ、ボシヤクトカ云フ女ガ見レバヨイ木ヲ買ツタ。八十銭ノヲ廿五銭トハ寒ニ安カッタガ、フクノニモ驚イタ。ソイツヲブラサゲナガラ、テクテク帰り養生館ノ處ヲ山ニ昇リ松林ヲ通シテ、静カナル海岸ヲ眺メ飛ンデ見タイト思タ。ソシテソコデ大口君ト、イコイナガラ將來ヲ談ジテ帰ル

湯ニ入り浅間神社ノ神楽ヲ見タ食ハ今日千葉カラ買ツテ帰ヘツタ牛肉デ大口君ト一杯ノム。夜十一時過迄将碁(ママ)ヤ廻リ将棋ヲシテ遊ブ

◆▼50ページ◆▼ 大正4(1915)年2月16日(火)

天気 晴

朝カラ飛行機ノ手入レヲシタ。タイヤーヲ入レタガ、ヨイ方ハヅレテ仕方ナイノデ、悪イ方ヲ入レタ。二時頃少シ風ハアツタガ機ヲ出シ旗ヲ立テテ風見トナシ直線飛行六回ヲ行フ。初回十米突位上リ左ニ傾キ左ニ廻リナガラ下向ス。之レヲ直サントセシモ直ラズ、シキリニジレル。コーナルト目標モナニモモ一見エナイ。其内機ハ着陸シタ。先ヅ無事デアツタノハ何ヨリ天祐。三回目即チ黒砂方面ニ向ツタ時大口君ハ後チ二房州ノ山トスレ、ニ見エテ居タカラ十五米突アツタロトノコトデアツタ。其時エンジンスローニシ下柁ヲ取り陸ニ近ツイタトキ水平ニシテエンジンヲ全廻轉サセタガ一寸オソカッタ爲メ少シシヨクガアツタ。六回目ニイヨ、タイヤーガダメニナツタノデ中止シタ。今日ハ大口君ガガソリンヲ二升五合貰ツタノデアツタアトマダ大分アルノデ、タンクノ上ノ穴ヲ紙デ目張りシテ揮發ヲ防イダ後チラジエイター其他ノ手入レヲナス。明日東京ヘ行ク荷馬車ニTMニテガソリン一箱オイル一罐タイヤーヲ貰ツテ呉ル様手紙ヲツケタ。

▲▼51ページ▲▼ 大正4(1915)年2月17日(水)

天気 曇

東ノ風 今日ハ飛行出來ソーニモナカッタ。浅間様ノ御祭りデ笛ヤ太鼓ノ音ヲ聞キナガラ大口君ト、プレーンノ布ヲサイテ、ロップヲ三百尺バカリ作ル。一日カ、ツタ。ソシテソレデ、ユルイタイヤーヲホトンド巻イテシマツタ。御蔭デ丈夫ニハナツタガスコブル重イロップヲナイナガラ大口君ト飛行家ニナツテモロップヲオタイヤーヤガソリンデ苦シンダ。今日ノコトヲ忘レナイヨ。ニシナケレバナラナイトカ、ロップ買フ金ガナクテプレーンノ布デナウナドハ、イカニモナサケナイヤラ、カワイソーナドト話ス内、ロップヲ巻クト如何ニモ丈夫ニナツタノデ應急修理法トシテ、タイヤーガナクテモ大丈夫ト云フコトニナリ但(ママ)ソソレカラ進化シテツヒニロップ式タイヤーヲ作ルケイカクヲ立テタ。苦シマギレノ新發明 ウマク行ケバ御樂サミ、大笑ヲシタ。夕方裏山ヲ散歩シタ。カナリノ木ガ動イテ居タ。大口君ヨリ藤木君ニガキヲ出シテ呉レタ。

▲▼52ページ▲▼ 大正4(1915)年2月18日(木)

天気 曇リ

時々晴レタレドモ風アリ練習中止

朝食後田辺友三郎氏へ後援ノ件發信。同時三河村氏へ消息、鳥飼氏へガソリン、發送ノ件。

後チ模型

夜小供等トハジキヲナシ、後飛行機ノ設計

▲▼53ページ▲▼ 大正4(1915)年2月19日(金)

天気 雨風強

本日ハ北々東ノ風ツヨク晝迄ハ雨又多カリキ 終日グレゴアニテ飛ブベキ復(ママ)葉ヲ設
計ス

夕方河村氏ヨリタノマレ居タル家ノ件ニツキ返事アリ其趣キ河村氏ニ通知ス

▲▼54ページ▲▼ 大正4(1915)年2月20日(土)

天気 晴

空晴レタガ相変ラズ風ガアッタ 十時頃豊サンガ、ガソリンヲ以ツテ來テ呉レタ。午後
イ、アンバイニ風ガナイデ來タ 三時頃、イヨ、ヤルコトニシタ。昨夜少シ不ジヨーナコ
トガアッタノデ氣ニシテ浅間様ニ參ッタリシタガテ練習ヲ初メタ 二時間バカリノ間初
メハヒノキノ細型ノプロペラデヤッタガ面白クナイノデ、チークノ分デ初メタ 実ニ調子
ノ好イコト 二十五米突位追上ガッタトノコト 下ゲ舵ラシイ下ゲ舵モ今日初メテ取ッ
タ。ボールプランモヤ、ウマク出來ル様ニナッタ 貝掘ノ頭ノ上モ初メテ飛ンダ 波状飛
行モ三度バカリヤッタ

事故ハ一尺バカリノ木杭ヲ飛ビ越セルツモリデ行ツタ處上ガラナクテ機体樞間ノワイヤ
ー壱本切断 一本ユルミ、プレーン樞間ノワイヤー一本ユルミタリ。後チ、エンジンミツ
ハゲシク飛揚セズ 明日マグネトヲ大口君ニ手入レシテ貫フコトニシテ中止

夜TM夫妻河辺、川村、加藤、白戸、田辺。千葉ノ鳶ニ仕事師二人バカリ格納庫修繕
ヲタノム

本日田辺氏ヨリ返翰アリ 當間氏両三日中ニ帰京其上ガソリンダケデモ贈ルトノコト
ナリシ

▲▼55ページ▲▼ 大正4(1915)年2月21日(日)

天気 晴

上天氣デアル 仕度ヲシテマグネトヲハヅシ分解シタ 随分ヨゴレテ居タ 御晝頃終ル
豊サンハ車輪ヲ直ス 汐干ク頃ヨリニハカニ風ツヨクトートー今日ハダメ
夜花ヲ引ク

▲▼56ページ▲▼ 大正4(1915)年2月22日(月)

天気 晴

八時頃迄風ナカッタガ後チ吹き出シタ 今日モダメト思ツテ模型ノエンジンヲ作ル 晝
過ギ店ニ休ンダ荷馬車ガ馬ガアバレテ、柁棒ヲ折ツテシマッタ
二時過ギ白戸君ガ來テ呉レタ 茶ヲ入レ内デハ話ガ出來ナイノデ格納庫ニ行キ様子ヲ
聞イテ見タ ソコハ豊サンガ來タノデ今度ハ川上サンノ内ヲ借りテ話シタ。エンジンハ村山
ハ買フガ其レ以上ハ一文モ出サナイトノコト 鳥飼ハアノマ、デナケレバ機体ヲ改良サセ
ナイ、プロペラ買フニモ金ノ出シ手ガナイトノコトデ毎日小田原評議ヲシテ居ルノダト
ソコデプロペラハ白戸ガ加藤ヲ話シテ心配シ機体ハアノマ、トシテ、エンジンノ動力ナイ迄
ステーヲ入レサセテ持ツテ來テハドーカト話シタ。ソシテ僕ノ方モ田辺ノ方ガウマク行カ
ナイカラ

(393ページへ続く)

▲▼57ページ▲▼ 大正4(1915)年2月23日(火)

天気 曇リ後雨

時事 東京大坂間大飛行 六時半所沢發九時静岡着 十時過静岡發十二時過ギ名
古屋着 モ式十五十六号 沢田坂元

八時起床 風無ク曇リタレドモ好天気ナリ 午後ヨリ少シ風出ズ 然シ大飛行ヲヤル
先生タチニハ、サシツカエノナイモノデアル。余ハ練習ヲ止メ検見川へ模型材料ヲ買ヒニ行
ク 金ナク帰途風ツヨク雨フリビシヨヌレニヌレテ帰ル頃雨上リタリ

大口君足ノ腫物ヲ千葉ノ醫師ニ見テ貰ヒニ行ツタ チョーダトノコト モーニ三日シナ
イト切レナイ由

夜花ヲヤル 就床後オ光チヤンニ借りタ講談俱樂部ヲ讀ム 何時頃カシラヌガ多分二
時乃至三時デアッタロー

▲▼58ページ▲▼ 大正4(1915)年2月24日(水)

天気 晴

快晴ナレ共風アリ 午後ニ至ルモ益々強シ

汐変リニテ一両日イツモ満潮 此間ニ經濟ノ方ヲ奔走シテハ如何カト云フ大口君ノ注
意ニ三時十五分デ帰途ニツヒタ

本所デ下車 菊川町ノ都築氏ノ工場ニ行ク メインスパークガ出來上ガツテ居タ 川辺
君ト矢野君ニ會フ 都築氏不在 本日大崎へ引越トノコト

夜IMニ行ク 例ニヨツテ御女将サンガゴボスノニハ困ツタ

大飛行中止

▲▼59ページ▲▼ 大正4(1915)年2月25日(木)

天気 晴

時事 大飛行風強ク中止

八時朝食新聞 御晝前加藤ニ行キ午後白戸 夜浅草今戸行キノ豫定ノ處ト、御晝迄店デ雑談シテシマッタ 晝後加藤ニ行キ遊ブ中白戸、村山、二人デ來、イヨ、試験スルコトニナッタトノコト 加藤ノ一米突八百ノプロ。ペラ穴開ケルコトニシテ、ホースヤ板金ヲ買ヒ村山氏宅ニ行ク。加藤ヨリプロ。ペラ半金デモヨセトノコトニナリシモ村山氏ガ話シテ事済ミ。白戸モ実ニカワイソデアッタ
夕方白戸君宅ニ行キ入浴 夕食 又妻君來月カラドコカへ行クトノコト 白戸ノ言、ドーナルコトガ？

七時半今戸ニ行クベク出タガ途中デ思案ヲシナオシ加藤ヲ訪ヒ時計ヲ入質シ二円五十錢ヲ借り村山氏宅ニ行キ白戸ガ話シテ居イテ呉レタノデ五円貰フ
帰宅十時 十一時床ニ入

▲▼60ページ▲▼ 大正4(1915)年2月26日(金)

天気 雪

曇ツタ寒イ日デアル 八時起床 TMニ行キ機運搬ノ仕度ヲナスニ夕方迄カ、ル朝九時頃ヨリ雪トナリ午後余程ツモッタ
夜十一時頃雨ニナッタ

▲▼61ページ▲▼ 大正4(1915)年2月27日(土)

天気 雨

終日ビシヨ、、雨デアッタ

午前中在宅 午後都築サンニ行クツモリノ處TMヨリ電話ニテ諏訪ノ濱サンニ見セル爲發動機ヲ廻スカラ來テ呉レトノコトニ行ク。ラジエーターノホース細クカツプロ。ペラ止メノ大ナツニ合フス。パナーナイノデ芝迄買ヒニ行ク。ツイデニ村山ニ立寄ル
四時帰り、ツヒニエンジンハ廻サズ荷造リ 馬車屋へ明日來ル様電報打ツ
夕方帰宅。北海道ノ神氏ヨリ手紙來 ノーム七十二ツキマダゴタ、シテ居ルノデ都築氏野島氏星野氏ノ関係ヲシラセテ呉レトノコト

▲▼62ページ▲▼ 大正4(1915)年2月28日(日)

天気 晴

九時宅ヲ出テ本所ニ都築氏ヲ訪フ 機体ノ後部ヲ組立中デアッタ 御晝モ御馳走ニナリ二時頃迄遊ンダ 其間ニ金ヲ少シ借リタイト口迄來テ居テト、云ヘナカッタソ

シテ二百円アレバ機体ヲ造ツテ練習ガ出來ルコトヲ話スト金主ヲ世話シテヤルト云ワレタ。ドーダカ、アテニナラナイガ何分宜シクト頼ンデ歸ル 其足デ日曜ヲ幸ヒ田辺氏ヲ訪フ 丁度今シガタ天気ガヨクナツタノデ出テ行ツタトノコト。妻君ノ話デハ當間サンガマダ帰ラズ高井サンハ當間サンガ、ナントカスルナラト云フ様ナ口振 トーテイ見込ナシト思ツタ、ガナシデ済マシテ居ラレヌ。ア、
四時帰宅 TMヨリ荷物ヲ積ムカラ來テ呉レトノ電話ガアツタトノコトニ行ク モー積ンデアツタ。余今夜發ツコトニ決ス
夕食後六時四十分ニテ稲毛ニ行ク 御母サンニ話シタラ、イクラカト思ツタガ神田ノ御母サンガ來テ居テ話セナカッタ。大口君ニ以上ノ事實ヲ話シテ六円ダケ拂ヒ居ク

▲▼63ページ▲▼ 補遺

夢事に
物おうような
人ごころ

▲▼64ページ▲▼ 三月行事

一日ヨリ四日迄グリーンノ試験
五日ヨリ十一日迄練習
十二日ヨリ東京 グリー製作ノ準備

▲▼65ページ▲▼ 大正4(1915)年3月1日(月)

天気 晴

昨夜風ツヨク今朝四時半頃ヤ、静マリテ安眠ス
八時起床 馬車來ル 朝食後丁度來リタル千葉ノ仕事師ニ手傳ヒヲタノミ機ヲ下ス
グレゴア機体ヲ分解シテ下総屋ノ庭ニ入レ、グリーンヲ組立ツ。夕方日落チル迄ニテールト操縦線ヲツケル
今日大口君ニ頼ンデ又五円白戸ノ内ヨリ思切ツテ支拂ヒヲシタ。ナントナク顔見ラレル
ノガキマリガ悪い様ナ心持ガシタノデ
河村氏ニ以後日々潮時發信

▲▼66ページ▲▼ 大正4(1915)年3月2日(火)

天気晴

朝風強シ 夕方ナグ

午前中機ヲ組立、プレーンハ明日ニシテ休ム

頭重クイヤナ日ナリ。夕方白戸來

夜花ヲ引ク。例ニヨツテ余ガマケ、酒三本ト肴ヲオゴル 一時床ニ入ル

▲▼67ページ▲▼ 大正4(1915)年3月3日(水)

天気晴

風無ク波静カニテウラ、カニ、アタ、カナリ

機ノ組立ヲナス 九時頃村山園田両氏來 十時頃鳥飼氏來 一時頃出來上リ、プロペ
ラ附セズニ、エンジン廻ス 調子ト、ノワズ 海ニ出シプロペラヲ付ケ廻ス。ヤ、良シ。サレド
モ回轉数少ナク引力又百四十キロ位。後手潮上ゲ來ル頃一廻リ滑走ス 僅カニ離陸シ
タルノミ

後漸ク新機製作ニ決ス。余ハ明日グレゴアニ組立替ヘヲナス

晝過河村氏來。パンヲ持參セラル 皆晝食ナサ、リシカバ、ウマク喰フ 五時四十分ニテ
皆歸ル 停車場迄送ル

エンジン、セルフスターター中々カ、ラズ大ニメンドーナリキ

▲▼68ページ▲▼ 大正4(1915)年3月4日(木)

天気晴

絶好ノ飛行日和ナレドモ終日組立ニ終ル

昨日今日二日間飛行日和ノ損害多大ナリ

大口君東京ニ行ク 夜終列車ニテ歸ル

▲▼69ページ▲▼ 大正4(1915)年3月5日(金)

天気 曇風雨

午前中ト云ツテモ二時頃晝食 ソレ迄機体各部分完全ニス 夕方浅間神社前ニテ、イ
ツモノ如ク波ノ音松ノ声、鳥ノ囀ヲキ、將來ヲ思フ。ドーモ成行ニマカスヨリ外ナイ
昨日ニ引カエ今日ハ残念ナ天気デアル 夜花ヲヤツタ 風マッ、ッヨクナツタ 十一時半
眠ル

昨日大口君ニ買ツテ來テ貰ツタ模型用布ヲ今プレーンニ張ツタ キレイニナツタ

▲▼70ページ▲▼ 大正4(1915)年3月6日(土)

天気 晴

時事 海軍フ式墜落三人死ス

午前中模型ノ布張り並ニ塗料研究 ドーサノコキ分最モ宜シキ様ナリ
午後風ナギタレバ二時頃浅間神社ニ参拝 機ヲ引出ス。風少シアリ。本日ノ豫定直線
ヲ長クタモツコト 風ナケレバ一角廻ルコトナリシニ三時半頃沖ニ向ツテ横風三米位ヲツ
キツ、進ム手キマラス且ツ方向ト同時ニ左右ノ安定ヨロシカラズ カナリ急(ママ)ガシカ
リシモ無事着陸 スローニテ回轉一寸考ヘシモ風ナキ様子ニ黒砂向ツテ走ル。三木ギワニ
テ上ゲ、水ヲコシテ着陸セントセシニ尾廻サレタレバ之レヲ直シツ、進ム 二機ハ次第二廻
轉ヲ初メタリ。エ、マ、ヨ 轉ント少シ上ゲシモ、カシガリタレバ下ゲテ直ス内五六ノ貝掘
アリ 水平ニセシモスデニ益々カーブヲ初メ如何トモ直ラズ 一度ドシントツキテ又飛
上リタレバ其時スデニダメダト思ヒシモ何ントモナキマ、今少シデ風向フ處ト急廻轉セシ
時機ハ地ニ前左ヲツキタレバ返(ママ)動ニテ右翼ヲ地ニツキ機ハ破壊ス プロペラト足五本
エンジン無事

豊サン東京へ材料取ニ行ツテ貫フ 丁渡後鳥飼氏へ詫状 河村氏へ報告
夜グリーンノ設計 十二時過ギニ及ブ 豊サン帰り來ル

▲▼71ページ▲▼ 大正4(1915)年3月7日(日)

天気 曇少雨 暖

八時起床 修理ヲ初メ夕方前方ノ分ダケ終ル 以前ヨリ軽ク且ツ立派ニナツタ
修理中色々考ヘテ見タ 要スルニ昨日ノ失敗モ目表(ママ)ヲ確立セズ飛揚シ廻サレテ初
メテ、エ、廻ツテヤレト云フ氣ニナツタノガヨクナカッタノデ、アノ場合追風デモ、エンジン
ヲ充分働カセタマ、眞直クニ着陸シテシマエバ決シテアヤマチハナカッタデアロー
廻轉ニ決シテカラハ、カシカツテモ下ゲ舵ハ取ラナカッタ方ガヨクカッタカモシレナイ。ソー
スレバ今少シデ風ニ向ツテシマウノデアッタカラモーアノ時五米突モ高サガアレバヨクカッタ
ロート思ツタ

海軍フ式十五號安達大尉操縦武部中尉柳瀬水兵同乗追濱ニテ昨日墜落三名共慘死。
ヨホド負傷シテ居タトノコト 余一人カト思テ居タガ供達ガアツテシカモ死ンデシマツタ
ト聞イテハ、マダ天祐ノアル處ト嬉(ママ)バザルヲ得ナイ
夜グリーン計算ヲナス

▲▼72ページ▲▼ 大正4(1915)年3月8日(月)

天気 晴

今日ハオシイ日デアッタ 朝風ツヨカッタガ午後ハ、シダイニ静カニナツテ、クヤシカッタ
終日修繕

夜プロペラノピッチヲ計ルモノツクルベク設計且ツ計算シテ夜ヲ更ケタ
仕事中一昨日ノ失敗ヲ繰カヘシテ考ヘテ見タ。アノ一度車輪ガツイテ飛ビ上ガッタ、シ
ユン間ニモ直尚ホ直スベキ法方(ママ)ノアッタコトガワカッタ。ソレハ左廻轉ヲシタノダカ
ラ、アノ時スグ、ウント思キツテ右カジヲ取り水平ニノバシテ着陸シテモ或ハノガレ得タロ
ト思ツタ

▲▼73ページ▲▼ 大正4(1915)年3月9日(火)

天気晴

夕方迄ニ修理完成ス 以前ヨリ、ヨクナッタノミナラズ軽ク且ツ丈夫デアッタ。夕方風
ナギタラシイノデ引出シタガ沖ハナカ、風ガアッタ。シカシ今日ハ日ガ好イノデ一寸デ
モ、ヤツテ居キタイト思ヒ沖ノ方ヘ待(ママ)シ山ニ向ツテ風ヲキツテ直線飛行シタ 羽根
ノ工合其他スベテヨカッタガ、ナニシロアマリ例ニヨツテ安定ハ確カデナカッタ
今朝村田六郎ト云フ活辯ヲシタ男ガ來タ。ナンデモ新潟ノ有志ノ後援デ飛行機ヲヤル
ノダトカ。夜大口君ハ之レヲ、一ツモノニシヨト思テ大分話シテ居タ
夜プロペラピッチ計算尺ノ計算表ヲツクル
一時床ニ入ル

▲▼74ページ▲▼ 大正4(1915)年3月10日(水)

天気晴

時事 支那へ出兵ス

午前中風アリ 格納庫ノ掃除ヲナス

二時頃風ナギタレバ引出ス。少時ニシテ西風ハ東南ニ変ジヤ、強クナリタレドモ一廻リ
滑走ヲナシ中止ス 千葉ヨリ写真師來 五時頃村田大口両君千葉ヨリ帰り記念ノ写
眞ヲ取ル 日落チル頃風全クナクナリタレバ一往復飛シ良好ナリシモ車輪二個。パンクシ
テ、ヤ、考ヘタレドモ風ハナシ大抵大丈夫ト黒砂目表(ママ)ニ滑走飛揚又飛揚 約四十
米突迫上ガッタトノコトデアッタ。ソレカラ下シタガ高イノデ下ルノニ中々一寸降りナ
カッタ。シカモ車輪ガ、パンクシテ居ルカラ、シツカニ水平ニ降サナケレバ、イケナイカラ、
大口君ハ發動機ヲ廻シタマ、降りロト云ツタノデ其通りシタガ右ノ方少シ早く地ニツキ
櫓ノ後部ヲ打ツタ爲メ櫓ハ車輪ノ附根カラポッキリ折レテシマッタ 其他ニ故障ハナカッ
タ ヤハリボールプランデ降りタ方ガヨカッタヨ一ニ思ワレタ
白戸飛行機ヲ新造スルコトニナツタカラ帰ヘツテ呉レトノコトニ今夜行クツモリノ處壞レ
タノデ、オソクナツタ

▲▼75ページ▲▼ 大正4(1915)年3月11日(木)

天気晴

五時過ぎ起床 大口君ト帰京 都築氏ノ工場ヲ見テ京橋ニ帰ル。鳥飼ニ一寸行キ帰宅
練習ハ一時中止シテ白戸ノ方ニ行ク事ニ決ス

十一時白戸ニ行キ自分設計ニモトツキ材料ヲ書キ出ス 夕食後帰り大口君ハ浅草ノ村
田屋ニ行ク 余ハ鳥飼ニ行キ飛行機ハ稲毛ニテ引渡シプロペラハ加藤ノ方ガ都合ガツケバ、
アノプロペラニテ辨賞(ママ)シオクコト 悪シケレバヨシ 格納庫ハ野島ヨリ僕ガ借り僕ヨ
リ鳥飼氏ニ貸スコトニ改メ上総屋ノ支拂ハ今日迄僕ノ負擔 明日ヨリ豊サンノ分ハ鳥飼
氏ノ負擔トシテ決ス

帰宅 御母サン二十五円ばかり借りテ一先ツ稲毛ノ方ヲ引上ゲヨート思ツタガ河村サ
ンモ御母サンモ留都(ママ)。若シヤ、サケタノデハナイカト、ヒガンデ見タ。デ約束ハ違ウ
ガ大口君ト終列車ニテ帰ル。車中村田君ノ方ノ話ヲ聞クト飛行機ヲツクルダケ出来ソ
ーダトノコトニ、若シ出来レバ白戸ノ一人ノ爲メニ、イツ迄埋モレテモ居ラヌノデ、エン
ジンノ方ハ僕ガ鳥飼氏ニ談ズルコトニ決シテ稲毛馱へ明早朝村田君ニ來稻スル様電報ヲ
打ツテ貰フ

十二時帰宅 御吉一人起キテ居テ御湯迄ワイテ居タ

▲▼76ページ▲▼ 大正4(1915)年3月12日(金)

天気晴

九時頃村田君ガ來タ 昨夜ノ如ク話ハ進行シテ村田君ハ千葉へ写真ヲ取リニ行ツタ 僕
ハ午後ノ気車デ鳥飼氏ニ交渉スベク東京ニ帰ツタ。帰途津田沼ニ下車 馬車屋へ明朝機
ヲ運ブベク稲毛へ行ク様タノンデ帰ツタ

御母サンニ相談シタ處明日大口君ガ來テカラ鳥飼サンノ方ハ話シタ方ガヨカロートノコ
トニ、ソースルコトニシタ

▲▼77ページ▲▼ 大正4(1915)年3月13日(土)

天気雪

雨ガ朝カラ雪ニナツテ降ツタモ、々々方迄休ミナシトドー五寸ばかりツモツタ
大口君ハツヒニ來ナカッタ

▲▼78ページ▲▼ 大正4(1915)年3月14日(日)

天気晴

雪ノ朝夕ハ日本晴レトハキマツテ居ルガ実ニ氣持ノヨイ日デアッタ 終日大口君ノ來ルノ
ヲ待ツタガ來ナカッタ 夕方馬車ガ機ト發動機ヲ持ツテ來タガ事ツケモノカッタ

今朝村山氏へ白戸君が來たら電話ヲカケテ貰フ様カケタガ茲數日間一寸モ來ナイトノコト。村山氏モナシダカ、ワケガワカラナイカラ、一寸來テ呉レトノコトニ晝食後行ク多分稲毛デデモ居ルノデアロー。設計ハ出來テ買フベキ材料モ書キ出シテアルコトモ話シタ

夜チラ、又雪ガ降ツテ居タ

▲▼79ページ▲▼ 大正4(1915)年3月15日(月)

天気 晴レ

今朝大口君カラ三時ニ行クト云フハガキガ來タ。デ僕ハソレ迄ニ歸ル約速(ママ)デ白戸君ノ處へ行ツタ。ソシテ村田君ガ新機ヲツクリ其間鳥飼氏ノデ練習シ出來たら鳥飼氏ノ發動機ヲ借リテ新鴻デ直線飛行ヲシテ村田君ノ後援會ガ出來ルトニナルノデ僕ハ其間ニ兎ニ角練習ガ自費デナク出來ルト云フダケデヤツテ見タイト云フコトヲ話シタ白戸君モ、コバム權利モナシ 又僕ノ爲メニハ賀スベキコトシテ承知シテ呉レタ。シカシマダ具体的ニマトマツタ、ワケデナイノデ、イツレキマツタラト云フコトニシタ。兎ニ角又僕ガ別ニナルト云フコトハ白戸ニ対シ氣ノ毒デアアルガ今日迄ノ自分自身ハ中々ヤツパリ氣ノ毒ナノデアッタノダカラ、今ノ場合ソー白戸君ノ爲メイツ迄モ犠牲ニナルコトモ出來ナイノデアアル。丁度三時帰白戸君ハヤハリ二三日病デ寢テ居タノデ材料ヲ買ベキモノヲ書出シ村山ノ處ヘソレヲ、トドケ帰宅 丁度三時前デアツタ 大口君ハ一時頃ニ來テ川村サント投球ヲシナガラ待ツテ居タ。村田ノ方ハ着々進行シテ居ルトノコトデ僕ハ鳥飼ノ方ヲ交渉スルコトニシテワカレタ

▲▼80ページ▲▼ 大正4(1915)年3月16日(火)

天気 晴

午前中大口君ガ來ルト云フノデ待ツタ 御晝頃白戸君カラ來テ呉レト電話ガアツタ 少時シテ大口ト村田両君ガ來タ 今朝鳥飼氏ヘ發動機ヲ借リタイ話シヲシタガ、アマリ方々手ヲクゞルト自分一人ノモノデモナイカラ、メンドーダカラ僕自身デ練習スルナラ費用シテモヨイト云フロ振りデアツタ 其コトヲ話シタラ大口君ノ方ハ玉井ノ發動機ヲ借リ入レルベク玉井君ニ面會ニ行ツタ。コレデ僕ノ方ハ村田 大口君トハ両君ガ出來上ガツタ時試運轉位ニ行ケバヨイト思タ。ソレカラ村山氏ニ行キ白戸君ニ會フ 製作ニツキ協議見積リナドナシ鳥飼氏ノ機体ヲ買フベク話シタガ鳥飼君ガ來タリシタガ決極(ママ)不調ニ終ツタ

發動機ガ借レナクテ僕ガ村田君ニシラノ義務ヲツクサナイノデアアルカラ上總屋ノ拂ヒノ爲メニ村山氏二十五円先月分ダケスマスコトニシテ金ヲ借リテ夜十時頃帰宅

スルト今夕鳥飼氏ガ川村氏ヲ鳥屋トカニ呼ンデ僕ト一所ニヤリタイ様ナ話シデアツタ

トノコト シカシ、今迄鳥飼ト云フ人ニツイテ好イコトヲ聞イタコトノナイ人ダカラ僕ハ
タメラッタガ今夜考ヘルコトニシタ

▲▼81ページ▲▼ 大正4(1915)年3月17日(水)

天気 晴

昨夜カラ考ヘ直シ又御母サンヤ川村サント相談ノ結果鳥飼氏ノ要求即チ氏ノ機ト費
用デ練習シタト云フコトニ対シ、技術修得後ドノ位迄ノ條件ニヨツテ報恩スルカト云フ
問題ニツイテ九時頃鳥飼氏ヲ尋ネタ 問題ハ安外ヤサシカッタ。要スルニ徳義ノ問題デ
別ニコアアト云フ條件ノ下ニ契約書ヲ書クノドノト云フコトハナク練習ガ出来タ上
ハ機ヲ新造シ其内飛行ノ申込アツタ時ハ御タガヒニ相談ノ上行カウト云フノデ、ソレデハ
全ク無條件モ同様デアルノデ帰宅 早速相談ノ上ヤルコトニ決シ白戸君ヲ電話デ呼ン
ダ。御晝白戸君來 練習スルコトヲ話シタ處自分ノ方ハ、カマワナイカラヤッタ方ガヨカ
ロート賛成シテ呉レタガタ辺借リタ金ヲ村山氏ニ返却シナイト変ナモノニナルノデ白戸
君ニ相談スルト、ソレハ帰ヘテ村山ニ話シテ見ルトテ帰ツタ。後チ電話ニテ製作約十一ヶ
月ダケ手ツダツテ貰ヒタイトノコトデソースレバ、上總屋ノ拂ハ全部心得

三百九十五頁へ

(395ページへ続く)

▲▼82ページ▲▼ 大正4(1915)年3月18日(木)

天気 晴

八時起床 手荷物ヲト、ノエ十一時ノ列車ニテ大口君ト共ニ帰京 二時頃大口君村田
二行キ余TMニ、ダイナモメータートタンク、ナイフヲ持参。後村山ニ行キ製圖ヲナス
夕刻帰宅鳥飼ヘアングルヲ返ス爲メ芝公園前ヲ日比谷ニ出ズ。夕食ヲ馳走ニナリモ式
ノ塗料ナリト云フ液ヲ貰ヒ帰宅 試験ス マルデ、ザボンエナメルト少シモ変ラズ

▲▼83ページ▲▼ 大正4(1915)年3月19日(金)

天気 晴

七時半起床 朝食ガ大変オソクナツテ十時頃村山ニ行ク 製圖 夕刻加藤ニ寄り帰宅
夕食後、ソケットノ模型ヲツクリ、TMニ行キ前機体ヲ調べテ帰ル 十一時床就ク

▲▼84ページ▲▼ 大正4(1915)年3月20日(土)

天気 晴

八時朝食後都築氏ノ工場へ矢野君ト訪フ 御晝迄待ツタガ來ラズ帰宅 午後村山ニ行キ製圖 夕方帰宅

▲▼85ページ▲▼ 大正4(1915)年3月21日(日)

天気 晴

七時起床 久シク湯ニ入ラナイノデ朝湯ニ行ク
八時朝食モ終リ村山ニ行ク 三時頃迄一人デ製圖 白戸來ラズ 圖モヤ、出來上ガツタノデ板ヲ持ツテ來タヲ幸ヒ工場ニ現圖場ヲ作り四時頃白戸ニ行ク
妻君ガ大變悪イノカト思ツタラソノデモ無ク今日ハラジユムニ行ツタトノコトデアッタ。ソレカラヲ食ヲ馳走ニナリ酒ヲ呑ム 白戸ト別レテモ今後尚親交ヲ結ムベク將來ヲ談ジ後花ヲ引キ式ケ年大勝シテ終リノ一ケ年ニキレイニ〇トナル
今朝村山へ行ク往路宅ヨリ村山氏宅迄歩数四千二百八十五歩アリタリ 新橋ステーション迄約千五百歩

▲▼86ページ▲▼ 大正4(1915)年3月22日(月)

天気 晴風

今朝白戸ト都築氏ノ工場へ行クベク約束アリ宅ニテ待合ス 來ラズ 十一時頃電話ニ行クカラ尾張町迄出テ居テ呉レトノコトニ待合セテ行ク
矢野君ヨリ、ライトノカーブヲ貰フ
午後モ本日ハ休ム

▲▼87ページ▲▼ 大正4(1915)年3月23日(火)

天気 雨

余(ママ)朝鳥居ノ現圖ヲ引ク
木型屋ノ方キマラズ グズ、ニテ一向ハカドラズ、決(ママ)局他ニヤラセルコトニナツテ白戸ト木型屋ト木ヲ深川へ買ヒニ行ク ズイブン吹ブクデアッタ
余ハ午後仕事ヲナサズ、蓄音機ヲ聞ク

▲▼88ページ▲▼ 大正4(1915)年3月24日(水)

天気 晴

八時半村山ニ行ク。波多野來 エンジン分解ス

朝材木來 元加藤ノ弟子湖島ニテヤラセルコトニナル
余現圖ヲ引ク

鳥飼昨日稲毛ニ行キ川辺ヨリ大口宛ニテイヤミナ手紙ガ來テ居タトノコト 僕ノコトモ
ナントカ書イテアッタトノ由

▲▼89ページ▲▼ 大正4(1915)年3月25日(木)

天気 曇リ

時事 解散後ノ總選舉アリ

六時半起床 八時五分前村山宅ニツク

大工來 機体鳥居ヲ組マセル 一日カヽル

エンジン組立ハ油ナク仕事ハカドラズ

午後鳥飼氏來 マグネト分解

夕方ヨリ雨雪フル

▲▼90ページ▲▼ 大正4(1915)年3月26日(金)

天気 雨

雪マゼリノ雨 七時頃宅ヲ出デ桜田本郷町デモービルヲ求メ村山ニ行ク

大分急(ママ)ガシクナツテ來タ

夕方モ七時ニナツテヤット帰ル

夜此間カラ遊ブノガ氣ニナツテ居タノデ今夜ハ代数ノ講義録ヲ引張り出シテ來タ

▲▼91ページ▲▼ 大正4(1915)年3月27日(土)

天気 曇リ

七時起床 朝食後スグ出懸ケル

エンジン本日今先ヅ出來

機体モ組立ツ アトハ金物ノミ

此間請求シタノニマダ手續キガ出來ナイノデジクヽシテシモー

七時帰宅 夕食ハ皆サント一所 メヅラシク今日ハ皆サンノ御飯ガオソカッタ

久シ振リデ和服ヲ着タ サツパリトヨイ氣持

今日ハ大分、ゴタヽシタト見エ妻君カラ色シナコボレ話シヲ聞イタ。岩ドン迄氣(ママ)嫌

ガ悪カッタ

神田ノ宅カラモ借金ガアルトノコト 僕モベンヽヤツカイバカリナツテ居ラレナイ 早く

ナントカナツテ報恩ヲシナケレバナラナイト今更ラシク氣ガセカヽシテ來タ

◆▼92ページ▲▼ 大正4(1915)年3月28日(日)

天気晴

昨日大口君伊勢ヨリ帰り電話ニテ本日來ルトノコトニ川村氏へ云イ居キシテ八時村山ニ行ク

今日ハ木型屋ノ方ト二三度行キ來シタ

明日ヨリ翼ヲボチ、組メル

六時半ノ帰宅 トー、ノンキノ守ヲハツキシテ來ナカッタ

御母サンハ巢鴨

◆▼93ページ▲▼ 大正4(1915)年3月29日(月)

天気曇

今日カラ翼ヲ組ミ初メタ。余ノ方ハ機体ノ後部ガ出來上ガッタ アトハ金モサエクレバ組メル迄

夕方早ク帰ル 夜大口君來 川辺君ノ手紙ヲ持ッテ來テ呉レタ 野島氏ハ伊勢デ十日頃飛行スル由

今日終日板ノ間デ機体足ヲケツツタノデスツカリ、ヒエ込ンデ仕舞ツタ。ソコへ帰ッテ大口君御土産ノ大キナ蛤ヲ喰ツタノデスツカリ腹ヲ悪クシ時々キュート痛クナッテ便所へ通フ様ニナッタ 夜腰ガ冷エテ、タマラナイノデ湯タンポト、カイロヲ入レテ寢ル

◆▼94ページ▲▼ 大正4(1915)年3月30日(火)

天気晴

朝カラシク、腹ガ痛ンダガ何ンシテモ薬買フ金モナイノデ我マンシテ行ツタ 神明ノ前迄行クト大分痛ンデ來タ。カケル様ニシテ行ク。湖島カラ呼びニキタノデ行クト丁度白戸ガ來タ處デアッタ。御晝ハ釜揚ウドンヲ半分ばかり喰ツタ。ソシテ午後八休スコトニシ村山ニ五十錢借電車デ帰宅 床ニツイタ。平均一時間毎ニキリ、ツト痛ンデ便所へ通ツタ 六時過ギ大口君來。ソレハ腹カタルデ、シボル様ニ痛ンデ便ガ一寸シカナイノガ、ソレニ血ガマジル様ニナレバ赤利(ママ)ダト云ノデ八時頃大口君ノ帰ルト同時ニ富岡サンへ行ツタ。ヤハリ赤利(ママ)ノチョーコトダトノコトニ驚イタ

八時下済(ママ)ヲカケ九時一寸 十時ニヤ、多ク下ツタ ソコヲ水薬ヲノミ十一時ニ便所へ行ツタガ出ズ 十二時ニ一回下ル ドーモ下利(ママ)ガ少ナイ様ニ思ツタノデ醫師ノ云フ通り又水薬ヲノム 一時ニ時三時一廻ツ、行ク 氣ニシテ、フイタ紙ヲ見ルトドーヤラ血ガ交ジッテ居ルヨウダ。サー心配デ、自分ハキラメガツイテモ此宅ニ迷惑ヲカ

ケルノガ心クルシカッタ 二時ニノンダ散薬ガキイタカ三時カラ後ハツヒニ痛マズ便所ニ
行カナカッタ

◆▼95ページ◆▼ 大正4(1915)年3月31日(水)

天気 晴

朝オモ湯ヲコップニ七分程 十一時迄ハ時々一寸痛ンダ位デ便所ニモ行カナカッタガ十
時ニ水薬 十一時ニ、カタクリ 十二時前ニ散薬 十一時ニ便所ヘ行クト、ベットリ血デ
アツタニアイヨ、ゝ気味悪クナッタ ソレカラハ約十分毎位ニ痛ンダガジツトガマンズルトソ
レデ通り越シテ仕舞フトアトハナントモナカッタ

三時頃岩ドンガ見舞ツテ呉レタ 話ヲ聞クト昨年二度岩ドモヤツタコトガアツテ、ヤハリ
血モ出タシ熱モアツタトノコト コレデヤツト安心シタ。御母サンモ何度トナク、気ニシナ
イ様見舞ワレタ。妻君ハ御ミガキヲシナガラ、ヤツパリ心細イコトヲ云ツテ居ラレタ。アマ
リ氣ガ小サ過ギル様ダ 性質ダカ氣ノ毒デナラナカッタ

夕方血ハトマッタ ヤツト安心シタト思フトモ一痛ミモナクナツテヨク眠ルコトガ出來タ

◆▼97ページ◆▼ 四月行事

十四日夜稲毛來

◆▼98ページ◆▼ 大正4(1915)年4月1日(木)

天気 晴

今日ハ大變工合ガヨイノデ朝カラ起キタ 午後ハ上野ノ晝ノ展覽会デモ見タイト思ッ
タガ、ヨシテ散髪ニ行キ日比谷ヲ散歩シテ帰ヘッタ 晴レタ々トシタ、ヨイ天氣デ随分
人デ賑ツテ居タ。留都(ママ)中白戸君ガ來タトノコト

川辺君ニ發信

◆▼99ページ◆▼ 大正4(1915)年4月2日(金)

天気 曇リ

今日ハ和服ノマ、村山ニ行ク 晝飯ハパンヲ喰ツタガ三時頃カラ腹ガ痛ミ出シタ
御晝頃小傳馬町ヘワイヤーヲ買ヒニ行ツタ

夕方帰途新橋込來ルトベラボ一ニ腹ガ痛ンデ帰宅早々便所ヘ走り込ンダ 大分下利(マ
マ)シタ ソレキリ、ナオツテ八時過ギタ食ヲ喰ツタ

▲▼100ページ▲▼ 大正4(1915)年4月3日(土)

天気 雨

鳥飼へ朝バンドボールヲ借り且ツ、ガソリンタンクヲ聞キニ行ツタ 賣ルガ値段ハキメテ呉レロトノコトデアッタ。竹川町へプライヤーヲ買ヒニ行、醫者ニ行ク 大分薬ガ前ノト変ツタ。前キノ水菓ハ丁度夏ミカンノ汁ノ様デ、コンドノハ、ハッカト砂糖ノヨーダ
今日ハウロ、ト大シタ仕事ガ出来ナカッタ

村山ハ今夜飯田へ立ツ由 白戸ニ話シテ二円五十銭小遣ヲ借りル
今日ハナンタガ不平ナ日デアッタ

豊サンカラ手紙ガ來タ 中々親切ナニ感心シタガ余ハ今報ユベキ何物モナイノデ氣ノ毒デアッタ 夜返事ヲ出ス

▲▼101ページ▲▼ 大正4(1915)年4月4日(日)

天気 晴

九時村山ニ行ク 湖島ニ行き晝迄居ル

午後村山ニ帰り大工二人連レ來リテ機体組立ヲナス ボールト不足 充分出來ズ
夕帰途飛行界ト靴油ヲ求ム 夜飛行界ヲ讀ム

▲▼102ページ▲▼ 大正4(1915)年4月5日(月)

天気 晴

アタタカイ上天気ナリ 第三期飛行将校ノ卒業飛行宇都ノ宮迄行ワル 四機1516
1718ノ内十五號宇都宮發ノ際故障 人家ト樹ノ間ニ降りテ破壊ス

八時醫者ニ行キ九時村山ニ行ク。ボールト今夕出來ズ今日中、ホトンドゴタ、ニ終ル
帰途、湖島ニ廻ルプレーンニ枚ハ完全ニ張ラレ外ニ四枚張ラレツ、アリタリ

芝公園前ヲ帰ル 桜ハ大分赤クナツテ居ルノミナラズ、チラリ、ホラリ綻ビテ居タ 風
情ハ咲ソロッタヨリヨカッタ

▲▼103ページ▲▼ 大正4(1915)年4月6日(火)

天気 晴

朝T.Mニ立寄り操縦線ヲ求メ車ヲ借りテ芝公園前ノ村山ニ行ク 夕辺見タヨリ朝ハ又
少シ綻ビタ様ダ

今朝ボートガ出來テ來タノデ機体ノ前ガ組メタ

夕方帰宅スルト今日晝間大坂ノ伊藤デスト云フ電話ガカ、ツタノデ、夕方帰宅ノ由ヲツゲテ居イタトノコト 大分兄ニチガイナイノデ夜宅デ待ツタガ、ツヒニ電話モカ、ラナカッタ

今日鳥飼日野サンノ作ッタエンジンヲ廻シタラ百六十キロ引イタトノコト 目出度

▲▼104ページ▲▼ 大正4(1915)年4月7日(水)

天気 雨

曇ッテ居タガ傘ヲ持タズニ行ク。機体後部ヲ組ミ機体頭部ヲ丸クス翼ハ、ワラビノリダケ引イタトノコト

夕方六時帰宅 兄カラ電話ガ來テ居ヤシナイカ、モシカ宅デ待テ居ワシナイカト樂ミニシタシタノニ電話モカ、ラナカッタトノコト。氣ヌケガシタ

夕食後大口君ヘアテ昨日上總屋カラ請求ノ來タコトワリヲ云ッテヤル

▲▼105ページ▲▼ 大正4(1915)年4月8日(木)

天気 晴

七時前起床 新聞朝食村山ニ行ク

機体後部ヲ組ム

翼ニ塗料ヲ塗ル 白戸受持 御晝ニ一度ゼラチンノ加成ヲ見ニ行ク

▲▼106ページ▲▼ 大正4(1915)年4月9日(金)

天気 晴

鳥飼ニヨリキリヲ借りテ大神宮ヲヌケ芝公園ヲ通ッテ村山ニ行ク 桜ハ丁度五分ノサカリデアッタ

今日モ一向目立ッタ仕事ガ出來ナカッタガ急(ママ)ガシカッタ

今朝電話デ夕方六時ニ會フベク約シタノデ五時半村山ヲ出テ新橋祭清館ニ竹島ノ安井サンヲ訪フ。例ニヨッテ兄カラ、ドースルツモリカ聞イテ見テ呉レトノコトナリシト。苦シナガラ練習中ノコトヲ話ス 夕食ヲ馳走ニナリ久シ振りニ一杯ノンダ

土産モ持ッテ行カズニ氣ノ毒デアッタ 明日帰ルトノコト 銅ソノ他頗ル好況ノ由

▲▼107ページ▲▼ 大正4(1915)年4月10日(土)

天気 晴

六時半起床 朝食後村山ニ行ク 機体全体ヲ組立テ板ヲ張ル。余ハエンジンシートノ取

付ヲナス 櫛ノ木ニ四分ノ穴ヲ明ケルノ二骨ガ折レタ
七時帰宅。安井サン立ッタトノ電話ガカ、ッタソード

▲▼108ページ▲▼ 大正4(1915)年4月11日(日)

天気 晴

今日村山ノ宅カラ鳥飼サンニ電話ヲカケルト昨日玉井君ガ來テ練習ヲサセテ呉レロト
ノコトデアッタガ兎ニ角君ニ相談スルカラ君ノ處ヘモ行ッテ見ル様ニ云ッテ居イタトノコト
昨日ハタレモコナカッタ

▲▼109ページ▲▼ 大正4(1915)年4月12日(月)

天気 雨

朝カラ雨デアッタガ夕方方ノアラシヒドカッタ
白戸ノ進メデ白戸ノ宅ニ行ク。シバラクスルト風モ雨モヤンダノデ僕ノ爲メニ牛肉ヲ買ッ
テ來テ馳走ヲ受ク

後チ一石カコミ、近所ノ人ガ來タノデ其人トヤルノヲ見ナガラ横ニナッテ眠ル
妻君ガ河村サンヘ電話ヲカケテ居イテ呉レタノデ泊ル

▲▼110ページ▲▼ 大正4(1915)年4月13日(火)

天気 晴

日本晴ノヨイ天気デアッタ。モー大シテ仕事モナイガゴタ、急(ママ)ガシカッタ
夕方宅ニ帰ヘルト昨夜大口君カラ電話ガカ、ッタトノコトデアッタ

▲▼111ページ▲▼ 大正4(1915)年4月12日(月)

天気 雨後晴

日本晴リ昨夜ノ地震ヲトードー雨 出發 其日ニイヤナコトト思ッタガ仕方ガナイ。ソ
レデモ御晝前カラ晴レタ 荷造リト諸機体ノ重量ヲハカルノニ一日カ、リ三時頃ヨリ馬
車ニツミ初ム

機体ノ前部ヲ出スノニ大骨ヲ折ッタ

六時終ルト同時ニ宮口ノ出來ナイモノヲ急ガセツ、夕食 六時半村山ヲ出テIMニハ
ンドボールトキリ五本ヲ返ス。玉井君ハ以前ニ少シ鳥飼ニ対シ感情ヲ害シテ居ルコトガア
ルノデ、サセル様ニナラナイカラ其ツモリデフクンデ居テ呉レロトノコトデアッタ 氣ノ毒
ニ思ッタガ其内ニ又何ントカナルダロー 七時五十分ニテ、マ、キ、大工両氏ト稲毛ニ行

ク
大口君丁度夕方新潟へ出發シタトノコト。ナルベク行カナイツモリノ處ヤムヲ得ズ行ツ
タ由

▲▼112ページ▲▼ 大正4(1915)年4月15日(木)

天気晴

六時頃起床 潮ガ引イテ居ナイ 豊サンガ昨夜ノ話ト大分違ガツテ練習ハ中止 終日
飛行日和デアッタ 早速分解 十時迄ニ終ル 丁度馬車來。市川辺道悪シク困難セル
由 三十錢タバコ錢ヲ與へ馬車賃ノ内一円貸與ス

機体ハ心配シタニ返(ママ)シスッキリト眞直ニ組立ツテ氣持ヨカッタ 晝頃白戸來 テー
ルヲ取付操縦線ヲ張り重心點ヲ見ル。メインプレーンハ明日

空ヤ、アヤシクナル 風ハナシ

カツサヤ店ノ婦今日千葉ノ病院カラ退院シテ來タ 僕ガ東京へ行ツタ日入院シテ來タ
日ガ退院トハ不思議ナエン

▲▼113ページ▲▼ 大正4(1915)年4月16日(金)

天気晴

飛行日和 メインプレーン取付ク

朝六時半起床 浅草(ママ)神社前ニテ山鹿素行修養記ヲ讀ム 自分ノ目下ノ心配情
体ガ、ドーモ自分ニ氣ニ入ラナイノデ、アツチ、コツチアサツテ見タガ意ニ充ツル様ナコト
ガナカッタガ克己ノ處デヤ、得ル處ガアッタ

夕方前矢野君ガ來テ單葉ヲ稲毛デ試験スルノデ地ヲ借りニ來タトノコト

夜九時十二分ニテ帰ル 道ガ暗クテ、トテモ一人デ帰レンーニナイノデ送ツテヤル

▲▼114ページ▲▼ 大正4(1915)年4月17日(土)

天気晴

五時起床 スグ仕事ニカ、ル 九時晝食

アイニク汐干時カラ風ガ出テ來タ。夕方鳥飼氏モーターボートニテ高橋氏ト來ル
電池ガタラズ發動機廻ルニイタラズシテ夜ニ入り仕事ヲ終ル。マキ君東京へ買物ニ行ク
機ハドーモ組ンデ見ルト飛ビソーナ風デ翼ノカーブモ取付テ見ルト非常ニヨイ

夜店デ花ヲ一寸ツキアイ後チ千葉ノ頭ト茶話 十一時床ニ入ル

▲▼115ページ▲▼ 大正4(1915)年4月18日(日)

天気 曇雨

北風ノ寒イ日デアッタ 機体ハスツカリ出来上ガッタガ發動機ガ色々ヤツテ見タガフライホイールダケデハ廻ラナカッタ
夜ニ入り中止ス

▲▼116ページ▲▼ 大正4(1915)年4月19日(月)

天気 雨

六時起床 他ノ者ヲ起シテ居イテ格納庫ニ行ク フライホイールダケデハ廻ラズ、プロペラヲ附ケ之レモツヒニ手デ廻シテ初メテ廻轉シタ
少シ廻シテ、マグネットニ切り替ヘルト猛烈ニ廻リ出シタ。カーブレータハ半分、マグネットモオソクソレデモ以前飛ンダ時位廻ツテ居タ 之レデ大キニ安心シタノデ、新シイプロペラニ取替ヘ廻ス ドーモ切レテイケナイ。エキゾーストカラハ赤イ火ヲフクノデイロ、ヤツテ見タガイケナク、ツヒニ風ガ少イニ結シ、カーブレーターノ風口ヲ前ムケニ付替ヘ廻スト、プロペラガバラ、ト廻ルトスグ、トマルコトニ回。タシカニ水ガカーブレーターニ這入ツタニチガイナイノデ、クラクモナツタカラ中止ス
終日北風寒ク雨降ル

▲▼117ページ▲▼ 大正4(1915)年4月20日(火)

天気 雨

今日モ又雨 發動機ハ夕方大分廻ツタガマダ思ワシクナカッタ。ドーモ、カーブレーターニ違イナサソードアル 夕方オソク仕舞テ帰ル
本日村山初メテ來ル 白戸ト共ニ帰ル
夜管原ト云フニ二三日前カラ遊び半分ニ來タ 十九ノ一青年ニ口述デ歴史ヲ筆記サセタ。全ク字ハ得意ノ方デハナサソードアッタ

▲▼118ページ▲▼ 大正4(1915)年4月21日(水)

天気 曇リ

今日ハ飛行日和ノイ、天気デアッタガ午後機ヲ引出シ發動機ヲ廻ス頃風ガ少シ出タ。車輪ノシヤフトガ、曲ツタ。空模様ガ又悪クナツテ來タ 發動機ハ又モ調子悪シク、今日ハムヤミト止ツタ カーブレーターヲ、ハツシタリ附タリ幾度トナクノツヅルヲ調整シタリシタガツヒニヨクナオラナカッタ。一番最後ニ少シ長ク廻ツタガ、一パイ引クトバリ、切レタ。村山帰ル時カーブレーターヲ持帰ヘラセ、タンクノ位置ヒクキ爲メ、カーブレーターヲ下ゲル爲メプレッチ付パイプヲ造ラセニヤル 明日ハ鳥飼氏ノカーブレーター

―ニテヤル筈

夜管原ヲ白戸ト海気館ニ述ビ(ママ)、ヨク云ヒ聞カセ父兄ノ依頼状ヲ、ヨコサセル様ニ
其上使用スルコトニ決ス。後チ、白戸ノ發案ニテ、バッテリーヲハヅシ來リ二人デ色々ト調
ベタ處ツヒニ、バッテリーノ一ノ線ヲツカワレナイ決(ママ)果トソレガオヨボスエイキヨ
ト從ツタ、廻轉不同、又ハピタリト止ル原因モワカッタ 一言ニテ云ヘバ、マグネトカラ起
ツタ電氣ガ、コイルノ中デ返(ママ)對ノ線ニ憾(ママ)應シ爲メニプラグノ方ノ火ガヨワク
ナリ且止マル事モアルカラデアッタ。モ―之レニチガイナイノデ今後ハ僕ノコイルヲ使用
スル事ニシ、之レノ實驗ト、スイッチノ附方ヲ研究シ一時過雨ノ音ヲ聞イテ白戸ノ床デ
二人一所ニ眠ル

▲▼119ページ▲▼ 大正4(1915)年4月22日(木)

天気 曇

五時起床 スグ帰宿 洗面後淺間神社ニ詣ズ

田舎ノ女ノ人々ガ三四人ツ、御參リシテ行クノガ一寸面白イノデスケツチシタ。後チ
日記歴史ヲ書ク

今日ハカーブレーターガ來ナカッタノデ電氣ノ試験ダケヲシテ四時白戸ハ東京ニ歸ル
外ノ人ニ格納庫ヲ方附ケテ貰ッタノデキレイニナッタ 夕方久シ振リデ模型ヲツクル
夜管原ニ歴史ヲカ、セル

▲▼120ページ▲▼ 大正4(1915)年4月23日(金)

天気 曇少雨

午前中ラジエターノ水ノモルヲ直サセ終ッテ歴史ヲ書ク。御晝頃白戸、村山、鳥飼氏
來 エンジン、テストス。マグネトヲハヅシタリ、コート不良ヲ發見シタリシタガ決(ママ)局
夕方廻シタ處ハ今迄トカワラナカッタ 夜白戸ノ妻君ト竹須サンノ妻君ガ九時ノ氣車
デ歸ヘツタ後チ、又マグネトト電池コイルヲ、ハヅシ研究ヲナシ一時頃豊サント管原君歸
リ後チ白戸君ト二人デマグネトヲ分解シ、前ニ鳥飼氏ガ直シタト云フ處ヲ元通ニシテ、
バッテリーモ繪ノ通りニスルト実ニウマク行ク様ニナッタ。ソシテ火花モ以前ヨリ数倍強
クナツタ時、ケイ鳴ヲ聞イテ床ニ入ル

▲▼121ページ▲▼ 大正4(1915)年4月24日(土)

天気 晴

久シ振リノ好天氣。氣持ヨシ

六時起床 スグ上總屋ニ歸リ日記、朝食後、マグネトヲ取付ク。御晝迄ハ、プラグヲハ

ツシテ、シラベ午後廻ス。成績初メテヨシ。午後風ツヨク飛行中止 發動機ノ廻轉數ヲハカルニ三十分間二千二百 アマリ多過ギルシ實際目で見テモ二千四百八廻ツテ居ナイカラ多分千二百ガ、ホントノ處デアロー

夕方、風ナグ。一寸試験ス 上ガルノハ、実ニカルク、フワリト上ガッタ。ソシテ低空デア廻リ出スト發動機ノ音ガバラ、云フタノデ氣ヲモンダガ、マツ無事黒砂ノ方へ降りタバツテリーデマゴツイタ爲メ、降りラレナカッタトノコト 兎三角スローデモ飛ブ事ガ、証明サレタノデ安心シタ。

夜酒ヲノム 白戸モ來タノデツイ多クナリ安心トクダブレト眠ケトデグツスリ眠ル

▲▼122ページ▲▼ 大正4(1915)年4月25日(日)

天気 曇リ

時事 鳥居材木の車取り神事 稲毛にて

マグネトヲ早メテ飛行スルツモリノガツヒニ出來ナクナッタノミナラズアマリ、イジツタ爲メ、カエツテヘンテコニナツテ今日一日ハツヒニマルツブレ 七時頃終ル

夜十時頃車取りヲ見ニ行ツタ ソレハ稲毛海岸ノ海ノ中ノ鳥居ガ此間アラシノ夜若象(ママ)ガコワシテ、シマッタノデ其材木ヲ稲毛ニケ町内カラ一本ツ寄附スルノヲ四ツ街道カラ運ブノデ朝早クカラ二里バカリノ處ヲ夜ノ十二時迄カ、ルノデアアル。二輪車ノ上ニ長イ丸材ヲノセ酒樽ヲツミ其前ニ材木ノ上ニマタガリ面ヲカブリ、オ、ギヲ持テノベツ舞ツテ居ルト後デ笛、太鼓、鐘デハヤシ、辺リハ、笠デカザニ提燈ヲイクツトナクツケ村ノ小僧ガ二本ノ綱ヲ引クノデソレヲ若象ガ白ノシヤツ紺ノモ、引腹カケト云フ、ソロエノナリデー尺位ゴロ、ト動クトテコデ齒止メヲシ車ヲ上下ニ動カセ、サワグノデアアル

▲▼123ページ▲▼ 大正4(1915)年4月26日(月)

天気 晴

今朝四時起床ノハツガ五時ニ起床 格納庫ニ行ケバスデニ白戸ハ來テマグネトヲ取付ケテ居タ。イヨ、ヨシト思ツテ格納庫ヨリ引出シ風無キ濱デア廻シ初メルトコレハシタリ。バツクバカリシテ仕方ガナイノデ、マグネトヲシラベルトハイ電盤ノ中デ火ガ飛ンデ居タ。ツマリハイ電盤ノギヤーノ合セ方ヲ白戸ガ間違エテ居タノデアッタ。ソレカラ、マグネトヲハツシ分解組立取付ヲナスコトニ三廻 其内汐モ上ゲテ來タノデ今日ノ飛行ヲ中止シ、テストヲナス 初メ九百回轉ニテ百六十キロ引イタ。後格納庫内ニ入レ、マグネトヲ早メタラ九百五十回轉デ百七十引イタ。時々デットポイント前約六ミリデ火ガ出ルノヲ尚少シ早メテ居イテ今日ハ午後八機ノ手入レヲナス

白戸東京ニ歸ル

▲▼124ページ▲▼ 大正4(1915)年4月27日(火)

天気 雨

朝カラビシヨ、雨デツヒニ白戸ハ來ナカッタ 自分ハ模型製カタワラ管原君ニ説明ヲカ、セ時々都築サンノ單葉ヲ見ニ行ツタ。夜ハ説明ヲカク。ドーモ眠レズ凡ソダガ二時頃迄ヤツテ居タ。殆ンド全部書ケタ

夕方浅間様ノ前デ日記ヲツケ、スケッチヲ一枚シタ

▲▼125ページ▲▼ 大正4(1915)年4月28日(水)

天気 雨

昨日ノ雨ハ尚ヤマズ終日降り通シタ 夕方ヤット止ンダ 東京ノ方ノ空ハ皆黒色ノ雲ト眞赤ナタヤケト、ゴク僅カノ青イ空トガ実ニキレイデアッタ

午前中、プロペラノ定規ヲ作ル。處ガ昨日カラ宿リ合セタ青山ノ客トカガ、時計ヲ取ラレタト云ヒ出シ、外カラ這入ツタ様子ハナイノデ無論内ノモノ、内ノモノトスレバズ、トナリ坐敷ニ寢タモノヨリ外ニ這入ルモノガナイ、ソースルト間々木ト管原ノ二人ヨリナイノデ色々心配シタ結果間々木君ヲ呼ンデ聞イテ見ソレカラ間々木ニ管原ヲシラベサセタガ實際シラナイト云フ中夕方ニナツテ、タンスノ上ノハナ紙ノ間ニアッタトノコト 実ニ馬鹿々々シイ話シデアル。ソレニ大ヘンサワガセマシタトモ何トモ事ワラナイトハ變ナジージデアッタ

夜、定規ニ度盛ヲナス

十時床ニ入ル

▲▼126ページ▲▼ 大正4(1915)年4月29日(木)

天気 晴

夜中カラ寧(マ)猛ナ風ガ吹ギシテ午後ニナツテ静カニナツタ 村山ト白戸ト小供ニ二人外ニ一人ト來タガ風ノナグ頃ハ汐ガ出デ、ヤレナカッタ 僕ニ三十円クレルコトニ白戸ガ骨折デナツタソダ。一ヶ月半働ライテ前借十七円ヲ合シ四十五円ダカラ一日一円ノ割合トナル。日当トシテハ不足ハ云ワナイガ少シ骨折ヲ貰ワナケレバ練習ヲ中止シタリ格納庫ヲカシタリ誠ニ、ツマライモノ、ダ、ガ、村山ハアト十五円ヨリ、ヨコサナイツモリダツタトノコト。ソレナン、ソレデモヨイカラ、後デ云フダケノコトヲ云ツテヤルカラト白戸ニ事ツケタ

今日都築サンモ來タ 白戸ハ帰ツタガ都築サンハトマツタ

夜久シ振リニ明月コー、トシテ美言ン方ナク、永ク海岸ヲ散歩ス

今日プロペラ、ピッチ計算機ニ成功ス

▲▼127ページ▲▼ 大正4(1915)年4月30日(金)

天気晴

五時起床 裏山ノ松林中ニテ矢野君ノ科學世界ニ昔イイ見、帰途都築氏ニ呼留メラレ、海ノ模様ト風ニツイテ二三話シテ帰宅 日記

十時四十分ニテ白戸來 村山近所ノ人六七人連レテ來ル 風少シアリタレドモ飛行ス。今朝カーブレーターヲ直シタノデ、スローガ実ニヨク、キク様ニナツタ

飛行ハ千葉埋立迄行ツテ來タガ実ニ低空デアッタノデ氣ガ氣デナカッタ 前後ノ安定ガスコブル悪イ。午後、主翼ノ角度ヲ一度減ジテールヲ二度ニス。余ノ考ト、チガウガ白戸ノ言フ通りニシタ

夜一寸計算シタ。ドーシテモ、テールノ重イ訳ガナイ
上總ノ僕ノ勘定ハ終ル

▲▼129ページ▲▼ 五月行事

八日グリーン分解グレゴア組立

九日ヨリ練習

▲▼130ページ▲▼ 大正4(1915)年5月1日(土)

天気晴

少シ曇リタレドモ風ナシ 飛行準備ヲト、ノエサセ自分ハ散髪ニ行ク 十時過ぎ帰ル 都築式滑走ヲ初メタル處急ニ左廻轉シテ車輪ニ個。バンクスルコトニ回 ツヒニ中止セリ 十時四十分ニテ白戸來 飛行ス。予定ノ如クテール輕過ギテ前上ガラズ、僅カニ直線飛行ヲナシタルノミ。タゞチニテールヲ半度減シ一度半トナス。ヤ、ヨク上リタルモ方向柁丸デキカズトテ登戸沖ニ着陸ス 三人行キテ飛ビ帰ル
余残りテ之レヲ、ムカエ格納庫前ニ引帰り午後テールヲ〇、八度位ニナシ余ハ方向柁ヲ大キク製作ス

夜矢野君ノ宿舍ニ行ク 雨降ル

間々木東京ニ夜帰ル 河村氏ニ手紙ヲ事ツケル

▲▼131ページ▲▼ 大正4(1915)年5月2日(日)

天気雨

空模様悪シカリシモ午前中方向舵ヲ取ケエンジン附近ヲシラベ操縦線ヲ直シ置ク
午後、エツエルノ実験表ヲウツス。夜ブタ鍋デー一杯カタムク 矢野、外一名モ共ニ後
飛行談ヤラ何ヤカヤ 九時床ニツク

◆▼132ページ◆▼ 大正4(1915)年5月3日(月)

天気晴

六時前起床 裏山ヲ散歩シツ、矢野君ノ講議ヲ見ル
帰宿朝食後、エツエルノ表ヲウツス 九時過ぎ白戸來 機ヲ引出シ、新プロペラニテ飛
行。思ワシカラス

晝食後プロペラヲ取替へ同飛行 充分ナラス 格納庫ニ入レ風ツヨクナリタレバ中止シテ
發動機ノ試験ヲナス。カハ元ノマ、ナリ 後チ新プロペラヲ細ク、ケヅリ直シ試験ス 丁
度千五十回轉ナス 牽引力ハ僅カニ五キロバカリ増シタルノミ
午後村田ノ妻君來。大工モ來 イツレモ帰ル

夜食後エツエルノ表ヲ写ス 後間々木ニ進メラレ酒ヲノミ床ニ入ル
姉ヨリ來信アリ 着物ノ事ヤ何ニヤト心配シテ書イテ呉レノデアッタ。シバラク無沙汰
ヲシテ居タカラデアッタ 多謝々々

◆▼133ページ◆▼ 大正4(1915)年5月4日(火)

天気晴

六時前起床 飛行講義ヲ讀ミツ、浅間神社ニ参拜 裏山ヲ、ク、リツ、一番高キ處ニ
ボル頃讀ミツクシテ後チ田甫(ママ)ノフチヲツタヒ向溝ヲ飛越エ今日ハ麥畑ヲ散歩シツ、
海岸ニ面セルガケニ出デ、水面ヲ瞰下シテ、氣ヲ養ヒ帰宿ス マダ皆寢テ居ルノデ、之レ
ヲ起シ、日記ヲツケ朝食後姉へ返事ヲ出ス

九時頃ヨリ仕事ヲ初メ十二時頃引出シ、風モヤ、良好ナレバ飛行ス 追風ナリシモ、頗
ル工合ヨク千葉ヲ一週シテ帰り來ル。左ノ角度少ナシトノコトニ少シ多クシ今一回千葉
ヨリ、検見川沖ヲ一週シテ着陸 七分間位ノ飛行

午後左手ノサ、エラ前ニシ、カーブレーターノレバーヲ後ニナス。車軸ノ曲リヲ直シ今一
本ノプロペラヲケヅリ直シテ試験ス 回轉数千二十、牽引力百八十キロ
四時ニテ白戸帰京ス

◆▼134ページ◆▼ 大正4(1915)年5月5日(水)

天気晴

午前ノ散歩ヲシテ格納庫ニ入り機ヲシラベル

午前中、皆二機ノ手入レト格納庫ノ掃除ヲサセ余ハエツフェルノ実験表ヲ写ス
白戸妻君ト共ニ來 四時頃飛行 第一回一人千葉検見川間、二回目、豊サン同乗、
千葉往復。夕方豊サン東京へ遊ビニ歸ヘス。白戸ト夕食ヲ共ニ帰宿後都築氏ノ助手連
ト花ヲナシ酒ヲノム 十二時止メタ

▲▼135ページ▲▼ 大正4(1915)年5月6日(木)

天気晴

今朝ハオソク起キタ 昨夜ノ酒ガマダ残ツテ居ル様デ気持ガ悪ルカッタ。九時半頃迄又
横ニナツテ居タ ソレカラ、格納庫ニ行キ間々木ニ車輪ヲ五寸前ニ出サセ自分マグネト
ノタイムヲ早クス

三時頃河村サン來。パウリスタノドーナツツハ、ウマカッタ。四時白戸來。六時頃飛行ス
第一回千葉ヨリ検見川往復。第二回自分同乗 走り出シテ、モ一ヨサソ一ダト思ツタ
頃フワリテ上ガツタ。乗ツテ見ルトナル程グレゴアヨリハ早イコトガワカッタ。一上ゲ毎ニ
グキン、ト上ガテ行ク。其タビニ一寸下ガル様ニ感ジタノガ気持ヨクナイ。白戸ハソソ
ナコトハナイト云ツテ居タガ、矢野君ガ後チニ同乗シテヤハリソ一云ツテ居タ。眞赤ナ大
キナ太陽ガ丁度海ノカナタ紫ノ雲ノ中ニ這入トコロ。眞下ニハ今一パイニ帆ヲ張ツタ船ガ、
スキ通ツタ青イ流レノ中カラ青イ海ニ出テ行ク處デアッタ。夕日ヲ、受ケタ赤イ砂ト白
ト緑ノ水遠ク、麥畑ト、菜ノ花ガ実ニキレデアッタ。カーブハ、カナリ小イサイ様ニ思ッ
タガ、カシカリモシナイ 千葉ノ築港ヲ右下ニ見テ回ツテ帰ツタ。下ゲソ一ニシタノデ自
分ハ、シヤガンデ顔ダケ出シタ。大ヘン見ヨクテ下リ安スカツタトノコト 着陸ハ一度ポン
トツイテスツト降りタガ、シヨックト云フ程デハナカッタ カジハゴク少シシカ動力ナイ
安定ハ実ニヨカッタ。飛行中両翼ガ一寸バカリツ、針金ニ差ヲ生ジルノヲ見タ。後ロノ鉤
ヲワイヤー昨日新ラシクツケタノガヨクキイテ居タ 二人乗ルト少シ下ゲ舵ヲ取ツテ水
平飛行シタ

夜村田君來 余ハエツフェルノカーブヲ写ス
十時過ギ床ニ入ル

▲▼136ページ▲▼ 大正4(1915)年5月7日(金)

天気晴

午前六時起床 散歩

午前中、エツフェルノ設計圖表ヲ写ス。他ノモノハ機ノ手入レヲナサシム。正午園田氏來、
午後一時頃白戸ト河村ノ御母サン來。然ルニ次第二風強クナリ飛行不可能トナル村
田ヲ白戸ニ照会ス

山形ニテ一ヶ所村田骨折ルコトニス

夕方海気館ニテ御母サント三人食ヲ共ニス
御母サンカラ小遣ヲ弍円貰ツタ

◆▼137ページ◆▼ 大正4(1915)年5月8日(土)

天気 晴

機分解 一時頃荷造リヲ終リ停車場ノ丸通倉庫ニ入レル。白戸來 上總屋ノ支拂ヲ
終ル

夕方帰ル 停車場迄送ル 丁度千葉ヨリ第一特命儉(ママ)エツ使浅田大将一行着海
気館ニ入ル

夜ナスコトナク九時床ニ入ル

◆▼138ページ◆▼ 大正4(1915)年5月9日(日)

天気 曇リ

午前中機ヲ組立テ午後、圖解ヲ書ク 夜八時頃出來

夕方末松君來 所沢へ見學ニ行クコトニ決シタトノコト 夜止マル 明朝一番ニテ帰ル筈
余ガ以前練習中コワシタ、プロペラノ破片ヲ呉ロト云ツテ持ツテ帰ツタ

◆▼139ページ◆▼ 大正4(1915)年5月10日(月)

天気 曇リ

起床 タゞチニ間々木ニ手ツダイヲ頼ミ説明ヲ書ク内豊サン飛行機ヲ組ミ十時頃出來
タカラ一寸ヤツテハトノ進メニ風ハナサソダカラ飛出シテ見ル。久シクヤラナイカラ、
少スローニシテ走り出シタ處中々早シ。ドーモ上リソノナノデ、オサエナガラ走ツテ一寸
手ヲユルメルトスグ上ガツタ。下リルノモ、ウマク行ツタ。スローデ、カーブシテ居ルト、發
動機ガ止ツタ。廻ソート思タガ、バックバカリシテ、回ラナイ 豊サンガ來タノデ廻サセ
タ。處ガ一個バンクシテ居ルノデ、スグ止メルツモリデ、豊サンヲ一所ニノセテ走ツタ。カ
ナリ骨ガ折レタガ少シ上ガツタ 降りテ、貝堀ノ間ヲヌケタト思ト、カゴガアツタノデソ
レヲヨケ、海気館ノサン橋ヲノガレテ廻ルト舟ガアツタ。トテモダメト思タガ、ウマクヨ
ケルコトガ出テ、格納庫前ニ歸リ上道ガテ、電信柱ト僅カニ五尺位ノ處デピタリト
止マツタ

早速支度ヲナシ晝食 玉井、管原両君トステーションニ行ク 丁度汽車ガ出タ、アトデ
アツタ

三時帰宅 TMニ電話ヲカケルト丁度、ニサイクルヲ廻スカラ見ニコイト云フノデ行ツタ
ヨクマワツタガモー少シ氣ニ入ラナカッタ。白戸ニ行ク。皆不在。來イ云ツテ居イテ、居

ナイノハケシカラント思ツタガ仕方ナイノデ帝国館ヲ見ニ行ツタ 繪モツマラナカッタ
九時帰宅 十時床ニ入ル

▲▼140ページ▲▼ 大正4(1915)年5月11日(火)

天気 雨

六時起床 入浴朝食新聞後、白戸ニ行ク 晝食後村山ニ共ニ行キ、今後ノ方針ヤ繪ノ
話が大分出タ。夕方三人デ芝浦あをば楼ト云フノニ行タ 村山ノ、ヨク行ク處ラシイ。
村山ト二石タ、カツテ吾格(ママ)デアッタ 二人ハ入浴シタ 僕ハ今朝這入ツタカラ酒ヲ
呑ンデ待ツ。バーサン、ゲーシヤト半玉ト二人來テ九時頃迄遊ビ喰ヒ且ツノンダ。大部
分僕一人デノンダ 女中共モ驚イタ風デアツタガ今日ハドーシタカ、工合ヨク、マワツテ
少シモ悪ヨイシナカッタ。帰宅 就床十時過ぎ

▲▼141ページ▲▼ 大正4(1915)年5月12日(水)

天気 晴

六時起床 日比谷ヲ散歩ス。藤ツ、ジ西洋花スベテ今ガ眞盛リデ奇麗デアッタ。午前
中T.M.ニ行キグレゴアト日野式ノ設計ヲタノマレ日野式ノ寸法ヲ取ル 後チ顔ヲアタリ
晝食後村山ニ行ク 二時頃白戸來 村山昨日夜越後ニ立ツコトニ決ス。汽車賃ヲ借リ
ル 三時半タ立アリ。ヤムヲ待ツテ帰途T.M.ニヨリゼラチンヲ貰ヒ、帰宅 早速支度ヲナ
シ稲毛ニ帰ル 七時半着。雑談 九時床ニ入ル

▲▼142ページ▲▼ 大正4(1915)年5月13日(木)

天気 晴

六時起床 散歩。朝食後機ノ手入レ。ゼラチンヲ塗ル 風ツヨク飛行中止。海軍デ式
千葉沖ニ墜落セリト 但シ故障ノ爲着水ナリ

▲▼143ページ▲▼ 大正4(1915)年5月14日(金)

天気 晴

五時頃目ヲ醒セタガ、古イ小説ヲ讀ンデ七時頃起キタ 朝食後グレゴアノ設計ニカ、ル。
食前浅間神社ニ參リ裏山ヲ散歩ス 風強シ。後チ少シナギタレ共時々突風アリ 加フ
ル山ノ方ヨリノ風ナケレバ飛行ヲ中止ス。午後プロヘラ修繕ヲナシ、玉井君ノ翼張リヲ
一寸手ツダウ 大口君二十日頃帰ルトノ手紙來

御晝頃小學生徒多数來 教員ノ乞ヒニヨリ機ヲ見セ説明ヲナス

夜八時床ニ入ル

▲▼144ページ▲▼ 大正4(1915)年5月15日(土)

天気 晴

朝風静カニ汐汗(ママ)頃ヨリ風強ク北ヨリ西ヨリ南へ廻リ時々少シナギルコトアルモス
グ五六米突位三ナリ三時頃ヨリ上汐二八八九米ノ南トナリクラクナル迄フケリ 飛行
中止

御晝前ヨリ鳳號ノフロートニテ、足踏ミノハイドロプレーンヲ作ル 夕方浮カセタガ、ペダ
ルガ弱イノト、一方ノフロートガ、モルノデ、マツカッタガ成績ハ悪イ方デハナカッタ。殊
ニ一番氣ニシタ、安定ガモットモヨカッタ

夜夕食後、グレゴアノ翼ノカーブラ出シ八時過ギ床ニ入ル

▲▼145ページ▲▼ 大正4(1915)年5月16日(日)

天気 晴

朝北ノ微風ニテ今日コソ好飛行日和ナラント思ヒ朝食後散髪ニ行ク 其中ニ南風トナ
リ次第ニツヨク午後ツヒニ中止ノヤムナキニ到ル 午前中豊サン間々木二君ト、マテ取り
ニ行キ、マテ二本蛤五個ホドシカ取レナカッタ

午後プロペラヲ考へ、後室内ヲ清クスベク、プロペラノ切端ヲ以テ額縁ヲツクル
東京ヨリ下駄屋來 下駄五足寄附ス 今夜泊ル

▲▼146ページ▲▼ 大正4(1915)年5月17日(月)

天気 雨後晴レ

大雨変ジテ朝ガタヨリ大風トナリ、午後次第ニナギタレドモ飛行不可能ナリキ
終日プロペラノ設計ヲナス。夕方裏山ニテ日ノ落チル迄素行修養訓ヲ讀ム

今朝額縁出來上リお吉ニフトンヲ作ラセ、坐敷ノ正面ニカ、グ 一段ト光彩ヲハナツ

▲▼147ページ▲▼ 大正4(1915)年5月18日(火)

天気 晴

朝浅間神社ニ参拜 風ナシ。今日コソ多分ヨカラント思ヒシニ汐干頃ヨリ西南ノ風強ク
松林鳴リヲ生ジテ、トテモ不可能トナリ今日モ、オジヤン

グレゴアノ機体設計ヲナシテ成ラズ 大ニ頭ヲナヤマス。夕方、裏山ニ入りテ書ヲ讀ミ氣
ヲ養フ

▲▼148ページ▲▼ 大正4(1915)年5月19日(水)

天気 曇り

朝カラ降りモ降ラズミノドンヨリトシタ風ノナイヨイ天気デアッタ。今日ハ上野ノ某女
學校ト城成學校トガ來タ 十一時頃汐干クトスグ生徒ハ皆集メテ貰ツテ練習ヲ初メタ
丁度山ノ方カラ風ガ出テ來タ 旗ハハリ、ト動キダシタガ追風デ直線ニ行キ着陸ハ
マツカッタ。帰りハ上ガルト横風ニ流サレタ氣持ガシタ 旗ヲ目標ニ少シ右カーブシナガ
ラ再ニ水平ニ直シテ着陸。風ハ吹イタリヤンダリ。再ビ直線ニ行キ帰ル時スローニシスギ
テ發動機ガ止マッタ。自分デ廻シテ乗ル間ニ飛行機ハ走り出シタ 之レニハイサ、カ驚イ
タ。スグ止メタ。豊サンガ來タノデ廻サセ直線デ帰ル 初メテ水平ニ樂ナ飛行ヲシタ
晝食後風ツヨクツヒニ中止 模型ヲプロペラーヲケツル
(第二回目直線デ行ツタ時フット上ガテ、發動機ヲスローニシタ時機ハ上向キノマ、止マ
ツテシマッタ 驚イテ下ゲ舵ヲ取ツテヤット降りラレタ)

▲▼149ページ▲▼ 大正4(1915)年5月20日(木)

天気 晴曇

終日山カラノ風 十二時過ぎ雷鳴ト、ロキ暗クナリタレドモ雨少ナシ
グレゴアノ機体設計 模型ノプロペラ仕上ゲ

▲▼150ページ▲▼ 大正4(1915)年5月21日(金)

午前中新機ノ設計ヤプロペラライジツタ 風ハヤハリ東北カラ吹イテ居タ。午後豊サン
間々木、菅原等トマテ取りニ行ツタ 今日ハ大分トレタ 豊サンガ一番多ク取ツタ 四
時頃帰ル 風ハヤ、静カニナツタガマダイケナイ

浅間様ノ前ノベンチニ、上向キニ寝コロンデ、シバラク、新機ノコトヤ操縦法ヲ考ヘテ居タ。
新機ハエロンヲ長クシテ、ルンプラーノ様ニシテヤロト思ツタ。後チ海ノ着陸場ヲ見ル
ベク黒砂ノ舟道カラ、波打ギワヲ通り稲毛ノ舟道迄スツカリ見テ帰ツタ オカゲデ、
モ、迫、ヌラシテシマッタ

夜新機ノ製圖ヲシナオス。後チ花ヲ引キ十一時床ニ入

▲▼151ページ▲▼ 大正4(1915)年5月22日(土)

天気 曇り

六時頃汐ガ干イテ居ルカ見タガ干カナイノデ又床ニ入り七時頃起床。昨夕觀ソク通

り空ドシヨリト風ナク飛行日和デアッタ。四時頃カラ機ヲ引出シタ。少シ風ガ出テ來タガ大イシタコトハナイノデ、イツモノ方向ニ直線ニ行キ直線ニ歸ル時、グート上ガッタマ、下ゲ舵ヲ取ツテモ下ガラナイ。ヤットスローニシテ降リタ。ソコエ豊サンガ來タノデ一所ニ乗セ格納庫前迄、ジャンプシナガラ歸リ、直チニ角度ヲ一度減ジタ。一円ノゼラチンガ大キニ効果ヲ現シタ。四時頃玉井君ヲ同乗サセ直線往復ヲナス。少シ上ル。此度ハ検見川方面ニ行クツモリニシタガ丁度横ガヤ、出テ來タノデヨシニシ、イツモノ方向ニシタ。一ツ廻ッテヤロート思ツテ機上デシバラク風向ト方向舵トヲ考ヘ走り出シタ。警界ノ上デ丁度下ガユックリ走ル様ニ見エル位上ガタノデ、ソロリ、ト廻リ出シタ。思ツタヨリ少(ママ)イサクニ度、バカリユラレタダケデ無事着陸出來タ。下ゲ舵ノ工合が大変ヨクナツテ來タ。ガソリンガ少ナクナツタノデ大口ノ内ニ二二柁アツタノヲ貰ヒ検見川ニ向ケタガヤハリ横風デ上ガテ追風デ廻リ横風デ降リル様ニナルノデ中止シ、前ト同ジク今度ハ波打ギワノ上カラ黒砂ノ舟道ノ向フヲ廻ッテ無事着陸格納庫ノ前デ着陸シヨート思ツテ右カジヲ取ツタガ、モ高サガナクナツタノデ其マ、無事着陸シ格納庫前ニ歸リテ終ル。皆モヨロコンデ呉レタ

夜酒

暁星小學校カラ飛行見物ノ礼状ガ來タ

夜白戸ト河村サンニ旋回飛行ヲ報ズ

▲▼152ページ▲▼ 大正4(1915)年5月23日(日)

天気 雨

今日ハ終日雨。昨夜ハアマリ喜(ママ)シカッタセイカ、ヨクネムレ、ナカッタ。今日モ又一日イロ、ナ、ソシナコトヲ考ヘテ用事ガ手ニツカナカッタ。ソシテ雨デヨカッタト思ツタナゼナラバ、コンナ日ニハ練習シテ得テヤリソコナウモノダカラ

夜豊サンヲ、ガソリンヲ取りニ東京へ帰へス

ツヒデニ川村サンデ少シ小遣ヲ借リルベク手紙ヲ書ク

▲▼153ページ▲▼ 大正4(1915)年5月24日(月)

ドンヨリトシタ上天氣デアッタ。飛行スベク準備前浅間神社ニ参リ三回目ヲ注意スベク氣ヲ養フ。風イヨ、ナシ。行キテ機ヲ出ス。初メ直線往復ヲナシ、後チ回轉スベク決ス。ガソリンヲ見ルニ一寸五分バカリシカナイ。万一回轉飛行中、ストップセラレテハ大変ダト思ツタノデ直線往復ダケデヨシタ。飛行中ハビクトモ動カナイヨイ安定デアッタ。行キニハボールプランヲシタ處ヤハリ、ドントシヨクシタ時ポキトイヤナ音ガシタノデ左ノ櫓ヲ、ヨクシラベタガナントモナカッタ。ヤハリ此機デハ着陸ハイクラカ、エンジンヲ廻シテ居カナケレバダメダ

夜豊サン帰ル

川村サンカラ五円貸シテ呉レタ 早速花チャンニ五十銭昨日借りタノヲ返ス

▲▼154ページ▲▼ 大正4(1915)年5月25日(火)

天気晴

四時頃目ガサメタ 空キレイニ晴レテ、風ナカッタ 五時過ぎ起床 浅間神社ニ参拜。ス
コシ風ガ出タ。準備スル内キレイニナイダ 六時過ぎ第一回黒砂沖一週(ママ)五十分秒
第二回登戸沖一週六分十五秒 各六七十米突高度。二回目ニ格納庫ノ正面ニ降リタ
テールガスコシ重イノデ、手ガイタクナツタノデ朝食後半度テールノ角度ヲ増シタ。早
速飛揚 グン、上ゲテ丁度寒川ノ埋立ノ上ヲ廻リ稲毛ノ方ヲ向イタ時機ハ一人デニ
グン、下ガツテ身体ガ宙ニ浮イタ 此時バカリハ気味悪カッタガ、シバラクシテ止マツタ
カラ陸ヲ帰ヘルノヲヨシテグン、沖ノ方ヲ帰リ格納庫ニ向ツテ無事着陸。左ノ角度ガ
少ナイ様ナノデ之レヲ増シ第四回。少シ風ガ出テ來タノデ、氣ヲツケナガライツモノ方
向ニ飛揚 二度バカリ左ニ傾イテ直ラナカッタニハ氣ヲモンダ。上ガツテカラ又上ガツタ
リ下ガツタリシタ。カーブシタ時ニハカキノ養生場ノソバノ人ニ當ルカト思フ程下ガツタ
ソレカラ検見川方面ニ行キ一廻リシテ下リタ
マツ無事デヨカッタ。昨日持ツテ來タガソリンガ皆ナクナツタ 白戸、野島、鳥飼河村
諸氏へ礼状ヲ出シ喜代市知覽両氏ニモ通知ス

▲▼155ページ▲▼ 大正4(1915)年5月26日(水)

天気晴

朝ノ散歩ヲシテ、帰ツテ來ルト白戸カラ柏崎ガキマツタトノハガキガ來テ居タ。朝食後
東京ニ帰ル。昨日ノハガキガ今朝ツイタトテ、御母サンヤ皆シテ今話ヲシテ居タ處ダッ
タトノコト 鳥飼ヘ行キ十時一寸帰宅。スグ加藤ニ行キ白戸ニ行ク。マダキマラナイガ今
日電話ヲカケルトノコト シバラク三井ノ來ルノヲ待ツ 三井ハ盛岡ヲ運動スルトノコト
打連レテ村山ニ行キ長岡ニ電話ヲカケル 昨日野島氏墜落 一人死シ四人重傷トノコ
トニテ柏崎早クキメザレバ延期ノオソレアリトテ七百円ニテスグキメルコトニ決ス。余ハ帰
宅 鳥飼ノマネキニヨリ行キテ食ヲ馳走ニナル。ガソリンナク帰宅。夏ノ運動服ヲ注
文シ、江東橋ニテ電車ヲ降り河村氏ニタノマレタ、ニユームノボタン見積リ矢島氏ニタノ
ミ終列車ニテ帰稻。

村田來リ居リ一時過ぎ迄、野島氏ノ事ナド話シタ。

今朝床ノ中デ昨日千葉デ下セラレタ原因ニツヒテ、陸ノ方カラ吹ク風ガ海ニ吹下シテ
居タノニ下セラレタコトガ分ツタ

▲▼156ページ▲▼ 大正4(1915)年5月27日(木)

天気 晴

昨夜ヨリ吹き出シタ風ハ烈風トナリ終日吹き夜ニ入りテヤム

東京カラ來タプレーンヲ解体シテ、メンスパーヲ取り、バツンハ間ニ合ワナイ

村田ノ金主タルベキ平尾翌平氏十時頃來 グレゴアヲ廻シテ見セル 晝前帰ヘツタ

夜酒ヲ二本ノンデ眠ル

▲▼157ページ▲▼ 大正4(1915)年5月28日(金)

天気 晴

終日風アリ 風ナクトモガソリンナシ

朝ノ散歩ニ素行ノ學問ヲ讀ミ得ル處アリ

終日模型ヲ作ル

夕食後新機設計ヲナス

▲▼158ページ▲▼ 大正4(1915)年5月29日(土)

天気 晴

南ノ風強シ。新機設計ト模型製作

山縣百太郎山縣正夫田辺都築野島諸氏へ發信

▲▼159ページ▲▼ 大正4(1915)年5月30日(日)

天気 晴

今日モマタ南ノ風強シ。東京カラ大分汐干狩ガ來タ。終日新機ノ製圖ヲナス

夕方大口君カラ花チヤンニ手紙ガ來タ 返事ヲ頼ノマレル 僕モ一所ニ出ス

朝白戸カラ手紙來 昨夜新發田へ出發セリト 六日頃飛行ノ豫定 今夜カ明朝電報

打ツカラスグ積込メトノコト 多分間ニ合ウマイカ 準備ヲナス

▲▼160ページ▲▼ 大正4(1915)年5月31日(月)

天気 晴

風強シ 夕方ヨリヤ、ナグ 天候曇ル

終日製圖

夜十時過ギ白戸ヨリ電報 四日迄ニ着スル様ツメトノコト 一寸六ヶ敷ソーダ

村田ガ二円余リ呉レタガ帰ヘシタ

▲▼163ページ▲▼ 大正4(1915)年6月1日(火)

天気 雨

四時半起床 空曇リテポツ、ヤツテ居タ スグ丸通ニ行ク 主人ヲ起コシ貨車ヲ請求
サス。ウマク千葉ノ貨車ガアツテ九時ニ來タ 行キテ雨ノ小止ミヲ見テ積込ミヲ終リ帰
ル 丁度十二時 晝食

朝喜代市兄ヨリ手紙ガ來タ 午後返事ヲ出ス 後子袴ノ腰板ヲ直ス
夕食ニ大口ノ妻君カラ酒二本 店カラ、サシ身ヲ御馳走ニナル

▲▼164ページ▲▼ 大正4(1915)年6月2日(水)

天気 雨

朝床ノ中デ聞イテ居ルト、ドシヤ降りノ雨トキテ居ルノデ、ユックリ床ノ中ニ居テ六時
過ギ起床 朝食後仕度ヲト、ノエル内雨次第第二小止ミトナル 九時ノ列車ニテ出発スベ
ク停車場ニ行ク 汽車賃トシテ、二円はなチヤンニ借リル。貨車ハ昨夜田端迄行キ今朝
七時半ニテ發車セリトノコト。十一時東京ニ帰宅。茶ヲ吞ミ、スグ村山ニ行ク 十五円
デ買モノシテ旅費ニアテ、呉レトノコト。大キニ、シヤクニサワリ、馬鹿々々敷イ口論ヲ
シテ、ヤツト廿五円出サセ十円間々木ニ渡ス。余白戸ニ行キ夕食ヲ三時頃馳走ニナル
五円借リテ二円稲毛ヘ送ル。帰途油ヲ求メ、TMニ行キ散髪ヲナス時飛行船ノ夜間飛
行アリ 大ニ延喜(ママ)ヨシ

十時十分前出發 十一時青森行キニ乗ル 三等ハヤハリ寢レナイ

▲▼165ページ▲▼ 大正4(1915)年6月3日(木)

天気 晴

三時頃カラモ一明ルカッタ 白川過ギルト日ハキラ、ト輝イタ 郡山ニ五時着 貨車
聞合セルト昨夜十二時ニ通過シタトノコト。其レカラスグ出ル新潟行キニ投ズ 十二時
半新津着 晝食 一本ノム内丁度貨車ガ來タ 聞クト今夜八時ニ連結スルトノコト 一
時半發 二時半新發田着 白戸ト新潟毎日ノ安井ニ君ガ來テ居タ 車デ旅館ニ行ク
途中村山ニ會フ。話ヲ聞クト、土地ノ興行師ト山分ケダトノコト シカシ費用四百五
十円ハ前取トダト云フカラ先ヅ間違ハナイ。晝食後村岡旅館ニ入り後チ飛行場タル練
兵場ヲ見ル 六万坪デ眞平ラ 實ニイ、帰宿後、キツプノ判オシヲサセラレタ 夕方、
白戸ト玉ヲ突ク 夜早ク床ニ入ル

▲▼166ページ▲▼ 大正4(1915)年6月4日(金)

天気 曇り

五時半起床 洗面後玉ヲ突ク

朝食 丸通へ荷ヲ取りニ行ク 後千切符ニ判ヲ押ス 午後ヨリ機体トテールヲ組立ツ
格納庫ノ不細工ニ驚ク クラクナル處帰ル。ラジエーターノモリヲ直サセル。エンジンシ
ートノステアー一本折レタルヲ蠟付セシム

▲▼167ページ▲▼ 大正4(1915)年6月5日(土)

天気 曇少雨

五時半起床 朝食前玉突キ

機組立ラジエーター、プレシ取付等新規ニシタノデ安(ママ)外暇取レタガ一寸廻シタダ
ケ。ラジエーターガモルノデ、ハツシテ直シニヤル 日ハ落チテ、スデニ暗クナツタ

▲▼168ページ▲▼ 大正4(1915)年6月6日(日)

天気 曇

三時十五分起床 マダクライ 雨ガ降ツテ居タ 四時頃場ニ行ク準備ヲト、ノエ六時頃
一週(ママ)シテ着陸 左ノ角度ヲ増ス 機ハスラリトウマク出來タ 後千軍隊ノ爲メ九
時頃特ニ飛行ス 一週(ママ)後町上ニ行ク 大田ヲナシテ帰着 低空飛行シテ着陸 場
ノ東ノスミト西北ノ町ニカ、ル處ガ一寸イツモユラレル様ダ。午後機ノ手入レ 五時頃帰
宿 夕方料理屋へ村山白戸間々木諸君ト行ク。ヨッパラツテ帰ヘッタノデ知ラナカッタ
大分モドシタトノコト

▲▼169ページ▲▼ 大正4(1915)年6月7日(月)

天気 曇少雨

起キ様ト思ツテモ起キラレナカッタ 御晝頃迄寢テ居テヤット氣持チヨクナツタ
終日玉ヲ突イタリ碁ヲヤツタリシタ
大坂、稻毛有楽町鍋町へ新聞ヲ送ル

▲▼170ページ▲▼ 大正4(1915)年6月8日(火)

天気 晴後曇

絶好ノ飛行日和デアッタガ午後カラ少シ風ガ出タ シカシ一番多イ時デ五六米突ニ過

ギナカッタ

中學校ガ來タ 間壁中尉出身校トノコトニ特ニ説明シタ

第一回三時四十分 マダ少シ風ハアツタガ大シタコトモナイノデヤル 追風ニハ少シ速力ハ早カッタガ安定ハヨカッタ。タゞイツモノ處デハ例ヨリモ多ク動揺シタ外ハ更ニ何トモナカッタ

五時過ギ第二回 少シ大田ヲエガイタ

最高二百五十 滑走ハ五十米突位デ離陸着陸、實ニヨイ工合デアル

豊サンカラ手紙ガ來タ 大口ガ帰ヘツテ居ルトノコト

▲▼171ページ▲▼ 大正4(1915)年6月9日(水)

天気 雨

朝カラ、梅雨ラシイ気分ノビシヨ、雨デツヒニ延期ニナッタ 例ニヨツテ玉ヲ突イタリ 暮ヲ打ツタリ。午後宗里君ガ來タ 今夜止マルコトニシタ 野島、川辺諸氏ハ金沢ヘ行ツタトノコト

豊サンニ大口ニ機ヲ造ラセルベク話ヲスル様手紙ヲ出ス

▲▼172ページ▲▼ 大正4(1915)年6月10日(木)

天気 曇リ

午後風少シ出タガヨイ飛行日和 二回飛行

宗里君第一回ヲ見テ帰ヘル

入場者ナシ 張合ヌケシテ説明モ僅カニ二回シタダケ。明一日展覽会ヲスルトカ何トカ話ハアツタガツヒニダメトナル。主催者ノ一人ガ酒ヲノンデ、夕方大分ウルサカッタトノコト。飛行機ヲ今夜中ニ分解シテ呉レナド、云ツテ來タガ、ヨシタ ナンノコトモナカッタ 飛行ハ無事ニ済ンダガトートー金ニナラナカッタ

▲▼173ページ▲▼ 大正4(1915)年6月11日(金)

天気 雨

終日雨 分解ハ間々木君ト二人デ十一時頃ニ出來上ガッタ 運送屋ガ二軒カラ車ヲ持ツテ取りニキタノハ滑稽デアッタ。本日貨車來ラズ 間々木君ヲ残シテ五時十七分 発ニテ柏崎二十二時無事着 村山長岡ニ泊ス

天屋旅館ニ入ル 大分立派デアッタ

今日出發ノ際僕ニ二十五円呉レタ マー御タガヒノコトダカラ仕方ナイ 間々木十三円 白戸ハ間々木ト僕ノ比較ガ取レナイトテシキリニ、事ワリヲシタ居タガ同君ニ先貸シ

ガアツタノダカラ仕方ガアルマイ。後チ汽車ノ中デ僕ニ見セタノヲ見ルト白戸ガ二十円村山ガ三十円ノ取り分デアツタ スベテマツヨシトシテ十五円ノ金ヲ如何ニ處分シヨ一カ一寸困ツタ 結局稲毛、河村、白戸ト五円ツ、送ルコトニシタ

▲▼174ページ▲▼ 大正4(1915)年6月12日(土)

天気 雨

五時起床 ドンヨリトシテハラ、降ッテ居タ 縁端ニ出ルトスグ下ガ海岸デ、シカモ飛行場ノ設備ガシテアツタ 横巾ハザット百五十米突ハアルダロー

海フチニ小イサナ家ガアル 其横ニ小舟ガ上ガツテ居タ處へ一人ノ女ガ來テ、約一時間半バカリシヤガンデ居タ 一寸スケッチシタ

後チ下ニ降リタガ眞(ママ)線ガヨクナカッタ

格納庫ハ新ラシイ天幕デアツタガ後チ風ガ出テ、タオレタノデ骨組ヲ取カヘル

夜八時貨車着ス

今日午後種々考ヘタ末上総屋へ十円 河村サンへ五円送ツタ 爲替料ハ白戸ニ借リル

▲▼175ページ▲▼ 大正4(1915)年6月13日(日)

天気 曇少晴

朝ドンヨリシテ居タガ後チ薄日ガサシタ

六時起床 (飛行機)ヲ讀ム。別ニ参考ニナル程ノ事モ書イテナカッタ。九時半停車場へ機ヲ取りニ行ク 晝食後、テールヲ取附ケル。早ク終ル

村山ト碁ト玉突ヲナス ドチラモ僕ノ方ガ一寸上ノ様ダ

洋服ガタ方漸クト、イタ 二十錢運賃ヲ拂フ

昨夜村山來 今朝カラ僕等ノ室ガ變ツタ 床ノ間モ机モナニモナイキタナイ室ニナツタ。ナンダカ極リガ悪ルカッタ

▲▼176ページ▲▼ 大正4(1915)年6月14日(月)

天気 晴

五時起床 一寸本ヲ見朝食後組立ニ行ク

御晝迄ニアラマシ出來。少シ西北ノ風ガ吹イタ。土地ノ人ノ話シデハコレガ吹ケバ天氣ハ大丈夫トノコト

帰宿後漸(ママ)時シテ五時頃ヨリ室田石油ノ製油所ヲ見ニ行ク 支配人ノ案内ニテ原油貯油所カラ蒸留罐、配油所、ガソリン製造所、洗條(ママ)所、製罐所、罐詰所倉庫等順次ニ見タ。後腹ヲペコ、ニシテ帰宿 夕食ハウマカッタ

▲▼177ページ▲▼ 大正4(1915)年6月15日(火)

天気 晴

昨夜間々木君ト約シテ今朝三時半一分モ違ワズ起床ス。飛行準備ヲト、ノヘ四時過ギ飛行 無事一度モエロンヲツカワナカッタトノコト

帰宿後朝食玉突ヲナス 學生ガ來タカラ説明シテ呉レト呼ビニ來タノデ行ク 十一時デアツタ

入場者少ナク宿デウント仕込ダ辨当ガ一本モ賣レナイ。新聞ニ午後ト出テ居タカラダトコボシテ居タ。午後少シ這入ツタ中學生ニ説明 四時過ギ飛行。右ノシヤフトガ少シ返ツタ 着ハアマリ遠クニシタノデ入場者ヨリ、無料ノ人等ニヨク見エタワケデ氣ノ毒デアツタ

今日ノ賣上九十円余リトハ少ナイ 無論團體其他ハ別

夜囲碁

▲▼178ページ▲▼ 大正4(1915)年6月16日(水)

天気 晴

七時起床 今日ハ昨日ヨリ少シ風ガ出タ 然シ飛行スル時分ハ昨日ト大差ナカッタ 長岡カラ伊藤共二三人見エタ。イヨ、長岡モキマルラシイ 一日無料公開デ五百円 コンドコソハヨカロー 兎ニ角柏崎モ失敗デ僕汽車ノ中デ予言シタ通り金呉レズツヒニ三百円ニ負ケテ明日ハ展覽會ダケト云フコトニナツタ

飛行ハ午後四時頃ヤツタ。今日エンマ市デ町デハ大変ニギヤカダトノコト。シカモ今年ハ天氣ハヨク飛行機ガ飛ブト云フノデ例年ヨリ数倍ノ人出ダソ、ダガ向フノ岳ニ上ガツテ、チットモ這入ツテ來ナイ ソレデモ昨日ヨリハ多カッタ

▲▼179ページ▲▼ 大正4(1915)年6月17日(木)

天気 曇雨

朝五時過ギ起床 風吹き雨降ル。後晴レ。格納庫ヲ嚴重ニス 今日展覽ノミ 説明四五回 發動機モ同ジク廻ス 四時最後ノ説明中、風吹き出テタレバ中途ヨリ話シヲ進メ終ルヤタ、チニ分解トニツトメ六時半ニ六十丁ノ道ヲ運搬シテ停車場ニツキ七時過ギ積込ミテ終リ帰宿 白戸村山ハ二時ノ汽車デ長岡ニ行ク 荷造リ中雨降り大キニ困ル夜ビールヲノム 余十円 間々木ニ円小遣トシテ貰フ。手取り三百円ノ由

▲▼180ページ▲▼ 大正4(1915)年6月18日(金)

天気 晴 暑シ

六時起床 七時モタエ氏ニ電話ニテ天幕ノコトヲ話シ八時半ニテ出發後。十時長岡着
機体ヲ下ス時丁度雨降ル。午後晴ル 飛行場ヲ見ニ行ク 昨日ノ雨ニテ増水シ話シ二聞
キタルト大變ナ相違ニテ僅カニ二百米ノ三百米位ノ州アルノミナリキ 帰途巡廻シテ見ル
ニ、セマキノミナラズ周囲コトゴトク高クモノニナラズ。帰宿後散髪ニ行キ市街ヲ見ル
夜初メテ氷ヲノム。ヤット眠レル

▲▼181ページ▲▼ 大正4(1915)年6月19日(土)

天気 晴後雨曇

五時起床 車ヲ飛バシテ飛行場ヲ見ニ行ク 大分水ハ引イタシ空モ晴レタノデ八時運
搬ス 十一時頃カラ組立ニ着手 土手カラ川原ニ降ロス時困難シタガ四車輪ノ適効ヲ
發揮シタ 三時頃ホゞ出來上ル 雷雨アリ 六時完成 天幕ヲカブセル 箱ノ様ニナッ
テ、コノ方ガ格納庫ガアルヨリ、ヨホドマシダ。コレカラ天幕ヲツクルナラ、之レ式ニ造ルベ
シダ 風ニ対シテモ丈夫ダ

七時頃カラ又雷雨アリ 水カサ増シ來ル 後雨止ミタレドモ水増ス 十二時頃二寸バ
カリ水減ジタリトノコトニヤ、安心シテ眠リニツク。一時タチマチ、ヨビ起コサレル
裸体ノマ、ナイフヲ持チ行ク 舟ハ繩ヲツタヒテ行ケル様ニナツテ居ル 初メ立ツタマノ
處アヤフク水ノ中ニ落チル處デアッタ

機ヲ高處ニヨケテ帰ッタノガ一時半 二時ノ鳴ルノヲ聞イテ眠ル

▲▼182ページ▲▼ 大正4(1915)年6月20日(日)

天気 曇後雨

五時一度起キタガ曇ツテ居タ 再ビ起キタノガ七時 雨が降り出シタ。トテモ、ダメダ
ガ一寸電話ヲカケテ見タ 中止ト決ス 其中雨モヤミ人モ大分出ルノデ十時頃又電話
ヲカケタ 滑走場モ水ガ引イタノデ、ヤル事ニシタ スグ準備ニカ、リ一時半第一回飛
行 随分大キク市ヲ横斷シテ帰り場ヲ一週(ママ)シテ着陸シタ。石コロガ氣ニナツテ永ク
ノバシテ降りタノデ行キ過ギルノヲ間々木君ガ押ヘタノデ止マツタガ、車輪ガ一個。ハン
クシタ。ソレヲ直シニヤリ余ハ後部ノ櫓ヲ直シガソリントオイルヲ差シ準備ス 今日ハ左
右ノ角度ハヨイカナントモ云ワナカッタ 四時半第二回飛行終ルヤ一寸説明シ分解ス
二回目ニ三個。パンクシタ 石コロハヨクナイ。分解ヲ終リ運送屋ニ渡シテ帰ヘタノガ九時
朝カラ今迄ソバ一杯デ、腹ノヘッタノモ分カラナクナツタ。ドコカ御馳走ヲスルカオトテ
待ツテ居ルトノコトダガヨシテスグ床ニ入りアンマヲタノム

▲▼183ページ▲▼ 大正4(1915)年6月21日(月)

天気 少雨後晴

六時起床 囲碁ト市内散歩。白戸六時ノ汽車ニテ帰京ス 長岡ト五泉デ四十円ダトノコト 何シノコトダ 間々木君モ十五円トハ、カワイソ。モー一ヶ所モヤレバ練習ノ爲メ帰ルコトヲ話シタ 白戸モ認メタ
昨夜大キナ暴シ(ママ)ガアッタ 昨日飛行シテヨカッタト思ツタ

▲▼184ページ▲▼ 大正4(1915)年6月22日(火)

天気 晴

五時起床 六時過ぎ入浴 村山昨夜ヨリ帰ヘラズ 十時頃漸ク帰ル 吉野氏來 百九十円持ツテ來タ 僕等ノ方ハ五十円ヨシタ 五円貸シテ呉レトノコト
十二時出發 三時五泉着 新谷屋ニ投宿。内藝者ガ二三人居タ。夕方三味線ノケイコ、ウルサイ
夜十時頃飛行機ヲ荷下シス
今日ハ終日頭ガヘンデアッタ
長岡出發 アリアワテ、御守リヤ化粧品入レヲ忘レテ來タ。電話ヲカケタ

▲▼185ページ▲▼ 大正4(1915)年6月23日(水)

天気 晴後雨

七時頃起床 朝食後仕度シテ學校ト村松ノ軍隊並ニ中小學ヲ廻ツタ 軍隊中學ハヤ、良好ノ挨拶デアッタガ軍隊ハ丁度ケンエツニナルノデダメ 小學ハ飛バナイデハトテ之レモダメラシカッタ
午後格納庫ノ建築ヲ見ニ行ツタ
稲毛ヘ十円 河村氏ヘ十円 豊サンニ二円送ル
夜夕食後遊廓ヲ見ニ行ツタ。ソツケモ愛想モナカッタ。スベテ越後ハコードタトノコト 十二時頃帰宿ス

▲▼186ページ▲▼ 大正4(1915)年6月24日(木)

天気 晴

今日ハ格納庫ノ番ヤラ囲碁ヲヤッタ 田村君ト三目オイテ三度勝 二目オイテ二度カッタ 夜五目並ヘハ勝負ナシ
夜十一時頃飛行機ヲ運搬スルニ付其前三間々木君ト洋食ヲ喰ニ行キ藝者ヲ二人上ゲル。飛行機ヲ運搬中、大ツブナ雨ガニワカニ降ツテ來タ 少シデ小止ミニナツタガ宿ノ半玉ガ傘ヲ持ツテ來テ呉レタ 八幡社迄一所ニ行ツテ帰ル

▲▼187ページ▲▼ 大正4(1915)年6月25日(金)

天気 晴雨

七時起床 十時頃カラ組立ヲ初メ三時完成シタ ソレカラ帰宿 囲碁ヲナシ後チ、フキノ佃煮ヲ河村ノ御母サンニ送ル

夜アンマヲ取り眠ル

村山ヨリ手紙來 飯田ニ出張セリトノコト

白戸ニソレニツキ今後ノ方針其他ノ打合せノ手紙ヲ出ス

▲▼188ページ▲▼ 大正4(1915)年6月26日(土)

天気 雨後晴

七時起床 時々降ツタノデ今日ハダメト思ッテ居タ 罇氏ハ長岡へ行ツタ。後チ晴レタシ、小學校ガ一ツ八十名バカリ來タノデ開會シタ。夕食ハ中止シテ帰宿シタ

宝田小口ノ田中氏午後來 夕食ヲ馳走ニナル 後チ迎ヘニ來タノデ場ニ行ク 大分晝間ヨリ景氣ヨカッタ。今日ノ入場料三十四円余トノコトデアッタ 時間ハ午後カラ六時迄七時カラ九時半頃迄デアッタ

晝宿ノ半玉、玉チヤンノ写真ヲ貰ツタノデ田村氏ニ大分ヒヤカサレタ 十時頃帰宿後 田中氏外ニ伊藤ト主人ト五人デ初マリ、猫ノ名人イネ子ト今日新潟カラ帰ヘテ來タト云フ梅子トテ一時頃迄サワグ

▲▼189ページ▲▼ 大正4(1915)年6月27日(日)

天気 晴

終日晴レ 七時起床 八時半會場ニ行ク 午前中市日デ大分人が這入ツタ 沼垂展覽會ヲ行フベク白戸ト電報其他ノ通信ヲシタ。夜十一時帰宿後ビールヲノミナガラ沼垂ヲ八十円明日記念デ渡スカラ若シ規定通金ガ上ガレバモ一二十円渡ストノコト 規定通りトハ当新谷屋ノ主人ガ主催スルノデ、帯(ママ)在費格納庫ノ費用等ヲ待(ママ)チ罇氏が運賃旅費ヲ持チ新谷屋ガ七分罇ガ三分ノ分配トノコト。ソレガウマク行ケバ罇ガ四分取ルコトニナルノデ四分取レバ二十円罇ガヨコス契約デアル

夜玉子ニ写真二名ト年ヲカ、セタ。後チ繪葉書ヲ持ッテ來テイネチヤンニ見セナイデクレト居イテ行ツタ

今日ハ正午頃電路ノ故障デ發動機ガ動カクナツタニハ、大分困ラサレタガ、後直ツタノミナラス、バッテリーダケデスタートスル様ニナツタ

◆▼1900ページ◆▲▼ 大正4(1915)年6月28日(月)

天気晴

午前中ステキナ天気デアッタガ午後カラ、曇ッテ風が出タ。夜八時頃メヅラシク火事がアッタガ間モナクヤンダ 今日ノ入場者僅カニ料金トシテ十円バカリデアッタ

夜ビールヲ呑ム。イネ子ト万、玉、三人遊ビニキタ イネ子ガ下ノ滑稽ナ話ヲシテ随分笑ワセタ

十二時頃床ニ入ル。玉子ノ熱ガ大分高クナッタ様ダ 今日モ繪葉書ヲ、ワザ、持ッテ來タリシタ

種々曲折ノ結果沼垂契約出來八十円取ル 間々木君二十円ヤル 其旨白戸ニ打電

◆▼1911ページ◆▲▼ 大正4(1915)年6月29日(火)

天気雨

寢過ゴシテ起キタノガ八時 雨ハシャ、降ッテ居タ 朝食後分解ヲ初メ二時頃貨車ニ積終リテ帰宿 六時ノデ立ツツモリデ晝食夕食ヲ一度ニ喰フ 處ガ広告ノビラガ出來ナイノデ八時半ニバス。坐敷ニ寢コロンデ居ルト玉子ガ、ローカノ方ヤ向ヒ坐敷へ出テハ顔デ仕方ヲシタリ手マネキシタリ、手紙ヲ寄コセトログセノ様ニ云ッテ居タ 裏坐敷ニ客ガアッタガ行ツタリ來タリ落附カナイ様子デアッタ 車ガ來テ出ル時ニ六皆ト一所ニ見送りニ出テ居タ。十時沼垂着。豫期ホドノ停車場デハナカッタ

◆▼1922ページ◆▲▼ 大正4(1915)年6月30日(水)

天気晴

運送屋ニ起サレテ六時起床 貨車カラ降サセル。格納庫午前中ニ健(ママ)ル筈ニテ僕ハ朝食後車ニテ新潟ニ行キ宗里君ニ會フ 又林少佐ニモ対面ス。鳥飼グレゴアヲ賣ルトノコト手紙ガ來テ居ルノヲ見セテ貰ヒ、アワヨクバ罇ニ一ツ話シテ見様ト思ッテ手紙ヲ貰ッテ帰ル。帰宿後、玉子ノ写真カラ肖像畫ヲ書ク 丁度御晝頃出來上ル。午後組立 林少佐來 帰宿 夕食ヲ共ニ飛行談ヲナシ氏ハ帰ル

◆▼1955ページ◆▲▼ 大正4(1915)年7月1日(木)

天気晴

七時起床 仕度シテ行ク。場所悪カリシ爲メ入場者極メテ少ナク終日ヲ通ジテ十円ノ金ガ取レナカッタトノコト 夜ハ僅カニ六十九銭ノ入場料ナリシト

帰宿 スグ床ニ入ル。白戸夜來 一寸會ッテ又眠ル

▲▼196ページ▲▼ 大正4(1915)年7月2日(金)

天気 晴

本日入場者昨日ヨリ更ニ少ナク終日入場料五円余 夜ハツヒニ中止ス。田村氏ニノロケ賃トシテ洋食ノ契約アリ 本日夕方會場前ノ末広ニテ約ヲハタス。田村氏用事アリ先キニ帰ル アトニテ又ノミカツ喰ヒ十時頃出カケントスル處へ白戸罇ニ氏來 共ニ帰宅 三條明日三十円金受取り着 展覧一日後殘金受取ルトノコト。其レ之ノ打合セラナシ 十二時頃ニ氏ト共ニ遊廓ヲ見ルベク行ク。サスガ新潟ハ五泉ナドハ比ニナラナカッタ。 二三回ヒヤカシ山水樓ニ上ル 此處ガ一番女ガソロッテ居タカラ 二時頃床ニ入ル

▲▼197ページ▲▼ 大正4(1915)年7月3日(土)

天気 晴

五時一度目ヲサマシタガ又眠リ六時起床 皆ヲ起シテ帰宿 白戸七時二十分ニテ米沢方面ニ向フ 余等ハ分解ニ行ク 十時半場内ニ持込ミ帰宿 晝食 午睡ス 貨車間ニ合ワズ間々木君ヲ殘シテ長谷川、田村ニ氏ト四時五十分ニ乗レズ五時五十分ニテ三條ニ行ク

七時半三條着。石川屋旅館ニ入ル 坐敷ニ通ルト不思議 玉子ガ居タ。夕食後散歩ニ出タガ散髪ヲシテ帰宿 床ニ入ル

今日三十円金來 十円罇氏渡 二十円受取ル。今一ヶ所分契約金トシテ十円來ル筈 來ラズ三條ニテスグ受取り呉レトノコト 外ニ宿拂罇氏四円余 長谷川氏五円貸ス 間々木君五円渡シ居ク

▲▼198ページ▲▼ 大正4(1915)年7月4日(日)

天気 晴後曇

七時起床十時頃貨車附キ荷下シニ行ク。帰宿 間々木君來 白戸ト田村長谷川、玉子ト會場ヲ見ニ行ク 帰途裏通りヲ廻ッテ帰ル。午後困碁ヲ田村君トナス 玉子來リテ、イタヅラシテサセズ大敗ス

夕方玉子帰ル 長岡ノ藝妓屋ニ賣ラレルコトニナッタトノコト 六百元ニテ本日ヨリ六年六ヶ月 今日ハ五泉ニ帰ル由 可愛(ママ)相ナモノダガ本人一向氣ニシテ居ナイ様子デアッタ。小サイ時カラ花流(ママ)界ニ居タノデ別ニソシナコトヲ不思議トモ思ワナイト見エル 後チ銭湯ニ行キ夕食後散歩 村山ヨリ電話アリ 金取り次第送金シテ呉レトノコト。アンマヲ取ッテ床ニ入ル 時九時

▲▼2001ページ▲▼ 大正4(1915)年7月5日(月)

天気 曇後晴

午前中各學校ヲ廻ル 此處ハ大分前景氣ハヨサソデアッタ

御晝過ギ階段ノ處デ居ル躰表ヲ見テ居ル處ヘ一台ノ車ガ來タ 紺ノセビロヲ來(ママ)テ居ルノデ、タレカト思フト大口デアッタ 早速二階ニ上ゲ其後ノ話ヲ聞キ且ツ語り二時頃出テ小料理屋ニ行キ二人バカリ上ゲテビールヲ呑ム 志村金出來ズ、不調ニナリソートノコト。五時頃帰宅

夕食後、此處ノ主催者ガ來タ 挨拶モシナイシ、イヤシソーナ人物ノミナノデ大口トスグ又出カケテ、ノム處ヘ田村間々木ニ君モ來 十一時頃帰宿ス

▲▼2000ページ▲▼ 大正4(1915)年7月6日(火)

天気 曇少雨

夜明ケ頃カラ降り出シテ御晝前上ル 午後組立 大口十二時半ニテ天王ニ志村ト會見ノ爲メ行ク

三時半頃白戸ヨリ電報アリ 十四、五、六、山形ヤルトノコト 間ニ合フカヘントアッタガ處不明ニテ返電セズ 其内又二十三、二十四ヤルトノコト。スグ柏崎ヘ電話ヲ田村氏ニ依頼シ聞合ス 不明。長岡ノ村山ヘ電報打ツ。返事ト電話ヲカケテ呉レトノコト 夜電話ヲ懸ケル。イキナリ金ノ請求ヲナス。シヤクニサワルコト頗シ。白戸ノ宿ハ駅前後藤トシレル。十六日ヨリ早く出來ヌト云ツテヤル

▲▼2001ページ▲▼ 大正4(1915)年7月7日(水)

天気 曇リ

八時起床 出懸ケル。中々人氣アリ 學校團體ガ千百名以上アッタ。夜ハ割ニダメデアッタ 全部デ百二十円余取上ガッタトノコト

午後村山來 五時五十分ニテ山形ニ向フ 金三十円村山渡シ

夜十時半帰宿 腹ハツテ居タガ喰フモノモナク餅菓子ヲ二ツばかり馳走ニナル 床ニ入り、アンマ來 眠ル

▲▼2002ページ▲▼ 大正4(1915)年7月8日(木)

天気 晴

八時起床 昨夜カラ此次ギヤルトカヤラヌトカ色々ナ事ヲ云ツテ縣引ヲスルノデ、夜トードーヤメルコトニシタ。學生團體モ三ツばかり來タ 夜ハ三錢均一ニシタ處八百人バ

カリ這入ツタ 全収入昨日共百八十円ばかりアツタトノコト

十時帰宿。ソバヤへ行く。ソバナク、ウドシヲ喰フ 酒ヲ呑ム。ソレカラ女郎買ニ行く。新谷屋ニ引受サセタ

眠クテ、ドシナ女カヨク顔ヲ知ラナカッタ

▲▼203ページ▲▼ 大正4(1915)年7月9日(金)

天気 雨風曇リ晴レ

ヒヨイト目ヲ醒マストモ一明カルイ 横ヲ見ルト女ガダラシナク寢テ居ル。起コシテ見タガ眠ツテ居ルノデ何時ダロト思フ内ダレカガ六時十五分ダト云フノヲ聞イテ、スグ飛起キ皆ヲ起シテ帰宿 タヅチニ分解ス 九時頃朝食 雨ガポツリ、ト來タ 運送屋ガ中々取りニ來ナイノニ、ヘイロシタ 雨ハ一シキリ、ツヨク降ツタリ止ンダリ又晴レタリシタ。二時頃間々木君ニ積込ンデ貰ヒ、五時五十分ニテ出發ス

今朝山形ニ電報ヲ打ツベク書テ居ル處へ、一寸待ツテ呉レトテトードー喜多方ヲヤルコトニナツタ

新津デ辨当ヲ求メ思出多キ五泉ヲ通過シテ十時喜多方ニ着 入浴 夕食 床ニ入

▲▼204ページ▲▼ 大正4(1915)年7月10日(土)

天気 晴

朝ノ内一寸學校ト郡役所ヲ廻ル 二時半頃ヨリ駅へ機ヲ取りニ行キ羽ダケ組ンデ夕方帰ル

村山へ到着ヲ打電ス

▲▼205ページ▲▼ 大正4(1915)年7月11日(日)

天気 晴

七時起床 組立ヲナシ十時頃發動機ヲ廻ス。ドーモ工合ガ悪イ。カーブレーターヲ一パイ開ケルトバラ、トヤルノデ、テツキリ此前ノブンガ又動クノダト思ツテシラベテ見タガ何ントモナイノデ、又ヤツテ見タ シバラクスローデ長クヤツテ、ソレカラ一パイ出ストヨクナツタ。思フニ小イサナモノガツマツテ居タモノト見エル ソレカラ調子ハ大變ヨクナツタ。本日入場料廿六七円トノコト 明日ハ祭ダカラ多分這入ルダロー シカシ天氣ガドーモアヤシイ

白戸カラ手紙ガ來テ山形ダケ最(ママ)非手傳ツテ呉レト云ツテ來タ

▲▼206ページ▲▼ 大正4(1915)年7月12日(月)

天気 雨晴曇

朝大雨 延期ノツモリデ山形ニ電報ヲ打ツ

御晝頃カラ晴レタ 御祭りダシヤルコトニナル。然シ金六マダヨコサナイノミナラズ、天狗モ帰ヘツテ來ナイノデ、田村君ニ話シテ昨日ト今日ノ收入ヲ全部貰フコトニシテ開會シタ。夕方昨日ノ分ダケ取ル筈ノ處田村君ノ言葉ニテ夜ニ延バシタ。夜ハ大分賑ワツタ 藝者ノ手踊モアマリ面白クナカッタ 十一時終リ十一時半帰宿シタ處、金六三田ト云人間ガ持ツテ帰ヘツタトノコト。田村氏ニ行ツテ貰フ 余ハ眠ル

▲▼207ページ▲▼ 大正4(1915)年7月13日(火)

天気 晴後雨

朝カラ田村氏三三田ノ處へ行ツテ交渉サセタガ結局ダメ ウルサイノデ機ハ分解シテ、色々交渉ノ末田村氏二十五円ノ借用書ヲ書カセ五時五十分ニテ出發ス 十時郡山乗替 氷ヲノム。金ガキリ、一パイナノデ三等ニ乗ツタ 御蔭デ暑イ苦シイ目ニ余ツタ

▲▼208ページ▲▼ 大正4(1915)年7月14日(水)

天気 晴れ

四時四十分無事着 スグ前ノ後藤旅館ニ入ル。マダ二人共寢テ居タ。自分モトナリ坐敷デ、其マ、寢込ンデシマッタ 七時頃目ヲ醒シタ

スベテ報告後ガマロヨリ調べテ見ルト廿四銭残ツテ居タ。晝食後練兵場ヲ見ニ行ツタ 附近ガ開イテ居ルノデ非常ニヨカッタ 帰ツテカラ各方面へ手紙ヲ出ス

今朝北海道ノ人間デ武田ト云フノガ來タ 元競馬ノ騎手ヲシテ居タトノコト。金ヲツカヒハタシテ、シマツテ、最(ママ)非ツカツテ呉レトノコトデ飛行機ノコトハ余程以前カラヤリタカッタガ出來ナイノデ其爲メ六日カラ東京へ野島サンヤ星野ヲサガシニ行ツタノダトノコト トートー日給五十銭ヅ、ヤツテカツテニ、泊ツテ手傳ツテ見ヨト云フコトニナツタ

▲▼209ページ▲▼ 大正4(1915)年7月15日(木)

天気 晴

六時貨車ガ着ク 運搬シテ今日ハエンジン廻リヲスツカリ調べタリ、タイヤヲ直シニヤツタリ、方向舵ノ頭ヲワスレテ來タリシタノデ大変、オソクナツテモツヒニ出來ナカッタ 明朝ハ三時起床

▲▼210ページ▲▼ 大正4(1915)年7月16日(金)

天気晴

二時半頃目ヲ醒シタ 三時頃カラバラ、出来(ママ)ケル人ガアッタ 三時半起床 場ニ
行キ準備ヲナス 白戸ガガソリンパイプヲ折ツテシマッタニハゴローニヤシタガ早速ハヅシ
テ修理シ七時十五分飛行シタ 心配シタ發動機モ大変工合ヨクナッタ
後チ朝食後展覽會 三千余ノ入場者ガアッタトノコト
此處ハナントナクスベテガ氣持ヨサソノダ

▲▼211ページ▲▼ 大正4(1915)年7月17日(土)

天気晴

今日ハ終日飛行日和デアッタ 午前午後ニ通ジテ展覽會ハ昨日ノ約倍数ノ入場者ガア
ッタ

夜八時四山樓ノ歡迎會ニ望ミ、一時間位ニテ帰宿 夕食後十一時床ニ入ル

▲▼213ページ▲▼ 大正4(1915)年7月18日(日)

天気晴

三時頃カラ表ヲゾロ、人ガ通ルノデ眠レナカッタ 五時起床 場ニ行ク 数万ノ群衆ハ
スデニ多ノ軍隊警官、消防等ニヨツテ練兵場ヲ□形ニ取マイテ居タ 一寸十万ト云ワレ
テ居タ 六時第一回飛行 西ニ向ツテ滑走百米 大キク市街ノ上ニ行ツタガ大分ユラレ
テ居ル様デアッタト思ツテ、スグ廻リ出シテ田甫(ママ)ノ方ヘ行キ場上ヲ一周シテ無事
着陸 ワイヤーガ一本切レタ。波状ヲヤツテ居ル時キレタトノコト

朝食ニス 今日ハ説明ハ武田、堀田君ヤ新聞社ノ人等ガカワリガワリヤツテ來ル呉レル
ノデ大キニ助カツテ自分ハ散髪ニ行ツタリナンカシタ。夕方六時過ギ飛行 少シ風ガ出
テ居タ。晝間ヨリハソレデモヨホドナイダノデアッタガ飛行ハカナリ困難ノ様デアッタ。
終ルトスグ分解。汽車ニ積込ンダノガ八時四十分 九時廿五分デ出發シナケレバナラ
ナイノデ大急ギニ入浴夕食、出發 十時赤湯着 車デ村山氏ノ宅ニ行キ丹波屋ニ投宿。
クタブレテ居ルノニ今夜運搬シテ呉レトノコト 武田間々木ニ君ガ行ク 一時過ギニ貨
車ガ着イタトノコトデニ時頃帰ツテ來タ

▲▼212ページ▲▼ 大正4(1915)年7月19日(月)

天気晴

六時起床 温泉ニ浴シ間々木武田ヲ起ス 武田ハ時間ナキ爲メスグ東京ヘ出發サセ

間々木君ト組立ヲナシ終ツテ一回説明ヲ試ミ帰宿 朝食ガ丁度十一時半 ツヒニ今日
ハ一食ニ終ツタ。正午白戸來 夕方堀田氏來
六時半終ツテ七時頃帰宿 夕食後横ニナツタマ、眠ル

▲▼214ページ▲▼ 大正4(1915)年7月20日(火)

天気晴

午前六時起床 温泉ニ浴シ朝食後八時半場ニ行ク 十一時金全部受取ル 白戸モ來テ、
エンジンヲ廻ス。五時過ぎ白戸ハ福島ニ立ツ
六時過ぎ會ヲ終リ分解ヲ初ム 此處デハ間々木ガ何シノ役ニモ立たナカッタ。シカモ分
解ハ御晝前カラ又腰ガ痛イトモ間ニ合ワズ積込ミモ余一人デナス 九時過ぎ帰宿 荷
造ヲナシ夕食ニビール二本オゴル
今朝大坂へ點呼ノ日取ヲ電報ニテ聞キ合ス
午後來月十二日トノ返電アリタリ
入浴夕食後遊ビニ行ク 何處ノ何者カカクシテ居タガ皆様スデニ御承知デトドー化
ノ皮ヲハガレ藝者ヲ上ゲサセラレテ一時過迄サワグ

▲▼215ページ▲▼ 大正4(1915)年7月21日(水)

天気晴

五時半起床 帰宿 入浴 イ、氣持ニナツタ後朝食 前後ノ山ニ登リ八幡宮ニ参拝シ沼
ヲ見ルベク東ノ方へ廻ツタガモヤノ爲メ、見エナカッタ
七時五十六分發ニテ十時福島着 武田君ガ向ヘニ來テ呉レテ居タ 福島館ニ行ケバ妻
君ガ來テ居タ。坐敷ニ大キナ、タラヒガ据エテアルノデ何ニスルノカト聞ケバ、アマリ暑
イノデ氷ヲ入レルノダトノコト ヤガテ大キナ氷ノカタマリガニツ運バレテ來タ。ゼータ
クセンバンナトニガ、シク思ツタ ソシテソレヲ宿ノモノラニ、ホコルラシイノガイカニモ、
成金ラシイ感ジヲ與ヘテ氣持ガ悪ルカッタ
四時十八分發ニテ立ツ 六時五十分仙台着 降りテ夕食ヲナス。モ一此前來テ足掛三
年ニナル 早イモノダトソ、ロニ感ジガ深クナツタ。御松ト云フ女ハ今ハ何處デ何ヲシテ
居ルダロトモ思ツタ
八時四十分發ニテ十二時半盛岡着 村山君ガ向ヘテ居タ 帰宿後直チニ床ニ入ル。表
道路ニ面シタ下敷ノキタナイ電氣モツイテナイ處デアッタ
福島ヨリ上總屋へ十三円河村サンへ廿円送金ス

▲▼216ページ▲▼ 大正4(1915)年7月22日(木)

昨夜変ナ坐敷ニ入レラレ氣持悪クテシカタガナカッタノデ今朝モ早クカラ目ガ醒メタ
五時半頃起床 洗面後散歩ニ出カク 盛岡民報ト盛岡毎日ノ前デ新聞ヲ見タガ何事
モ書イテナカッタ 広告ノビラモ目ニ付カナイ 本屋ニヨツテ地圖ヲ求メ飛行ノ事ヲ聞
イテ見ルト知ツテ居タ。ソレカラ地圖ヲ見ナガラ公園ニ歩ヲ入レタ 中々立派ナ公園デ
アッタ。帰途圖ラズ物産陳列場ニ這ツテ繪葉書ヲ求メ帰宿
後チ白戸ト妻君ト又公園ヲ散歩シタ
晝食後村山氏ト囲碁四番立ナゲシテ一番負け後チ又一番勝ツ モーイヤダト云ヒ出
シタ

夕食後八時半機ヲ停車場ニ取りニ行キ盛岡劇場ニ運ンダガ入口ガ這入ナイ 明朝入
口ヲ広ゲテ貰フコトニシテ帰宿 十一時、直チニ就眠

▲▼217ページ▲▼ 大正4(1915)年7月23日(金)

天気 雨

午前八時宅ヲ出劇場ニ行ク 機体ヲ入レルノニ随分骨ヲ折ツタ 後チ組立ヲ初メタ方
終ル 帰宿 夕方入浴 十時就眠

村山十二時四十分ノ夜行ニテ弘前ニ行ク

本日ノ入場學生四千名 大人千三百 小人五六百 合計二百五十円バカリノ上リ高
デアッタ

▲▼218ページ▲▼ 大正4(1915)年7月24日(土)

天気 曇リ

六時起床 朝食 直チニ仕度シテ會場タル劇場ニ行ク 女子師範生ガ大分居テ待ツテ
居タ 武田ガ説明ス 今日ハ自分ハ一度ヤッタキリデアッタ

村山朝五時弘前ヨリ帰ル 千三百円ニテ契約 三百円取ツタトノコト 大分上氣(マ)
嫌デ僕ニ弘前デ禮ソーヲ一揃へ作ツテ呉レルトノコト

本日入場者大人千五百 學生千 小人五百 約二百円

十時終ルヤ直チニ分解 人足ガ多カッタノデ案外楽ニ出タ。プレーンヲ分解 表デスグ
組立練兵場ニ向ツタノガ二時デアッタ

山縣正雄君突然來 豊サンノコトヲイロ、頼マル

▲▼219ページ▲▼ 大正4(1915)年7月26日(月)

天気 曇リ

エンサ、トカケテ諸共一里余ヲ練兵場ニ附イタ頃ニ六東天スデニ白ミ渡ツテ居タガ

時々雨が降ッテ來タ 正三時半頃白戸來 組立三組手 夜ノ明ケルニツレ見渡スト広
イコト、、、平々坦々タル実ニヨイ練習場ニナリソノダ 觀衆モ大分出ダ 約四五万
見當 六時機ハ出來上ル 今日両端デ少シ角度ヲ増ス。機ハスル、ト走ッテフワリ浮イ
タ。大分少イサク、エレロガ急(ママ)ガシソーデアッタ。ナンダカ速力ガ出タ様ナ氣ガ
シタ。七分二十秒 場上ニ三四回シテ帰ッタ時雨ハバラ、又降り出シタ。白戸モ今日ハ
大変樂デアッタトノコト

屋根ノナイ囲イダケノ格納庫ニ入レ朝食後一シキリ又雨がツヨクナッタノデ、分解ス
終ッタラ九時半 丁度六時間ノ内ニ組立飛行分解シタコトニナッテ居ル。劇場へ箱ヲ取
リニヤツタガ中々來ナイデ十二時過ギヤツト來タ ソレカラ停車場ニ出シテ帰宅シタノ
ガ三時 空ハ晴レテ居タ

夜三円會費ノ宴會ヲヤルトノコトデアッタガ御流レ 余ハアンマヲ取ッテ寢ル
此分六七百五十円ばかり収入ガアッタトノコト 余ハ三十五円 間々木十円 武田五円
本日ノ収入二十余円トノコト

一ツ間違ヒ 廿五日ハ廿九日ノ處ニアリ

▲▼220ページ▲▼ 大正4(1915)年7月27日(火)

天気 曇リ

五時起床 日記手紙ヲ書キヌレ物入レヲ買ニ行キ後チ公園ヲ散歩シ朝食後爲替ヲ組ム
仕度シテ出發 村山氏ニ依頼シテ錢ビン三個角鍋四個ハシ一個ヲ求メテ貰フ 金四円
六十錢トハ安カッタ

九時廿五分ニテ發車 尻内迄寢テシマッタ 二時四十分青森着 入浴 晝食 四時十
分發 大シヤカニテ白戸夫妻下車 五時半無事着 佐々木旅館ニ入ル 手紙ヲ出ス
入浴 夕食 村山氏ト囲碁

夜ハミガキ石鱈繪ハガキヲ求メ、名刺ヲ注文ス

▲▼221ページ▲▼ 大正4(1915)年7月28日(水)

天気 晴

五時頃起床 日記

朝食後村山ト囲碁 今日ハ大分成績ガ悪ルカッタガ午後勝ッタ

晝食後練兵場ヲ見ニ行ク 広イガ凹凸ノハゲシイ處デアッタ 帰途大円寺ノ塔ヲ見テ
帰ル

今朝盛岡ノ約束ニヨリ村山ノ起キナイ内ニ呉服屋ニ電話ヲカケ依服ト袋ヲ注文 キモ
ノハ八円廿錢 ハカマ十七円五十錢 ヌイ賃ナドデ廿四円四十錢

此處ノ主催者佐藤ト云フハマダ十七八ノ小供デアッタ 新聞社ノ主催名儀(ママ)シタ
處カラ記者連中ガ毎日々々酒バカリ呑ンデヤリキレナイトノコト 記者ハ我等ノ處へ一
人モ來ナカッタ
夜ハヤクアンマヲ取ツテ眠ル

▲▼222ページ▲▼ 大正4(1915)年7月29日(木)

天気 晴

朝ドンヨリトシテ後晴レ 晴レテモ大シテ照リモセズ從テ風モナク頗ル付ノ飛行日和デ
アッタ

クラブカラ広告ノ事ニツキ伊藤ト云フ若イ男ガ三四度來タ ツヒニ一日百円デ翼ノ下
ニクラブト、現ワシ他ニ白戸ニ金メタルヲヤルトノコト 村山モソレヲ貰フコトニシタト。ソ
シテ僕ニ袴ノ方ハゼロニスルカラトハ初メカラノ話シ 村山モ割ニ正直ナ男。大坂へ帰ル時
其伊藤ト云フノニ添書ヲ貰ツテ太陽堂主人ニ面會シ、出來得ベクバーツ二三千円出サ
セル計畫ヲ立テタ方公園ヲ散歩シナガラ色々考ヘタ。スルト村山ハグレゴアヲ買ツテ君ニ
マカセルカラ最(ママ)非一所ニヤツテ呉レトノ話シデシキリニ好言ヲ用ヒタ。音次郎君モ
大分好運ニナツテ來タゾ
夜早ク床ニ入ル
飛行機ノ運搬ハ五時頃武田間々木ニ君ガヤツテ呉レタ

▲▼223ページ▲▼ 大正4(1915)年7月25日(日)

天気 曇リ

七時過ギルト學生ガ來テ居ルカラスグキテ呉レトノ電話 仕度シテ行ク 小學校ダケ
約千名以上入場シテ一階二階三階舞台迄満員 一ツ説明ヲナス 盛岡尋常高等小學
校ガ約九百名バカリデアッタガ長沢中尉ガ同校ノ出身デカクハ熱心ニ來タトノコト
夜十時迄約六七回説明シタ 夜ハ武田ガ二度バカリヤッタ

▲▼224ページ▲▼ 大正4(1915)年7月30日(金)

天気 晴

今日ハ御晝頃風ハ少シアッタガ朝夕ハハリヨカッタ 練習トシテ間々木武田二人ニ組立
ヲサセ余ハ櫓ノツケ替ヘヨナス プレーンヲ組ダケニ晝迄カツテ乗セテカラモ柱ヲ違エテ
居リタリ、ボートノ穴ヲ間違テ居タリ色々ナコトガアッタ 決(ママ)局角度モソロハナカ
ッタ。ソレデモ形ダケハ出來テタ方帰宿 道ガ遠イニハ閉口

切符ハスデニ大人ニ万賣レ師團カラ三百円寄附ガアリ賣店ガ六十円取ツタトノコト

何ニシロモ一カレバ結構ナリ
村山昨夜クラブノ伊藤ヲ、ドコカニ呼ンデ話シヲシタトノコト 僕ニ最(ママ)非ヤロト
相談ガアツタ。一寸考ヘテヤラナイト馬鹿ヲ見ルト思ツタ。シカシ自分モ人デヤルヨリ氣
樂ハ氣樂ダ。
白戸午後來

▲▼225ページ▲▼ 大正4(1915)年7月31日(土)

天気晴

朝大変曇ツテ居タガ八時頃ヨリ暑クテタマラナクナツタ 七時ニ場ニ行クノガ八時頃ニ
ナツタトカデ夜主催者ノ方カラ文句ヲ云ツテ來タトノコト
馬鹿々々シイ 明日カラ車ニ乗ルコトニシタ 尚金ノ取引ヲ明後日ニシテ呉レトノコトデ
アツタガコトワツタ由
夜八時帰宿 夕食後囲碁 白戸三時ニテ又温泉ヘトカヘ行ツタトノコト

▲▼228ページ▲▼ 大正4(1915)年8月1日(日)

天気晴

朝カラハッキリシタ好天気 風モ大シタコトハナカッタ
今日ハクラブノ風船ガ上ガツタ
朝行クトスグ晝食ノ時金ノ受渡ヲ請求シタ
晝食ハ大円寺前ノ石川ニ行ク 暑イ道デアツタ
四百円ヨコシタトノコト 明朝飛行前ニ残金取ル筈デ展覽會ヲナス 午後ハ入場者ナシ
七時終ツテ帰宿
白戸温泉ニ行キ午後三時頃帰り來ル

▲▼229ページ▲▼ 大正4(1915)年8月2日(月)

天気晴

午前四時起床 朝食ヲセズグ場ニ行ク 思ツタ程人ハ出テ居ナカッタ 場内ハマダ広々
シテ居タ 説明中ニダンダン多クナツタ 三時頃ニハ約二三万ハ這入ツタ様ダ 然シ後ニ
聞クト金ヲ取ツタノハ四千バカリダツタトノコト ナンダカアテニハナラナイ
格納庫内デ一回試運轉シタガヨク廻ツタガシマイニバラ、キレテ止ツテシマッタ 変ンダ
ト思ヒナガラ場ニ出シ廻シタ處バツクヲシタリバラ、廻ツテ止ツタリシタ ヤツサモツサ、
マグネトロ、ソージスルコト式回 ヤツト廻リダシタノガ十時 大分見物ガヤカマシカッ
タトノコトダガ、ソソナコトハナンニモ分カラナカッタ 飛揚ハ低クカッタノデ、ハラハラシタ

ガ無事

午後展覽 六時過ぎ飛行場上四週(ママ) 大分今迄ニナイ、イ、氣持デアッタ 岩木山ノ上ヲカスメテタ日ヲ下面カラ受ケナガラ飛ブ處ハ実ニヨカッタ。

直チニ分解五所原川(ママ)行馬車ニ積ム 十時帰宿 入浴 眞黒デアッタ 食事 十二時半就床

弘前ハ砂ホコリノヒドイ處デアッタ

▲▼230ページ▲▼ 大正4(1915)年8月3日(火)

天気晴

七時頃起床 仕度 九時三十六分發ニテ出發 十時過ぎ大シヤカ着 來テ居ル若イ自動車ハスデニ満員デ乗レナカッタノデ次ヲ待ツ 中々來ナカッタノデ一寢入リシビールヲ呑ム内來。五所川原ニ向フ 一二里ノ間ハ山道デアッタガソレカラハ平野ニナッテ三時頃着 中久ニ入ル 白戸ノ兄サンヤ忠雄サンニ會フテ挨拶 晝食後場ニ行ク 機ハスデニ着 大分ユラレタラシク、シカモ後ノ台ガ折レタトノコトデワイヤーガ一本切レテ居タ。下シテ組立 夕方早ク出來上ル 帰宿 入浴 夕食 アンマ、スグ眠ル

今日五十円貰フ 五所川原ハ義務 間々木十円 武田五円 僕ノ五十円ハ村山カラ云ヒ出シタノダトノコト 野心カ、余ノ技術ヲ認メテカ？

▲▼231ページ▲▼ 大正4(1915)年8月4日(水)

天気晴

五時起床 六時半朝食 武田ヲ先キニ場ヘヤル

七時余モ行ク。八時頃カラ大分景氣ヨクヤツテ來タ 午前中ハ小學團體ガ多ク午後ハ地方ノ人ガ多カッタ。スベテデ夜十時迄ニ六千位ハ這入ッタダロー 展覽會トシテハ今日迄ニナイ成功デアッタ

午後白戸來 八ノ戸千円ニテキマリ七日組立八日九日十日ダトノコト 六日朝出發 明日夜分解發送 七日ノ組立ダケ手傳ツテ帰ルコトニ決ス 夜十一時帰宿

▲▼232ページ▲▼ 大正4(1915)年8月5日(木)

天気晴

午前六時起床 入浴 朝食 八時場ニ行ク

今日ハ入場者少ナカッタ 初メニ万ノ余(ママ)定デアッタノガ這入ナイトテ、コボシテ居タ。ソレデモ昨日今日デ貳百五十円バカリ這入ッタトノコト 先ヅ損モナイ筈

午後武田間々木ヲ夕方迄寢サセル
夜終ルヤ分解 荷造リ 十二時發送 武田間々木附添フ
夜ハ二階ニ上リ、太ツタ人(名前ヲ知ラズ初メカラ太ツタ人デ通ル)トビールヲ呑ム 高
橋モ居テ弘前デ損ヲシタナドト云ツテ居タ。契約金ヲ一厘モヨコサナイト云フ。ソシテ
筈ハナイトヨクキクト二百円ノ處百九十式円トツタ残ヲ一厘モヨコサナイトノコト 馬
鹿々々シイ
一時過ギ眠ル

▲▼233ページ▲▼ 大正4(1915)年8月6日(金)

天気 晴

五時起床 入浴 朝カラ暑ソーナ日デアツタ 六時朝食 自動車ヲ待ツタガ中々來ナ
イ 八時デナケレバ出ナイトノコトニ
白戸ノ宅ニ行ク 兄サンノ妻君ヤ御母サンニ挨拶シテ忠雄サンニ昨日写シタ写真ヲゲ
ンゾーサセル。光線ヲ引イテダメ
九時漸ク自動車來 出發 カン、照リツケル日公道ノ砂ヲ焼ケタ灰ノ様ニシテ居ル 其
砂ガ後車輪ヲスコンヘダテ、煙ノヨ一ニマキ上ツテ居ル、中ヲハダシノ小供ガ、カケマワツテ
居タ處モアツタ。一度ハンクシタダケデ無事大シヤカ着。飛行機モ今ツイタバカリデ貨
車カ六頓デ間ニ合ワナイトノコト 十時十五分ニ六乗レズ二時ノ汽車ニス 駅長ニタノシ
テ青森カラ七頓ヲ十二時廻ス 積込ミ
青森二時半着 四時五十分迄入浴 休息。
七時五十分八戸着 今日ハ不思議ト寢ラレナカッタ。八戸ニテ夕食 九時五十七分發
十時八分八戸着 御祭トカデニギヤカデアツタ 村山、白戸妻君二人來テ居タ 白戸
村山ハ若松屋 余等ハ他ノヘンナ處へ行ク。村山ハ余ノ來タノヲ驚テ居タ且ツ 嬉(ママ)ン
デ居タ。宿ニツイテ氷ヲノシテ眠ル

▲▼234ページ▲▼ 大正4(1915)年8月7日(土)

天気 晴

六時起床 洗面朝食後二人ニ駅へ機ヲ取りニヤル。手紙ヲ大坂へ出ス 九時頃場ニ行ク
マダ機ハ來テ居ナイノミナラズ格納庫ガ棟ヲ上ゲテ居ル處 急ニシヤクニ、サワツタ 若
松館へ行ク。機來ル 組立ヲ初メルノモ格納庫ガ出來ナイノデ機関部ヲ調ベル
晝食後組立 今夜終烈(ママ)車デ立ツツモリノガツヒニ立テナクナツタ 八時帰宿 入
浴 夕食 ビールヲオゴル 送別トシテ次ギニ助手トシテ心得ベキ要素ヲ話中白戸妻君
村山來

後村山ト若松館ニ行ク。井田君ヨリ、クラブ本店へ青森カラ手紙ヲ出シタトノコト。ヨ

ケレバ行ケト云フ電報ヲ打ツカラ行ツテ呉レトノコト
万事打合セヲナシ帰宿 十一時床ニ入ル

▲▼235ページ▲▼ 大正4(1915)年8月8日(日)

天気晴

六時起床 朝食後皆場ニ行ク 余モ一寸行キ帽子ヲ買ヒニ帰り散髪ヲナス 後子場ニ行ク。エンジンガヨク廻ラナイトノコト。一寸手傳フ 其中ニヨクナツタ。晝食後五十円借リル筈ノ處主催者ガモツテ來ナイノデ東京デ渡ストノコト

三時三十七分ニテ出發 白戸ノ妻君ガ見送ツテ呉レタ 點呼ガスメバ最(ママ)非來テ呉レトノコト

尻内乗替へ 四時十分發

▲▼236ページ▲▼ 大正4(1915)年8月9日(月)

天気晴

七時十五分上野着 車デ帰宅 入浴。クリーニングヤルモノハ、スグヤリ、ズボンヲ注文スルモノハ注文シ麻布ヘ行キ金ヲ五十五円受取ル。帰途加藤宮口ヘ注文シ、帰宅 氷ヲ御馳走ニナリTMニ行ク。ドコカ一ヶ所來月ヤル處ガアルトノコト アノマ、デハダメ。

三時半ニテ両国發 五時稲毛着 夏ノ稲毛ハ初メテ來タガ中々ニギヤカデアツタ
グレゴア買取りニ付大口ト相談ス

夜ナンダカ大變御馳走ヲシテ呉レタ

▲▼237ページ▲▼ 大正4(1915)年8月10日(火)

天気晴

波ト雨ノ音ニ起コサレ五時頃起床 後雨止ミ晴レル。晝食ヲスマセテ大口ト共ニ帰京 T Mニ行ク 三時帰宅 荷物ヲト、ノエ再ビ鳥飼ニ行キ夕食。一度帰宅 車ニテ東京駅ニ行ク

河村、大口、山縣三君見送ラル

今日大口二十円今迄ノ礼トシテ與ヘル

▲▼238ページ▲▼ 大正4(1915)年8月11日(水)

天気晴

大垣デ初メテ目ガ醒メタ 洗面シタガ腹ガチクチク痛ミ出シタ。京都デ仁丹ヲ買ツタ

ガ直ラナイ 梅田ニツイテ車ニ乗り賣薬会社ノ前デ、コロダイシヲ求メテノシタガマダ直ラナイ 途中デ又ノシダガダメ 帰宅 シバラクシテ宮前ニ行ク 先生不在 代診 薬ヲ貰ツテ帰ッタガダメ。安達ヘ行ツテ、ナデ、貰フ ナデ、居ル間ハヤ、ヨカッタガダメ 後チハ廿分間オキ位ニ痛シダ
夜又宮前ニ行キ安達デモンデ貰フ

▲▼239ページ▲▼ 大正4(1915)年8月12日(木)

天気晴

五時起床 仕度スル中六時朝食 七時敷サント共ニ行ク 今日待ツ内又腹ガ痛ミ出シタノデ診断ヲ受ケタ。十一時半スベテ終ツテ帰路ニツイタ

午後西九州地方ヘ行ツテ居タ四良平夫妻ガ帰ッテ居タ 共ニ西ノ内ニ行ク ビールト西瓜ヲ出サレタガ、多ク喰ワナカッタ

四時頃ヨリ姉ト濱寺ニ行ク 別ニ面白クモナントモナカッタ 飛行場トシテハアマリヨクナカッタ。アイスクリームヲノシテ帰ル 姉電車ニヨフ 今池ヨリ下車徒歩ニテ帰ル。夜食後九時頃延次郎、四良平、兄ト新世界ヲ散歩シ、ヤヨヒニ上リビールヲノシテ十二時帰宅

午前白戸ヨリ電報アリ コンヤ來テ呉レトノコト 困ツタガトニカク、アスタツト返シテヤツタ處又コンヤゼヒ、キテ呉レトノコト。丁度濱寺カラ帰ッタ時デスデニ七時デアッタノデ病氣アスヨリ立テヌト打電ス

▲▼240ページ▲▼ 大正4(1915)年8月13日(金)

天気晴

五時起床 父ガ冬ヨリ起コラス、ゼンソクニ目ヲ醒サレ一寸ナデテ居タガモヨイトテヨシタ。大分先キガ心細ク感シタ

六時温泉ニ行キ公園ヲ散歩ス 動物園ノラクダガ二疋中好サソニ顔ヲナメアッテ居タ

帰宅 仕度シテ香盧園ニ行ク。丁度海野氏ガ仕事シテ居ラレタ。名刺ヲ出シテ中ニ入り機ヲ見ル 十日間ニシテハヨク出來テ居タ。多少参考ニナツタ。シカシ飛行機ガ馬鹿ニ小サク見エタ 其筈 三十二尺位シカナイトノコト

坂本モ居タガ口ヲ聞カナカッタ 高左右モ皆近頃居テ大計畫ヲシテ居ルトノコト 何ヲシデカスカ

十二時試運轉ヲ見ズニ帰ル。梅田ノミカドニ寄ツタガ山梨君不在 名刺ヲ置イテ帰ル 岩崎ニテ時計ヲ買フ 二時間バカリ話ス 竹島ヨリ五円 義兄ヨリ五円入 六時宅ヲ出テ六時半梅田着 時間多ク山梨氏ヲ訪 ステーションヘ行ツタトノコト 待合所デイク

ヲ待ツテモツヒニ來ナカッタ 七時十五分發

▲▼241ページ▲▼ 大正4(1915)年8月14日(土)

天気晴

静岡デ目醒メ、タイメシヲ買フ

九時半東京駅着。帰宅 スグ鳥飼ニ行キ先ヅ相談ス 青森ダケハシカタガナイカラ、終
ツタラソレカラ先キハ又相談シテ呉レトノコト

帰宅後晝食 加藤、宮口、村山ニ行キ白戸ノ宅ニテ一時間バカリ眠リ夕食後青山ニ奈
良原氏ヲ訪 久シ振リデ面會 スグ帰ル 豊サンヲ呼出シ散歩シナガラ、鳥飼ノ事情ヲ
聞キ今後ノ様子ヲ注意サセル

九時上野發 豊サン見送り呉レル

▲▼242ページ▲▼ 大正4(1915)年8月15日(日)

天気晴

二時半無事着 早瀬旅館ニ入ル 白戸ガ迎テ呉レタ 白戸ノ兄サンモ二三分遅レテ五
所川原カラ來タ 三時展覽會場ニ行ク

二度發動機ヲ廻シ一度説明ヲナス 六時終ルヤ分解 運搬ニ來ル様ニナシ居キ帰宿

夕食 明朝二時運搬ト決ス。處ガ七夕祭デドンチャカ、、、、町中大サワギスルノデ
一時頃迄寢ラレナカッタ

例(ママ)車中ニテ(ウツリ行ク、景色眺メテ野グソカナ)

▲▼243ページ▲▼ 大正4(1915)年8月16日(月)

天気晴

午前七時半起床 二時展覽會場ヨリ飛行場へ運搬ス 三時半着 三十分間休息 組
立 七時六分前飛行 九分間ニテ無事着陸 午後ノ六時迄休息 十一時頃迄眠ル

午前雨がポロ、シテ居タガ晝前カラ上天氣ニナツタ 五時前村山來 金ガ濟マナイカ
ラー一寸引上ゲテ呉レトノコト 道々料理屋ヲシイモノヲ、サガシタガ無クツヒニ、ソバヤ
御料理トシタ家ニ飛込ムトアニカランヤ白首ガウシヤ、トシテ居テ大ニボラレタ。マ
サカ此處デハ會見出來ナイノデ村山宿ニ帰ル 六時呼ビニ來タノデ行キ六時四十分頃
約十分間ノ飛行ヲナス 晝間ノ風ハナイデ飛行日和デアツタ

分解終リガ八時半 御祭りデ道ハ困難シタガ丸通へ十時ニ引渡シタ 十一時半白戸立
ツ 見送りナガラ鳥飼ノ方ノ打合セヲナス 帰宿後夕食 十二時過ギ床ニ入ル

▲▼244ページ▲▼ 大正4(1915)年8月17日(火)

天気晴

午前六時起床 入浴後各方面へ手紙ヲ出ス

大口ヨリ電報來 ヨウジアルイツカヘルカヘントアリシカバヨウジシラセスグデモカエルト返電セシモ返ナカリキ

午後豊サンヨリ手紙來 最(ママ)非帰京セラレタシトノコトナリキ

午後村山外二君ト散歩ス 海岸ニ出タタル處スグ棧橋ワキニ66号水雷艇アリ 他二隻アリシモ抜錨セリ 武田君海ニ入り艇ヲ一週(ママ)シテ上ル。ソレヨリ倭武多ヲ見物シナガラ公園ニ行ク 川ヲ向ニ渡ルタトキ一人ノ女ガ化ケタマ、ヨッパラテオレナガラ、ラセ、ヲヤツテ居タ。村山コ、ヨリ帰ル

三人ニテ公園ヲ散歩シ、帰途、某旗亭ニテ夕食ヲナス藝者ヲオゴル 武田ガヨッパラツテ女中ヲカラカツテ面白カッタ

▲▼245ページ▲▼ 大正4(1915)年8月18日(水)

天気晴

午前九時起床 入浴 晝食朝食ヲ共ニ散髪ニ行ク 帰宿後村山ノマネキニヨリ、カギ屋ニ行ク 洋食ヲ馳走ニナル。クラブノ井田來 囲碁ヲナス 電話アリ 鳥飼ヨリ話アルスグカエルトノ電報來リタリト 今夜十一時ニテ立ツコトニ決ス 村山二十円借リル 五時帰宿 夕食

十一時三十分ニテ出發 帰京 村山、武田両君ニ送ラル

▲▼246ページ▲▼ 大正4(1915)年8月19日(木)

天気晴

仙台八時頃 ソレ以後朝食 四時五十二分上野着 其間五月以降ノ切抜整理ヲナシ終ル

帰宅 夕食後鳥飼ニ行ク 練習シテ呉レヨリモ發動機ヲ買ツテ呉レトノコト 帰宅 スグ大口ニ明日來ヨ一村山へ發買フカヘマト打電ス 値段其他ノ交渉ハ大口ニサセル目的 八時半宅ヲ出自戸ニ行ク 不意ニ帰ツタノデ驚テ居タ 大要ヲ話シ十分出テ十一時十五分前帰宅 今夜ハ一ツ久シ振リデドコカへ遊ビニ行コーカト思ツタガ延期シタ

▲▼247ページ▲▼ 大正4(1915)年8月20日(金)

天気 晴

朝カラ大口ノ來ルヲ待ツ 晝前來 大略話シテ鳥飼ヘヤル 午後一度帰ツテ來タガ指値シテ呉レトノコトダト シカシソレモ出來兼ネオヨソ千二百円位ト云フコトニシテ又行ツテ貰フ。夕食後電話アリ 來テ呉レトノコト 行ク。酒ガ出タ 其内人ガ來タノデ談判ハ明日ニ延期セラレテ豊サント三人デ銀坐ヲ散步シ千足屋ノ菓(ママ)物ヲ喰ツテ豊サンハ帰ル 余等ハ河村サンニ事ワツテ久シ振りデ遊ビニ行ク 東京デハ三年目ダ 洲崎ト決メテ行ク 一廻リシテ洋食屋デ確ソーナ内ヲ聞ク 新八幡ガヨサソートノコトニ行ク 成程カタイニ驚イタ 女中ハ若イモノニ祝儀ヲヤツテモ取ラナカッタ 僕ノ女ハ一竜 新瀉ノモノ 大口ノハ薄雲ト云山形ノ女 村山ヘ買フ氣デ話シテ居ルトノ電打ツ。君ノカラダハドーナルトノ返ニ買ヘバ自由ニナルト返ス

夜九時半頃村山ヨリ來電 帰ル迄話シツナギ居ケトノコト。ソレヲ帰ル、待テハナシツナギ居ケト讀ミ違ガエル

▲▼248ページ▲▼ 大正4(1915)年8月21日(土)

天気 晴後雨

七時起床 洗面後茶ヲ入レサセ七時半出ル
洲崎橋畔ニテ朝食 入浴 十時帰宅 大口麻布ヨリ鳥飼ヘ行ク。夕方帰ル トートー千二百円トニケ所ニテキメタトノコト スグ村山ヘ千二百円キメタトリヒキ如何スルカヘマト打電ス。室蘭ヘ行クトノ打電白戸ヘ來タトノコトニ心配シナガラ打ツタガ十時頃迄ニ帰ラナカッタカラ多分トビイタノデアロー。大口ノ志村ノ方ハツヒニ御ジヤン 今日ギリデ期限ハキレタ

▲▼249ページ▲▼ 大正4(1915)年8月22日(日)

天気 晴

今朝村山ヘ承(ママ)細手紙ヲ出ス 又手紙出シタ事ヲ打電ス。後チ鳥飼ニ行ク 豊サンニ、リンネルノ白服ヲ迷川贈ル。帰宅 風月ノ菓子ヲ求メ野島氏宅ヘ大口ト共ニ行ク不在 戸締ニナツテ居タ ヤムヲ得ズ大口用ニテ鈴木ト云フ宅ニ行ク ソレヨリ永坂ノ更科ニテ晝食。白戸ニ行ク 少時居テ帰宅 稲毛ヘ行クベク仕度ス 大口豊サン來 共ニ水天宮ワキノ川岸ニ行キ、大口ノエンジンヲハッシ両国ニ行ク。小荷物係ガグヅ、シテ居テ六時ニ乗リオクレル 駅員ニ小言ヲ云フ 八時稲毛着 入浴 夕食

▲▼250ページ▲▼ 大正4(1915)年8月23日(月)

天気 曇少雨

六時起床 浅間神社ニ参拝 社前ニテ松林ヲ通シテ海ヲ眺メナガラ一首ウカンダ即チ

ふそうなる高峰の山の宮居場で

飛んで参らん今の磯とり

ハミルトン使用 十馬力ノ飛行機ヲ設計シテ見タ 二十五呎ノ翼ニシテ三十哩ノ速力ガ得ラレタ 大丈夫 飛ビソダ。コレデ飛ベバ一寸問題ダ

夕方金太郎ト船ニ乗ル ロヲ押スコトヲオボエタ 初メハノベツハヅレタガ、ツヒニハヅレナクナルト同時ニ非常ニ楽ニナツタ

夕食ハ鳥ヲ一羽シメテ貫ツテ大口トノム スグ眠ル

▲▼251ページ▲▼ 大正4(1915)年8月24日(火)

天気 曇リ

六時起床 浅間神社ニ参リ海気館ヲヌケテ帰ル 客室ハ皆ガラントシテ居タ

大口ハ御参リニ行ツタマ、帰ツテ来ナイノデ見ニ行クト例ノ御シヤベリヲシテ居タ 又僕モ仲間入りシテ後帰宿

十時電報アリ 村山カラ電報来テ居ルトノコトニ早速仕度シ晝食ヲ喰ツテ行クト云フノデ十二時四十分發ニテ帰京ス

電報ハタバ〇一旅館ニ投宿シタトテシラセテ来タダケデアッタ 廿日付ノ手紙ガ来テ居タ 見ルト發動機ダケ買ツテモ仕方ガナイ 君ノ身体ハドーナルトノコトニ鳥飼トノ関

係其他ヲ書イテ室蘭へ出ス 尚クワシクハ、カギヤへ手紙出シタコトト返事ヲ急グコトヲ打電ス

今朝鱒、田村両氏へハガキ出ス

夜岩ドント公園散歩ス

▲▼252ページ▲▼ 大正4(1915)年8月25日(水)

天気 曇リ

九時頃ヨリ豊サント雑司ヶ谷ノ矢野屋ヲ訪フ 不在 約束アリ豊サント本郷迄電車ニテ来 ソレヨリブラ、参考ニナリソ一ナモノヲ、アサリナガラ浅草橋ノ今清ニ行ク 十

五分間ホドシテ鳥飼氏来 ノム 何ンダカ御馳走ニナルノガ氣ガトガメテナラナカッタ。處ガ河村サンカラ電話ヲカケテ貫ツテ呉レロトノコトツケガアッタトノコトニカケル 村

山カラ電報ダトノコト 讀ンデ貫フ

條件ナシ一二〇〇キメヨ〇カヘツテカラトノコト

今清ヲ出テ豊サント帝国館ヲ見ル 五時帰宅

村山へトリヒキイソグイツカヘルト打電ス

▲▼253ページ▲▼ 大正4(1915)年8月26日(木)

天気 曇夜雨

六時起床 新聞 八時ヨリ鎌倉河岸ノ浅野式服ヲ見ニ行ク。丁寧ニシテ見本迄クレタ
午後御母サント白戸ノ宅ニ行 御母サンハ初メテゴアッタ 仙台坂デハ大分苦シカッタラ
シイ。後チ永坂ノ更科へ四人ニテ行ク。白戸ハグレゴアヲ自分ガ買ツタ氣ニナツテ居タ。
ソノ自由ニハサセナイカラト警カイノ必要ヲミトメタ
五時半帰宅 二三日泊ツテ居タ神田ノ、ヤツチヤンハ留都(ママ)中ニ帰ツタ
夕方又村山へ返事ガナイノデ手金ダケデモスグタノムト打電シタ
夕方カラポンペイ最後ノ日ヲ讀ム 十一時帰眠迄

岡大尉所沢ヨリ高田ニ行ク 徳川大尉高崎着陸 佐藤大尉千曲川着陸

▲▼254ページ▲▼ 大正4(1915)年8月27日(金)

天気 雨

朝食新聞後鳥飼ヨリ電話アリ行ク 大阪ノコトナリ 村山ヨリ昨日手紙出シタトノ電
アリ

白戸ニ行ク 如何ニ考ヘテモ大阪デ出来レバコシラエタイト考ヘタノデ遊費ヲタノム
今日稲毛へ行クツモリノ處白戸ニテ夜ニ入り帰宅十時。夜白戸ノ妻君ト家事上ノ事ヲ
大分聞イタ

▲▼255ページ▲▼ 大正4(1915)年8月28日(土)

天気 晴

朝食新聞 鳥飼ヨリ電話アリ 行キテ共ニ稲毛ニ來ル 鳥飼何ソノ爲メニ來稻シタノカ
分カラナカッタガ後ニ聞ケバ大口ニヤハリ大阪ノ件ヲ急イデ呉レト云ツテ來タトノコト
大口トモ相談シタガドーシテモ一度大阪ニ行クコトニ決ス タゞ村山ノ手紙ヲ待ツノミ
夕方鳥飼帰ル 余泊ル

▲▼256ページ▲▼ 大正4(1915)年8月29日(日)

天気 晴

七時起床 浅間神社ニ参リ松林散歩 格納庫ニ行キ操縦法ヲ練習

グレゴア新機略圖ヲ畫ク
豊サン來 後チ鳥飼氏來 晝食後グレゴアハツス
鳥飼夕方帰ル
村山ノ手紙來ラズ
明日帰坂スベク決シタガナラ大口君ヲ一所ニ行ツテ貰ツテヨイカ悪イカニツイテ随分ナ
ヤンダガツニ決シナカッタ

▲▼257ページ▲▼ 大正4(1915)年8月30日(月)

天気晴

六時起床 浅間神社ニ参リ日記 朝食後旭號ノ重量ヲシラベタ
朝散歩中イロ、考ヘタガ大口ヲ、ツレテ行クコトハヨシアシナノデ川村サンニ相談シテカ
ラト云フコトニシタ。十一時ノ気車ニテ帰ルツヒデ來ル道デ鳥飼ニ會フ 今夜共ニ大口モ
ツレテ行クトノコト 又道デ巢鴨ノオエイサント律子サン會フ 今モ一昨日オレバヨカッ
タモノト思ツタ

両国ニテ晝食 スグ白戸ヘ行ク 川崎ニ行ツテ留都(ママ) 今夜立ツトノコト 帰途加藤
ニ寄り白戸ガ來タラ電話カケテ貰フコトニシ帰宅 村山ノ手紙ハ行キ違ヒニナツタ 大阪
カラダメノ手紙ガ來テ居タ 鳥飼ヨリ大口ヲ呼ビ川村サント相談ス 決(ママ)局手紙ヲ
マダ見ナイコトニシテ行クコトニ決ス。ソレヨリスグ又白戸ニ行ク 一時間バカリ待ツテ帰
ツテ來タ 十円借り村山ノ方ハ白戸ハ何ニモ知ラナイコト 東京ニ居ルコトニシテ帰宅
大口ガ待ツテ居タ 汽車賃ハ鳥飼ガ立替ヘテ呉レタ 八時三等急行ニテ出發 割ニスイ
テ居タ

▲▼258ページ▲▼ 大正4(1915)年8月31日(火)

天気晴

名古屋ニテ洗面 十時半無事着 鳥飼ノ宿ミドリヤニ行キ少憩後大口ト帰宅
先ヅ姉ト義兄ニ相談 夜兄帰宅後又相談 親父ハトテモダメト云フノデアス竹島ノ大
将ニ話シテ貰フコトニス
今日午後竹島ヘ挨拶ニ行ク
夜新世界散歩 ヤヨイニテ兄ト大口ト延次郎君ト四人デ一杯ノム

▲▼260ページ▲▼ 九月行事

大工十日ヨリ 頭十一日ヨリ

五日大坂ヨリ帰京
七日稲毛ニ來

▲▼261ページ▲▼ 大正4(1915)年9月1日(水)

天気晴

昨夜ノミ過ギテ氣持悪シク二階ノ座椅子ニ眠ツテ居ル處へ鳥飼來 大口ハ朝市岡ヨリ
鳥飼ノ處へ行ク
鳥飼氏ト公園ヲ散歩シ氏ハ大口君ニ會フベク帰ル 余帰宅 五二郎來 午後共ニ大山
館ヲ見ニ行ク 大汗ニナツタ
夜延次郎君ト又散歩ス 大口帰ラズ
兄ガ近頃大分金ヲ使フトテ皆ガコボシテ居タ 又近頃アツチコツチ五十円ダノ百円ニ
百円ト貸シタ金ガ皆取レナイト云フ様ナ話モ大分聞カサレタ

▲▼262ページ▲▼ 大正4(1915)年9月2日(木)

天気晴

朝食ノ時兄ト共ニ竹島ニ行ク 話モシナイ内ニ千円ダケ出スカラニ二百円ハ親父ニ出シテ
貰エトノコトデアツタ 先ヅ一寸一安心
スグ鳥飼ト相談スベク行ク 大口ニ僕ノ要求ヲ話ス 七百元ヲ渡シニ二百円デ機ヲ作り
其変リニケ所ハ取消シテ來年六月迄ノ飛行ノ分、金ヲ三分ヲ限度トシテ鳥飼氏ニ渡ス
コト 残金五百円ハ飛行毎ニ反(ママ)済スルコトト話シタガ八百円ダケ呉レトノコトデア
ツタ。ソースル
後西ノ宮へ行ク タレモ居ナカッタ 茶店デ聞クト通フガ上ガツタコトガナイトノコトデ
アツタ
夕方又ミカド館デ夕食シテ帰宅
兄ハ今夜帰ラズ 又一日延ビル

▲▼263ページ▲▼ 大正4(1915)年9月3日(金)

天気 曇少雨

朝兄ト竹島ニ行キミカド旅館ニ行ク 明日取引スルコトトシ
朝大口君ガ來タ 昨夜兄ガ帰ラナカッタノデ明日ニナツタコトヲツゲル 二階ニテ少時
話シ晝食後工場ニ行ク 久シ振リデ中島戸次ノ諸氏ニ會フ 大口君ニ工場ヲ見セ後チ
新ラシイ工場ニ行ク 兄ニ會フ 今夜ナルベク帰宅スル様話シ帰途道頓堀ヨリ千日前ヲ
散歩シ活動ヲ一寸見テ丸万ニテ大坂料理ヲ味ヒ帰宅 七時

兄帰り居ル 明朝金貰フコトニ話ス
昨夜床ニ入ッテ二時頃迄父ト話シヲシタ 二百円ダケ今朝姉モロヲ聞イテ呉レテヤッ
ト出シテ呉レルコトニナッタ。之レハ予備金トス

◆▼264ページ◆▼ 大正4(1915)年9月4日(土)

天気 雨

朝兄ト竹島ニ行キ千円ノ住友小切手ト二百円ハ兄ガアズケテアッタ金ヲ百円札ニテ貰
フ

鳥飼氏ニ宅迄來テ貰フコトヲ電話シテ自分ハ銀行ニ行ク 帰宅 少時ニシテ鳥飼氏來
ニ階ニテビールヲヌキテ八百円渡ス 賣渡書ト受取ヲ貰フ 残金ハ飛行毎ニ帰スコトニシ
スベテ一日ノ要求通リトシ六月迄ニ残金終ラザル時ハ六月迄ノ契約モ自然ソレガ終ル
迄繼續スルコト。今日ハ朝カラ五日ダトバカリ思テ居タノテ竹島へ入レタ証文モ鳥飼氏
ノ受取モ皆五日ト書イテシマッタ 右ハ後チ昨日ノ日記ヲ書キ初メテ思ヒ出シタ
午後二時ノ湊町発ニテ大口、鳥飼ニ氏ハ出發 余ハ入浴散髪 西ノ宅ニ行キ夕食後出
發 八時廿四分梅田発車

◆▼265ページ◆▼ 大正4(1915)年9月5日(日)

天気 曇リ

昨夜コンデ今朝沼津カラヤット横ニナルコトガ出來タ 十時半新橋下車 帰宅 御母サ
ン御参リ中 皆様モヨロコバレタ 明日御稲荷サンエアブラゲヲ三枚上ゲテ下サイト御
母サンガ云ワレタ

大口來 同ジ気車ニ乗ッテ居タガ、ワカラナカッタトノコト 鳥飼ハ横浜デ降りタト
後チ鳥飼氏モ來 名古屋ヲ一寸見タガ後チ二見ニ行クトツヒニ見エナカッタトノコト

大口帰稲 余白戸ニ行ク 妻君ハ塩原へ行ッテ留都(ママ) 十三円返却 ソレヨリ矢野君
ニ行ク 不在 明夜ヲ約シテ帰宅 夕食後帝国館ヲ見ニ行ク

◆▼266ページ◆▼ 大正4(1915)年9月6日(月)

天気 晴曇半バス

昨日一昨日ニ引替へ今日ハ非常ニ暑カッタ

大口ヲ待ツタガ中々來ナイ 晝過ギテヤット來タ スグ共ニ加藤ニ行ク モミジノ材料
トプロペラヲ貰ヒ櫓ヲ注文シ置ク 二十円預ケ宮口小タンバツクルヲ六十個貰ヒアト注
文 十円置ク ソレヨリ神田ノ櫻井ニ行キ買物ヲナス 廿六円支拂フ 明日晝頃迄TM
へ持参ヲタノム。ソレヨリ當間サンデアッタ、アルコール等ヲ求メ帰宅後加藤ニ行キ約束

ニヨリ親父、安、戸延諸君ト大口ト今福ヘ夕食ニ行ク 九時帰途ニツク 大口稲毛ニ帰ル 余T.Mヨリ鳥飼明日一ヶ所場所見ニ行ク由 契約ハ機出來上ツテカラニセラレタキムネノベテ居ク 帰宅 雑談 十時半就床

◆▼267ページ◆▼ 大正4(1915)年9月7日(火)

天気 雨曇リ

井上侯ノ葬儀執行サル

朝都築氏ヲ訪フ 不在 ヤムヲ得ズ野島氏宅ニ行キ格納庫ノ緯ヲ述ベ菓子ヲ出ズ 帰途青山ノ格納庫ニ梅田ノ機ヲ見ル 今朝猪口君搭乘 数尺地ヲハナレルヤ右方ニ傾キ墜落破壊セリト。シカシ前ヨリハ大分飛行機ヲシクナツテキタ。
帰途大雨ニ會フ

大口十時半來 晝食後買物ニ行ク 先ヅ松板ヲ買ヒ鉄板ヲサガス 随分骨ガ折レタガ、五厘板ハシヤブルヤノ鋼ノウマイノガアツタ。三厘板ハ矢野氏ノ宅ノヲ分ケテ貰フニシタ 七時五十五分ニテ稲毛ニ來

◆▼268ページ◆▼ 大正4(1915)年9月8日(水)

天気 晴雨風

毎日照タリ降ンダリ吹イタリ変ナ天気デアル

今日ハキタイプレーノ製圖ヲナシ写真ヲ整理ス 豊サン來

太郎右門明日カ明後日東京ヘ行クトノコト

丸通ヨリ板ト板金來

夜雑談 九時半就床

◆▼269ページ◆▼ 大正4(1915)年9月9日(木)

天気 晴雨風

今日モイヤナ天気 午後千葉ヘ行ツタ間二十度バカリ降ラレタ

午前中大口海気館ヘ行キ川上サント格納庫ノ話ヲシテ來タトカノコト。ソシテ三十円トカ支拂ヘバ大口君ノモノニナルノダトカ話シテ居タガソレデハ野島氏ノ方ハ馬鹿ヲ見ル様ナモノダガドーナルコトナノカ? 兎ニ角今ノマ、デハ、キケンナノデ格納庫ヲ新築スルコトニ決ス 午後千葉ヘ行ク途上格納庫ノ前デ丁度頭ニアツタノデ大体ノ話ヲマトメ黒砂ノ大工ヲタノム 初メ格納庫ノ屋根板ガ四十五坪入ルノデ少々驚イテ居タガ二間巾ニスルト十六坪シカイラナイコトニナツタノデ二間半ニシ二十五坪買フコトニス 大工ニ聞クト千葉ニアルトノコトニ、千葉ニテ棒屋買カヘ樫ヲ注文シタツヒデニ材木屋デ聞キ

合ス 円二十三枚トノコトニ之レモ豫算ヨリ安クナツタガ、大工ニタノシタ事モアルノデ
帰途ニツク 處ガ気車ニ乗リオクレタノデ其間ニ材木屋ヘ行キ大工ノ方ハ何ントカ話スツ
モリデ買ヒ求メ帰ル 六時三分ニ乗オクレ七時五分ハ稲毛通過 トートー七時廿八分
ニテ帰稻 入浴 求メテ帰ツタ豚デ黒ビールヲノンデ床ニツク

◆▼270ページ◆▼ 大正4(1915)年9月10日(金)

天気 晴レ

今日ノ午後カラヤ、天候灰(ママ)復シタ。関西方面ハ大分アレタラシイ

朝参詣散歩 朝食後機ヲ分解ス 朝強イノデ運搬ハ明日ニス。後チ川上サンヘ一寸挨拶
ニ行ク

午後金物ノ製圖ヲナシ実物製作ニカ、ル

大口ハ本日松板ヲ全部ケツリ上ゲ機体ノハギ合セル板ヲ引キ割ル

大口ハ鍛冶場ノ製作 豊サンハ機ノ手入レヤ格納庫ノ取カタツケ

加藤へ後部ノ橈注文

◆▼271ページ◆▼ 大正4(1915)年9月11日(土)

天気 晴レ

ステキナ上天気ニナツタ

朝現圖ヲ引ク 午後ソケット製作

午後鳥飼氏來 四百円ノ借用証ヲ書イテ渡ス 一ヶ所此間場所ヲ見テ來タ處ハステキ

ニ広イトノコト 來月中頃迄ニヤラナイト西風ノ強イ處ダト 最(ママ)非ソレ迄ニヤリタ

イガーツニサイクルヲ練習シタ上ニキメルコトニス

夜アンマヲ取ル 大口君ト豊サンハ夜トボシニ行テ一時頃帰ツタ

頭ハ又明日カラ仕事ニカ、ルコトニナツタ

◆▼272ページ◆▼ 大正4(1915)年9月12日(日)

天気 晴

散歩 参拝 朝食 カーブノ現圖ヲ引キソケット製作 大工來ラズ

格納庫ノ事ニツキ大口へ多少デモ此際金ヲ入レテ呉レトノコトデアッタトノコト ソレガ

何ンダカ馬鹿ニシヤクニサワツタ

プレーンハ海気館へ入レ機体ハ海岸へ置イタ

本日大工來ラズ

夜夕食後間モナク眠ル 大口君格納庫ノ話ニ行ク

▲▼273ページ▲▼ 大正4(1915)年9月13日(月)

天気 晴

買物ヲナスベク十一時ニテ出發ス 兩國ニテ晝食 河村サンヘヨラズ加藤ヘ行き宮口ヘ注文ヲナシ都築氏ヲ乞ウ 不在 白戸ニ行き妻君ト夕方話ス 白戸兄十九日帰京ノ予定ニテ十六日室蘭ヤリナオシノ由。夕食後矢野君ヲ、訪フ 又不在 大塚電気館ノ活動ヲ見ル 十時半ハネテ出ル。洲崎ニ行ク 十二時過ギ新八幡ニ登楼 二時眠ル

▲▼274ページ▲▼ 大正4(1915)年9月14日(火)

天気 晴

六時出デ、見晴ニテ入浴 朝食 帰宅ス 御母サンハ御寺ノ住職ガ死ンダトカデ不在 二三日前藤木君ニ河村サンガ會ツタトノコト ヤマトハヨシテ朝日ヘ這入ツテ居ルトノコト 其内ニ僕ノ飛行機ヲ見ニ行ク筈ト
百円出シテ貰ツテ濟替ニ行キ板ニ枚ヲ求メ山田ヘ行キ小僧サンヲ借りテスベテノ買物ヲナシ荷造シテ兩國ニ出シテ貰フ TMニ立寄テ帰宅後白戸ニ行キ宮口ヘ寄り加藤ニテ用事ヲスマセ帰宅 四時半 御母サン帰ツテ居ラレタ 一時話ノ後六時ノ列車ニ乗ルベク出發
七時過ギ稲毛着

▲▼275ページ▲▼ 大正4(1915)年9月15日(水)

天気 晴

散歩 参拝 日記 朝食 新聞
機体ノソケットヲ造ル

格納庫ノ屋根板タラズ大口君ニ千葉ヘ朝行ツテ貰フ
大工小供死亡シ午後ヨリ休ム
四時頃間々木君ノ友人來 夕食ヲ共ニシテ帰ル

▲▼276ページ▲▼ 大正4(1915)年9月16日(木)

天気 晴

朝少シ風ガアッタガ午後ヨカッタ
機体ノ角度ノツイタメンドーナソケットヲ造ル
格納庫出來上ル 一杯ノマス ヨッパラツテ木槍(ママ)ヲヤリナガラ帰ヘル

發信 鳥飼都築山田諸氏
今朝買物シタ荷物來

▲▼277ページ▲▼ 大正4(1915)年9月17日(金)

天気 曇少雨

例ノ如ク新聞ヲ讀ミ終ツテ飛行機ヲ格納庫ニ納メタ
ソケットメガネヲ製ス 大口ハプレーンノコマヲ造ル 大工今日モ來ラズ
豊サンハ格納庫デ手入レ
夕食ハカニ湯豆腐トキタノデー一本ヲ大口君トノム
ウマク飛ンデクレレバヨイガソレノミヲ思フ
シカシ何ニモカモ皆ヨク行クオリカラダカラ大丈夫ダ シカモ毎日ツクルソケットガ角度
ガウマク合フニハ自分ナガドーシテコーウマク行クカト思フ程デアッタ

▲▼278ページ▲▼ 大正4(1915)年9月18日(土)

天気 曇無風

今日モ大工來ラズ 少々シヤクニサワル 午後船大工ヲタノム
大口コマ 豊サンソケット 余色々
分目ヨリ禮狀來ル

▲▼279ページ▲▼ 大正4(1915)年9月19日(日)

天気 晴無風

大工來ル 大ニ活氣ヲ呈ス
余ハ後部機体ノ柱ヲツクル
大口コマ 豊サンソケット
九時半床ニ入ル 豊サン大口ハ夜トボシニ行ツタ

▲▼280ページ▲▼ 大正4(1915)年9月20日(月)

天気 曇少雨

朝ムツクル起キルト手紙ガ來テ居タ 白戸カラデメガネヲ以テ今朝最(ママ)非來テ呉レ
トノコト
メガネハ忘レタガ八時半ノ氣車ニテ行ク 江東橋デ下リ、ヤスリヤニ寄り帰宅後白戸ニ
行ク 不在 待ツ内間々木來 シバラクシテ白戸武田ヲツレテ帰宅ス

用事ハメガネダケ 其他二十二月カラ飛行學校ヲ初メルニツヒテ飛行機ヲ百五十円
僕ヲ三十円デ貸シテ呉レトノコト。イツレ考ヘタ上鳥飼氏トモ相談シテカラノコトニ返
事ヲシテ居イタ通其上ハ鳥飼ノ四百円ハ立替テ支拂ツテ呉レトノコト
九時半間々木武田ト出デテ宮口加藤デ用ヲタシ金杓橋ノ洋食屋ニテ馳走ヲナシ帰宅
十一時 モーシマリガシテアッタノデ、起コシテ又床ヲ取ツテ貰フノモ氣ノ毒ナノデ、洲
崎ニ行ク 十二時登楼

▲▼281ページ▲▼ 大正4(1915)年9月21日(火)

天気 曇少雨

七時半楼ヲ出デ見晴ニテ入浴 朝食後鳥飼ニ行ク 稲毛ヘ行ツタトノコト。帰宅 晝食
後帰稻 三時着 鳥飼氏ハ足カノ人ト新聞屋ヲ一人連レテ來テ居タ。ソシテルノ一ガ
一台手ニ入ツタトノコト 水上ニスル由 イツレ相談スルトノコト

▲▼282ページ▲▼ 大正4(1915)年9月22日(水)

天気 晴

全機体組立

大口大工一人メンスパー 中々丈夫デシカモキワメテ輕ルク出來タ

豊サン金モノ

夜千葉ヘ大口君ト塗料ノ資料トシテ本ヲサガシニ行キツヒデニ散髪ス 一時十五分帰
着

▲▼283ページ▲▼ 大正4(1915)年9月23日(木)

天気 晴

浅間神社参拝 例ニヨツテ只台デ思考ヘ巡ラス

帰宅 朝食 新聞

機体ノ前ヲ組ム 豊サン金モノ 大口メンスパー

午後鳥飼氏ノプロペラー

夜鳥ヲツブシサイダーニテ観月ノ宴ヲ張ル 後チ昨夜求メタル理科辞典ヲ見ル 重クロ
ムサンカ加里ヲゼラチンニ混ジテ日光ニサラセバ不溶解性ニナルトノコト 明日試験ヲシ
テ見ヨ

一テンノ雲ナク寒ニヨイ月デアッタ

▲▼284ページ▲▼ 大正4(1915)年9月24日(金)

天気 晴

大工メンスパ―一人 機体一人 自分ハソケットトバツン、豊サン金モノ 大口エンジン 取付

午後豊サンニ重クロムサンカリヲ買ッテ來テ貰フ

夕食時野心論ヲ讀ミ後チ額ヲ作ル

▲▼285ページ▲▼ 大正4(1915)年9月25日(土)

天気 晴

大口金モノ 豊サンメガネ 自分ハバツンヲ打チ終ッテ塗料ノ研究 重クロムサンカリヲ入レ過ギテ失敗

大工午後海気館ノバーサンガ死ンダノデ棺ヲコシラヘニ行ッタ

夜塗料ノ研究ヲナス

▲▼286ページ▲▼ 大正4(1915)年9月26日(日)

天気 曇リ

降りソーデツヒニ降ラナカッタ 午後豊サンニ東京へ買物ニ行ッテ貰フ

機体ノ金モノヲ取付 大口君ハテールヲ作ル 大工柱

夜野心論ヲ讀ミ久シ振リデ畫ヲ畫ク ド―モ思フ様ニカケナカッタ

▲▼287ページ▲▼ 大正4(1915)年9月27日(月)

天気 曇リ

参拝後野心論 機体組ミ 大口君同

大工柱トバツン、マゲ木

午後鈴木氏來 來月十日迄ニ大口ノ飛行機ヲ作り上ゲテ呉レトノコト 日ガナイノデ事ワル。ツヒニソレデハ出來ルダケ早ク作ルト云フコトニテ話マトマル 暗クナル頃歸ル入レチガヒニ豊サ歸ル 牛肉ト松竹(ママ)アリ 大ニヨシ 即チ一パイノム 鈴木ヨリ百円受取ル 後五十円ハ來月中頃ノヨシ

▲▼288ページ▲▼ 大正4(1915)年9月28日(火)

天気 晴

参拝散歩野心論 今日ハイツモヨリ少シ早カッタ 機体ノツギ手ノ金物ニ一日カヽッテ出來上ラナカッタ。大工朝千葉へ買物ニ行ク

豊サンニ金物ト塗料研究
夜布ヲ切り飛行界ヲ讀ム

▲▼289ページ▲▼ 大正4(1915)年9月29日(水)

天気 曇雨

今日モ機体 大口金物 午後加藤君來

大口ノ方ノ機ヲ作ル

夜飛行界ヲ讀ム

▲▼290ページ▲▼ 大正4(1915)年9月30日(木)

天気 雨

参拝散歩朝食 本日大工三人 一人余ノ機ヲ作り他ハ大口ノヲ作ル 加藤大口ノプレ
ーン

豊サン大口余金物ニ又一日カ、ル 機体ツギ手ノソケットニハアキレル程手間ガカ、ツタ

明日ハ取付ラレルダロー

大工金支拂

▲▼291ページ▲▼ 補遺

十月四日記憶スベシ

▲▼293ページ▲▼ 大正4(1915)年10月1日(金)

天気 曇リ

参拝散歩中ドノ位ノ強風迄ニアノ飛行機ガタエルカト云フコトニツイテ、考ヘタ ソレハ方
向舵ノキク間ト云フコトニ帰着シタノデ夜計算ヲシテ見ルト眞横風デ十米突迄舵ガキ
クコトヲタシカメタ

機体ヲツキ間合ス 大口東京(買物ニ行キ夜十時半帰ル 雑談 十二時過ぎ眠ル
夜プレーンノ寸法割出シヲナシ野心論ヲ讀ム
店ノ勘定ハ二十八円余アツタ

▲▼294ページ▲▼ 大正4(1915)年10月2日(土)

天気 雨

参拝散歩例ノ如ク 操縦法ヲクリカエシ考ヘル
機体足ノ金物設計ヲナス 大口同金物ヲ作ル 豊サン、アングルノ穴アケヲナス
塗料研究

重クロムサンカリヲ塗ツタヤツハヤ、青ミヲオビテ來タ 水ニヌレルカ、溶解シナイ。アダ
カモゴム引ノツヤノアルヨーナモノニナツタ

流動。パラピンニ。パラピンヲ溶解セシメヌツタガ水ハ絶体(ママ)ニ反発スルガ、カワカナイン
デ失敗ス

後チガソリンデ溶解シ、ヌリタルニ、揮発ヤ、オソカリキ

才吉ハ午後成田様へ講中デ御参リニ行ツタ 今夜ハ泊ツテ來ルトノコト 六年振りニ初メ
テ他出スルトノ由 カワイソーナモノ。シカシ居ナイトスベテガ急ニ不便ニ感ジラレタ

▲▼295ページ▲▼ 大正4(1915)年10月3日(日)

天気 晴

参拝散歩 浅間様花々ヨクサイタ 芙蓉ボタンガホシカツタ

機体出來上ル 足ノ金物エンジンシートヲ作ル 塗料。パラピンヲ引キタルモノニ水ヲソ、
グニコトナツテ散リ頗ル有望ナリ

加藤、河村、鳥飼、白戸諸氏ニ贈ルベキ芋四俵ヲ求ム 内一俵ハ店ヨリ余ニ贈物トシテ
貰フ

▲▼296ページ▲▼ 大正4(1915)年10月4日(月)

天気 晴

参拝散歩

機体ノ足ヲ作ル 加藤午後東京へ買物ニ行ク 河村加藤両家へエビ三升ヲ贈ル

豊サンへ小遣一円與ヘル

今大口君ト足ヲケヅリナガラ、將來ヲ語ル 余ノ目的トスル處安全飛行機ト特種發
動機ノ製作 ツヒテハ大口君ニ二個ノ工場ヲ開カセルニアリ 其事ニツヒテ話ス 約二千
円アレバ佳ナリトノコト

來年ノ今頃ニヤレルカ知ラ 其ツモリニテ努力スベシ

豊サン見込ミアリ 操縦法ヲ教ヘルト同時ニ高尚ナル人格ヲ作り且ツ學ヲ修メシムルコ
トニツトメルベク今夜自助論ヲ讀ムコトヲオシユ

▲▼297ページ▲▼ 大正4(1915)年10月5日(火)

天気 晴

機体足ノ金物ヲ作ル

午後加藤帰ツタ 海岸散歩

今日ハ母ノ日デアル。アーモ―数ヘテ見レバ十年ニナル 今日ハ精進ヲヤル

夜大口君ト永ク話シタリ本ヲ讀ンダリ製作シタリシタ。外ノモノハ夜トボシニ行ツタ

今夜ハ大変取レトカデ中々帰ツテ來ナカッタ

▲▼298ページ▲▼ 大正4(1915)年10月6日(水)

天気 雨

午前六時起床 参拝散歩

午前中プレ―ン取付位置ヲキメル

晝前白戸夫妻來 今朝伊那ヨリ帰京

大掃除ニテニゲテ來タトノコト 牛肉ヲ共ニ喰フ 後舟ヲ出シ遊ンデ帰ル。カニヲ持ツテ

帰ル ステ―ション迄送ル 帰宿スルトクラクナツテ居タ

夜豊サンハ金チヤント又夜トボシニ行ツタ

トナリモタレモ居ナクナツタ時御吉ガ手紙ヲ表書ヲ書イテ呉レテ持ツテ來タ 前カラ

帶上ゲガ赤イノガオカシイトイエバスグトリカエテシマツタ 昨日モ帶ノ上カラ前掛ノヒ

モフベメルノハナゼカト云ヘバイツノマニカヤメテシマツタ 其他自分ノ意ヲ迎ヘルニヨホド

氣ヲツカツテ居ルノガ見エルノガカワイラシイ

▲▼299ページ▲▼ 大正4(1915)年10月7日(木)

天気 雨

朝カラドシヤブリ。足ノ金物ヲ作ル スルトプロペラ、ハミルトン分ヲ作ル。三時頃鳥飼氏

ヨリハガキ來 明日一番ニテ足利へ同行スルカラ今夜最(ママ)非帰京セラレ度シトノコト

夜夕食後大口君ト共ニ行ク 九時半河村氏宅ニ行キ電話ヲ鳥飼氏ヘカケル 白戸モ明

朝一所ニ行クトノコト 用事ハ、組立ヲ手傳フダケノ由。大口後鳥飼工行キ余ノ足利行

キ中止セシム

今日お吉手紙ニテ僕トノ中ニツヒテ人々ニウワササレ又姉ナドニ意見サレルニツケテモ

行先キガツマラナイナドト云ツテヨコシタ

▲▼300ページ▲▼ 大正4(1915)年10月13日(水)

天気 晴

五時二十分起床 参拝散歩

昨日ノ朝カラ小便スル時ニヨ一道ノ中ガイタムノデドーモ変ダト思ツテ居タガ御晝頃
調べテミルト、ノーガ出テ居タノデ驚イタ。ソレカラ日ヲクツテ見ルトお吉トヤツテ丁度
昨日デ一週間目デアルノデ不思議デナラナイカラ聞イテ見ルトソナコトハ決シテナイ
ト云ツテ居タ 夜大口ニ話シ共ニ千葉ノ醫師へ行ツタ 醫師ノ宅ヲ出ルト夕立デ、降ル
ワ光ルワ実ニヒドカッタ 車デ帰ル

昨日展覽會用ヲ出シテ仕舞ベク大分インガシカッタ 余ハアマリ何ニモ出来ナカッタ

▲▼301ページ▲▼ 大正4(1915)年10月14日(木)

天気晴

今日ハ僕モ手傳ツテタ方トドー出荷シテ仕舞ツタ 残りハスベテ向フへ行ツテカラヤル
コトニシテ加藤ノ外ニ猪ノロヲ二三ヶ所ツケテヤルコトニシタ

今夜皆引上ゲル 豊サンモ東京へ買物ニヤル

夜車ニテ醫師ニ行ク 九時帰宅 入浴 床ニ入

▲▼302ページ▲▼ 大正4(1915)年10月8日(金)

天気晴

六時大口來 本所ニテ晝落合フコトニシテ大口ト麻布ニ行ク 自分ハ御母サンヤ河村氏
ト談話後チ囲碁 二番勝ツテ一番負け

後チゴム管ヲ買ヒシヤケツヲ求メツヒデニ御吉ニ帶上ゲヲ求メル 割ニ高イニ驚イタ

風月ノ紅葉山ヲ持ツテ小傳馬町ノ山田ニ行キ十一時過ギ名古屋ニ行ク。大口ト五ノ

板ヲ買フベク出カケタガ水ノ爲メニ行ケナカッタ

大口車輪ノコトデ四時過同所ニ居テ五時五分ニテ帰稻 車中ニテ大口ニ昨年ヨリお

吉トノ関係帰宅後昨日ノ手紙ノコトヲスベテ話ス お吉ト豊サンノコト僕モ今度帰稻後

タシカニオカシイコトハミトメテ居タガ大口モ一度お吉ニ意見シタコトガアルトノコト。山

縣、加藤、千葉ニ行キ九時半帰宅 余眠レズ困ル

▲▼303ページ▲▼ 大正4(1915)年10月9日(土)

天気晴

一時頃地震アリ ソレヨリハ又色々ナコトヲ考ヘテ眠レズ 明ケ方ウツ、トシタト思フト

お吉ノコトデイヤナ、、夢ヲ見タ 書ク氣ニナレナイ

六時起床 参拝 操縦法練習中大口來 共ニ帰ル

今日ハプレン取付ノ金物トプレンノ杭及ビワイヤーヲキメ、アールヲ正確ニス

今日ハお吉ノ様子ガ少シ変ナノデ聞イテ見ルト今朝花チヤンカラ山縣トノコトヲ聞イ

タトノコト。ソシテ僕ノ知ラナイ山縣ガ新平民デアルコトナドヲ話シテ、ケツシテソシテ
コトハナイカラト云ツタ。晝間ハ変ダツタガ夜カラ又馬鹿ニ親切ニシダシタ
加藤千葉へ行ツテ金ガナクナツタトノコト 金貳円ヤル
夜製圖ヲナス スグ右ノ目イタクナル お吉目薬ヲサシテ呉レタ

▲▼304ページ▲▼ 大正4(1915)年10月10日(日)

天気晴

午前六時起床 参拝 練習中、大口來 共ニ歸ル

機体足取付ル 夕方迄カ、ル ステキナ格コトニナツタ。今夜ハハツシテ居タク

午後猪ノ口後藤ニ君來 宿泊ス

夜持参ノ牛肉ヲ食ヒ酒ヲノマセル 余サイダー

アンマ來

猪ノ口ガお吉ハ宗里ト此室デ宗里ガ病氣ノ時タイヘンナ處マデモンダナド話シテ居タ
今夜ハ眠リニクイ日デアツタ 十二時過ぎ眠ル

▲▼305ページ▲▼ 大正4(1915)年10月11日(月)

天気雨

今朝モ四時頃カラ目ガ醒メテ眠レズ五時床ヲ出ズ マダウス暗カツタ 参拝 練習

今日ハ足ガイヨ、取ツイタ

大口午後東京ニ行ク 猪口後藤共ニ歸ル イヤナ猪ノ口ガ歸ツテ氣持ヨクナツタ

夜無儘ガアツタ 豊サント加藤君ハ夜トボシニ行ツタガ雨が降り出シテ帰ヘツテ來タ

▲▼306ページ▲▼ 大正4(1915)年10月12日(火)

天気雨

昨夜カラヒドイ降り方デトナリノ親父ガ夜中ニアツチガモルコツチガモルト大ソード
シテ居タ。イツモ僕ノ頭ノ上ニモルノガ今日ハモラナイ

今日参拝散歩ハヨシタ。豊サンニ千葉へ板金ヲ買ヒニヤル

ハミルトンノ方インガシクナツタノデ豊サンヲ明カラ手ツダワセルコトニスル

夜花ヲ引ク 十時床ニ入ル

▲▼307ページ▲▼ 大正4(1915)年10月15日(金)

天気晴

昨日ノニギヤカサニ引替へ今日ハ静カナ、ソシテヨク晴レタ秋ノ日ノ味ガシミ、感ジラレ
タ

午前中大変ヨカッタガ午後ノーガシキリニ出タ

夜今日ハ早ク行ク 即チ先生ナル人ガヤツテ呉レタガ、イタカッタ 之レデナンダカ菓子
ガキイタヨ一ナ氣ガシタガ車ニ一寸乗レナカッタ

午後鳥飼氏二三友人トボートニテ眼鏡ヲ以テヤツテ來タ 村山ガ鳥飼氏ノ若ハ來タト
カ白戸トドートカ云フ話シガアッタ

三時御茶ノ時玉井君來 村山ガ僕ニ一度會イタイノコトツケガアッタトノコト 玉井君
ノ金主ガ駄目ニナリ、ユンエンジンヲ、抵當ニシテデモ金ヲ作り練習シタイトノコト 二
三思ヒツイタコトダケヲ注意ス

八時就床

▲▼308ページ▲▼ 大正4(1915)年10月16日(土)

天気晴

玉井君東京へ金策ニ行ク

余アールヲ打ツ

夜醫師ニ行ク 今日モ痛カッタ 八時半帰宅

コーヒーニミルクヲ入レテノム。床ニ入ル 十時頃豊サン帰ル 矢野サンカライロ、ナ雑
誌ヲ借りテ來タ

▲▼309ページ▲▼ 大正4(1915)年10月17日(日)

天気雨

今朝松林中デニ三分大口君ト話ス 白戸村山ト分レトコト 村山星野ヲタノムダロー
ナドソソナコトデアッタ

イヨ、今日カラプレーンヲ初メタ 八枚出來上ガッタ 豊サンハ金物ヲ作

夜醫師ニ行ク 今日ハ一度モ通ジガナカッタ 腹ノ工合ガ変ナノデ水薬ヲ貰ツテ帰ル

御晝頃カラ雨ニナッタ 玉井君帰ラズ

▲▼310ページ▲▼ 大正4(1915)年10月18日(月)

天気雨

雨風ノハゲシイ日デアッタガ夕方カラ雲ハ西南ノ空ニ走り出シテトコロ、青イ空が見
エタ

今日ハ晝食後醫ニ行ク

豊サンプレインツギ手ノ金物 大ロプレイン
夜フライトノ内ヨリ一寸写シモノヲス

▲▼311ページ▲▼ 大正4(1915)年10月19日(火)

天気晴

今日ハ又悪ルカッタガ午後少シヨクナッタ

晝食後醫師ニ行キ帰途ホルマリン、パイプ等ヲ求メル

三時御茶ノ時白戸來 村山トハクラブノ広告ヲスルトカセントカガ第一ノ問題デアッタ
トノコト

梅田ガエンジンヲ使用スルコトヲ承諾シタガ初メニ何程カモータイトノコト。岸サンノエ
ンジント第一號ドコモ貸サナイ由 ソハ名聲ヲ落スオソレアルカラ第二號製作中ニ付
來年二月頃ナラ望ミニ應ジル由

河村サンノ祝ハ白戸ニ任ス 夕食ヲ共ニシテ帰ル 停車場迄送ル

▲▼312ページ▲▼ 大正4(1915)年10月20日(水)

天気晴

今朝河村氏ハ明日写真機持参ノコトハガキ出ス

信州小諸ヨリ電報アリ エンジン廻ラヌスグ大口ニ來テ呉レトノコト 夜六時發 上野九
時四十分ニテ出發 明朝六時着ノ筈

本日大口ハプレインニダボヲ入レル。豊サンワイヤー

三時頃醫師ニ行ク 今日ハ終日軍隊ノ行軍ガ絶ナカッタ 皆ツカレテヘト、ニナツテ居
タ

▲▼313ページ▲▼ 大正4(1915)年10月21日(木)

天気晴

六時起床 浅間様ニ参リ海気館ヲ廻ツテ帰ル。プレインヲ組ム

晝食後醫師ニ行ク 今日ハ痛ハ益々ナクナツテノモ少ナクナッタ

千葉ノ自轉車屋デニュームノ車ヲ仕上サス

今日ハ大掃除デアッタ

小諸ヨリ電報來 大口來ラズ問題起キタトノコト 六時發信返事ヤラズ。多分モーツ
イタ時分ダカラ

白戸へ夜今月末少々借入金ノコトヲ手紙デ頼ンデヤル

▲▼314ページ▲▼ 大正4(1915)年10月22日(金)

天気 曇り

キリノ様ナ雨モ夜ニ入り本降りニナツタ
今日モプレーンノ仕上ゲト夜ハプレーンヲ三枚張ツタ
晝食後醫師ニ行ク マダノーガ止マラナイ 夜風呂ニ入ル時イツモ來ルお吉ガ來ナイノ
デ変ダト思ツテ居ルトヤガテヤツテ來テ昨夜余ガ入浴中ソバデ洗濯シテ居タノヲ花子
ヤンニ共ニ入浴シテ居タト云ワレテシヤクニサワツタトカ云ツテ居タ

▲▼315ページ▲▼ 大正4(1915)年10月23日(土)

天気 曇り

少シ晴レタガ午後曇リ
プレーンノフチヲ付ケル
豊サン機体ニワイヤーヲ張リ橈ノ金物ヲツケル
午前十時過ギ鳥飼氏來 玉井君ノタンバツクルノ金ヲ取りニ來タノダトカ 十八円余
持ツテ帰ル。ガソリン一箱鳥飼サンニ立替テ貰フコトニタノシダ
一時頃醫師ニ行ク
夜プレーン三枚張ル

▲▼316ページ▲▼ 大正4(1915)年10月24日(日)

天気 雨

終日ノ雨ニ今日ハプレーン張リヲナス
豊サンハ蝶番ニ後部橈ノ取付ヲナス
今日ハ大變工合ヨイ ノーモ押サナケレバ出ナイ程デアッタ 丁度金ノナクナル時分ニ
ナオルカラコレデモマダ天祐ノアル處 コレデ今年ノヤク厄落シガ出來レバ結構
夜プレーン張リ

▲▼317ページ▲▼ 大正4(1915)年10月25日(月)

天気 雨

又雨 仕方ガナイノデプレーンヲヤル 豊サン同取付金モノ
今夜夕食後、豊サンニ東京へ行ツテ貰フ 白戸デ三十円借りテ操縦線ヲ買ツテ來テ貰
フ

玉井サンハ昨日カラトナリへ引越シタ 仕事ハヤリ來テヤツテ居ル 今日ハエンジンヲ取

付テ居タ

午後大ロヨリ電報アリ 帰ヘルコマル一〇オクレトノコト 醫師ニ行ク時電報爲替ニテ送ル ソレニシテモ決(ママ)果ハドーモ金ヲ送レト云フ位デヨクナイラシイ 大坂へ操縦線イラナイコトヲ云ツテヤル

▲▼318ページ▲▼ 大正4(1915)年10月26日(火)

天気 雨

今日モ又雨 プレインノ残りヲ張りテールニカゝル

晝食後醫ニ行ク モー何ントモナイガマタ四五日來タラヨカロトノコト ソー云へバ菓ヲサシタ時マダ一寸チクゝスル様ダカライケナイノカシラ

散髪ヲシテ四時頃帰宅 思ヒガケナク武田ガ來テ居タ。ソシテ前橋デ二百円取り内七十四ヲ村山ニヤリ残りヲ、吞ンデシマツタ爲メ面目ナクテ白戸ノ處へ行ケナイノデ相談ニ來タトノコト 今後ノ方針ハ北海道へ一先ヅ帰ル由 マツ武三日遊ンデ其内白戸へ僕カラ手紙ヲ出スカラト云ツテ居イタ

旭號ハ長野デ卅一日星野ガ乗ル由 間々木ハ夜豊サンガ帰ヘテ來テノ話シデハ長野へ行ツタラシイ 村山モ今夜立ツ由。

白戸ハ又ドコカへ引越ス由 スコシ金ガ出來ルトスグレダカライヤニナツテシモウ

▲▼319ページ▲▼ 大正4(1915)年10月27日(水)

天気 曇晴

今日ハ武田ニモ手傳ワセテ、プレイン残り一枚ヲ仕上ゲテ仕舞フ 豊サンハプレイン取付午後三時ノ御茶ヲ吞ンデ醫師ニ行ク

店へ十円渡ス 大口帰ラズ 何ントモ云ツテ來ナイノデ明日電報打ツコトニス 正午白戸へ手紙出ス 昨日ノ札ト武田ニ會ツテヤツテ呉レル様ニ

夜入浴中例ニヨツテお吉ハ洗濯シテ居タ 豊サンノ話シカラ大口ノ話ナドアリ 結局お吉ガ貞操ヲ重ンジテ、ベストヲツクスナラ、ソレニ対シ余モ充分満足ヲ與ヘルコトヲ約シタソシテ余ガ三十才ニナル迄ハダメダト云ツタ。寢ルトキ手紙ニ何ンダカ書イテヨコシタ見ルト、ウソダト云ツテ居タガ実ハ三四人モライテハアツタガ行カナカッタ 五年カ十年デモシンボースルトカモー之レカラハアマリ、フザケナイナドカイテアツタ。顔ハマツイガ、アンナ女デモ自分教育シテ立派ナ女ニスルコトガ出來ナイコトハナカロー ソレモ又愉快ナ事業ノ一ツデハアルマイカナドト寢テカラ考ヘタ

▲▼320ページ▲▼ 大正4(1915)年10月29日(金)

天気 晴

日本晴レノ清々シイ上天気 然シ急ニ寒冷ニナツタ 朝霜ガ降りテ居タ
今日プレーン全部ヲ仕上ゲ、ノリヲ引ク

大口ニエンジンノ取付ヲツクツテ貰フ

夕方豊サント丸通へ貫々ヲ借りニ行キ目方ヲハカル プレーンハ思ツタヨリ軽ルカッタガ
機体ガ馬鹿ニ重カッタ エンジンモ重カッタ

モー今日カラ醫者ヲ止スツモリノガドーモ工合悪イノデ夜行ク

▲▼321ページ▲▼ 大正4(1915)年10月28日(木)

天気 晴

ヨウヤク天気ニナツタ。シートヲツクル

豊サンハプレーンノ取付ヲ作ル

晝食後醫者ニ行ク 醫專ノ運動會デ誰レモ居ズ空シク帰ル

夜プレーンヲ張ル 大口帰ル。予想ノ如クエンジン廻ラズ、鳥飼サンカ高橋サンニ行ツテ

貰フトノコト 大分モメタラシイガ例ノロデ大変ナサワギノヨーデアッタ

▲▼322ページ▲▼ 大正4(1915)年10月30日(土)

天気 晴曇リ

今日ハエンジンヲ分解シタ ソシテスケッチシテ居イタ

午後白戸ヨリ相談シタイコトガアルカラ今夜帰ヘツテ呉レトノ電報ガアッタ 七時三十

分ニテ帰京白戸ニ行ク 氷川様へ碁ヲ打ちニ行ツテ居タ 武田ガ居タ 呼ビニヤル 余ハ

新機ノ設計カト思ツテ居タヲ諏訪ノ浜サンカラニテ所バカリヤリタイカラ來テ呉レト

ノコト 來月中頃其返事ヲヤリタイノダガ僕ニ行ケトノコト トニカク五日頃試験シテ

カラ後チノコトトシテ明朝打電スルコトニシ同時ニ手紙デ其由云ツテヤルコトニシタ

學校ノ方ハ梅田ヲヨシテ都築ノアンザニーガ月百円ヅゝデ借りラレルトノコト

十二時過ぎ眠ル

▲▼323ページ▲▼ 大正4(1915)年10月31日(日)

天気 雨後晴

六時便所ニ行ツテカラ雨戸ヲ開ケ、茶棚ニ講談落語ノ本ガアッタノ寝ナガラ讀ム

八時起床 朝食ハ昨日僕ガ喰ツタロート思ツテ取ツテ居タ肉ガアッタノデヤル。雨ハシキ

リニ降ツテ居タ

武田ニ電報ト手紙ヲ出サセ食後スグ稲毛ニナル 白戸ニ三円借リル 又鳥飼ノガソリン

ガアテニナラナイノデ、ガソリン代ヲ拂ツテ貰フコトニス 尚国ノ御母カラ金ヲ少シ隔(マ
マ)通シテ貰フコトヲ頼ム

十二時河村宅ニ帰り晝食。後千鳥飼ニ行き入用ノモノヲモラヒ帰宅 車ニテ買物ヲナシ
三時三十分発ニテ帰稻 五時
エンジンハ出来上がり 即チヤッタ

▲▼326ページ▲▼ 大正4(1915)年11月1日(月)

天気 晴

日本晴レノ上天気。プレーンモ塗料ヲ塗ル 御晝迄ニ出来上ガッタ
後操縦機ヲ取付ク

大口豊サンエンジンノ組立終ル

利根君ヨリ手紙來。一ヶ所ヤル處ガアルカラ面會シタイ故都合ヲシラセテ呉レトノコト
夜機体ニキレヲ張ル

▲▼327ページ▲▼ 大正4(1915)年11月2日(火)

天気 雨

プレーンヲ組ムツモリノガ雨デ御ナガレ

六時起床 食前ニボルトヲ切ル

其皆起キテ來タノデ、ワラヲ焚キアタリナガラ草ヲ入レテ居ク 随分寒クナッタ

プレー取付ヲ付ケ床ヲ張ル

大口プレーン中央ノ線 豊サ同附属タンク取付ケ

武田機体切レ張り 車輪掃除

夜カバーノ曲木ヲツクリ機体下部ノハトメヲ入レル

▲▼328ページ▲▼ 大正4(1915)年11月3日(水)

天気 晴レ

大口エンジン、マグネト取付蠟吹きヲヤツテ貰フ

四時四十分ニテ信州へ出發シタ

余カバー 重心點ヲ計ル

夜キタイ後部仕上

武田夜千葉へ買モノニヤル 残金六十銭位ニナッタハナサケナイ。今夜ハ玉井君ト同助
手ガ遊ビニ來タ 電燈ガ消エタ

▲▼329ページ▲▼ 大正4(1915)年11月4日(木)

天気晴

今朝玉井君ノ翼ヲ組ンデ居タノガアマリ氣ノ毒ナノデロデー一寸助言シタラ間モ無ク出來上ガッタ

お晝前滑走サセタ 沖カラ少シ風ガアツタノデ初(ママ)終廻サレテ居タ 初メカラ云ツテ居タノダガ機体ノキレヲ坐席カラ後チ取ラナケレバダメダ

今日ハ翼ヲ組立タ 中々長イ 夕方格納庫ノ機体ヲ出シテプレーンヲ入レル 古イ機体モ翼モ中々重イ 之レナラ今度ノモソーカワリハナサソード

夜モ一度ゼラチンヲ塗ルベク豊サント武田ト検見川へ買物ニヤル

▲▼330ページ▲▼ 大正4(1915)年11月5日(金)

天気晴

今日ハプレーンニ塗料ヲモ一度ヌラセル 余カバー 玉井君ハ今日モヤッタ 二三廻輕クジャンプシテ終ツタ 天氣ガ好イノデ僕ガモットオヤンナサイト云ツタノガ悪ルカツタ 今度走り出ストブーツ上ガツタガ左ニ傾カルト同時ニ二三度エレロンヲ使ツタ様ダガ僕ガ右ハフメ、ト云フ内少シ左へ廻リ出シタト思フト左ノ車輪ヲツイテ機ハ逆立シタ

スグカケ出シテ行ツタガプロペラモスベテ安全デアツタ。シヤフトガ曲ツテ居タノデカツイデ帰ル

バツンガ二本バカリ折レテ居タ コレハールノナイノガ原因 機体ノ後部ヲ取ラナケレバイケナイト又注意シタラ取ラズニ前へキールヲツケタ

夜千葉へ買物ニ三人デ行ク 豊サント武田ニズボン下ヲ買ツテヤル

▲▼331ページ▲▼ 大正4(1915)年11月6日(土)

天気晴

時事 陛下御西下

今日ハ又カバーヲ終日ヤツテ出來上ラナカッタ

玉井サンハ今日モ練習初メタ エンジンハ例ニヨツテ時々ミッスシテ居タ。今日ハ初メルナリ機ハ上がりヤガテ二三度上ゲタ。イケナイナト思フ内右へ傾キ初メタ。エレロンデシキリニヤツテ居タ 其中右へ廻シダシタト動力ガトマツテ右へ傾キナガラ逆立シタ處ヲ後カラ風デフンワリト返ツテシマッタ

サー大變ト皆カケ出シタ 余ハ武田ニペンチトプライヤー、タンバック廻シヲ以テ來ル様云ヒツケテ行ツタ 橈中央カラ折レプロペラ半折レ 右ノ足二本折レテ居タ バツンハ、アールノナイ爲メ大分折レテ居タ スグ後部ヲ持上ゲメンスパーニテカトシ分解シテ運

搬ス 夕方練習ニツイテ豊サンニ教ヘタコトヲ注意シテ上ゲタ 自分デハ方向舵ヲ左ヘフ
ムノヲ右ヘ間違ヘタトノコト
白戸赤坂ヘ引越シタトハガキヲヨコシタ

◆▼332ページ◆▲▼ 大正4(1915)年11月7日(日)

天気 雨

今朝山ヲ散歩シ操縦法ヲ行フ 帰途格納庫ニプレーンヲ見ニ行ク
今日ハマダカバーヲヤル エンジン四番ガ一本エキゾーストバルブガ馬鹿ニモレタ 圧力ガ
チツトモナカッタ バルブヲ少シ動かセルトヨクナルガスグ又モトノ通りニナツテ仕舞ツタ。
正午白戸來 夕食後帰ル 學校ヲヤルトノコト 当分ハ余ノ機一ツノ由 ソレニツキ僕ニ
相談ニ來タ ヨシイトノコト 尚明日來レ呉レトノコトニ夜行クコトヲ約クス

◆▼333ページ◆▲▼ 大正4(1915)年11月8日(月)

天気 雨

昨夜ハ近頃ニナク夢ヲ見タ。夕方フト思ヒ出シスグ飛行機ガ着陸スル時發動機ヲ止メテ
モ止テモ中々地ニツカズフラヽヽヽヽヽ飛ンデ居タ 大ニヨシ

朝雨ニ対スル塗料如何ヲ見ルベク格納庫ニ行ツテ見タ。成績ハ先ヅヨイ方デアッタ

今日カバーノ下ヲ張り後チ白戸ニタノマレタ神棚ヲツクル 豊サンエンジンノ附属物ヲツ
ケル 武田車輪

六時十分ニテ東京ニ行ク 車デ白戸ニ行ク 道々ハ随分キレイニ裝飾サレテ居タ 白戸ハ
兎ニ角組合デヤロト云ツタ 僕モ賛成シタ 浜サンカラ電報ガ來テ居タ アス返スル

◆▼334ページ◆▲▼ 大正4(1915)年11月9日(火)

天気 曇雨

五時半頃目ガ醒メタ 六時半起床 散髪ニ行ク 色町ノ朝ハ静カデアル 雨ハシトヽヽ降
ツテ居タ

九時頃白戸起床 朝食後、エンギ柵ヲツクリ額ヲカケ腰紙ヲ張ル 丁度ニ二時頃終リ晝
食

武須氏ノ妻君來 花ヲ引キ六時茶館ノ活動ヲ見ニ行ク 少年義勇團ガ大変ヨカッタ
十時半終リ帰宅後夕食ヲナス

十一時床ニ入ル 終列車デ帰ルツモリデお吉ハ待ツテ居ルコトダロ

◆▼335ページ◆▲▼ 大正4(1915)年11月10日(水)

天気 曇り後晴レ

朝。ハラ、七時半起床 戸棚ツケ 棚ヲツツテ白戸起シ風呂屋ニ行。大雨デ休み。スカ喰ツテ帰ル 朝食

加藤ニ行キプロ。ペラヲ注文シ親父ヲ連レテ晝メシヲオゴル 親父ヨ。パッテ白戸悪口云ツテウルサカッタ。新橋デ分レル 河村ニ帰ル スグ鳥飼行ク 寝起コスモ心無イノデスグ帰御母サン一寸談話 三時半ニノルベク出發 尾張町迄來タ時小僧ガ鳥飼サンカラ電話ダト呼びニ來タ。タイヤーハモウ一週間程カハルトノコト

電車デ市内ノ見物 ドコモカシモ大変人デアッタ 何シノモナク人ガ人ヲ見ニ歩イテ居ルノダト思フトオカシカッタ

三時半兩國發ノ時丁度京都ニ於テ首相萬歳ヲ唱ヘル時候ナノデ日本ノ全国デヤハリ萬歳ヲ三唱スルコトニナツテ居タノデ兩國駅デモ駅長以下プラットホームニナランデ天皇陛下、萬歳ヲ三唱シタ 余モ之レニ和シタ
五時帰宅

▲▼336ページ▲▼ 大正4(1915)年11月11日(木)

天気 晴レ

昨夜大口ヨリ電報來 明日カヘル四円オクレトノコト 豊サンニ五円送金サセル 武田帰国セシムル爲メ稲毛駅ニテ切符ヲモトメ與ヘル 金十円八白戸出シ弍円余與ヘル 豊サン東京ノ賑ヲ見セニ帰ヘス 金三円與ヘル

十一時ニテ帰京ス 日本自動車ト藤倉ニテ塗料見本ヲ貰フコトヲ云ヒツケル

後手浅野板ニ稲毛ノ風光ヲ晝クベク山ニ入り松林ヲスケッチシ終ツテ揮ゴー 夕方出來上ル 恵美號モ飛セタ

夜玉井君遊ビニ來

▲▼337ページ▲▼ 大正4(1915)年11月13日(土)

天気 晴

今日ハ四五回地震ガアッタ ソレモカナリハゲシカッタ

朝飛行機製作 當初カラノ決算表ヲ作り午後新聞ノ切抜ヲ整理シタ 夜ニ及ブ 夕方大口ト豊サント一所ニ帰ル

夜稻荷サンノ旗ヲツクルノニ一時過ギ迫カハル 大口夫妻トお吉ト四人デ僕ガヘガ出テヘガ出テ仕方ガナカッタ

▲▼338ページ▲▼ 大正4(1915)年11月14日(日)

天気晴

今朝モ風アリ 玉井氏ヤラズ 朝日時事ニ廣告ト記事出ズ。午後心得書送レトノ手紙一通來 後藤君(猪内ト一所ニ來タ方)來稻 同様ノ話デアッタ
鳥飼氏ヨリタイヤ出來タトノ手紙來 豊サン五時ノ汽車ニテ東京ヘ取りニヤル
後藤君宿ル
本日メインプレーンヲ取付ク

◆▼340ページ▲▼ 大正4(1915)年11月15日(月)

天気晴

今朝又地震リ 午後又ユル
プレーン、ワイヤーヲキメ中央杭ヲ立テ操縦線ヲ張ル準備ヲナス
今朝又一名來稻 練習候補者。手紙ノ申込十八名アリタリ 中ニ華族ノ弟ニテ陸海士官學校受験ニ失敗セル人モアリタリ 中ニ又助手トシテ無料デ練習サセラル、モノト思ヒ居ルモノモ大分アリタリ
豊サン夕刻帰ル 後藤君ト朝來タ一人ト十一時ノ汽車ニテ去ル

◆▼341ページ▲▼ 大正4(1915)年11月16日(火)

天気晴

今朝風アリ玉井君中止
カバーヲツケ横板ヲ張ル 夕方出來上ル 大變格向ガヨカッタ。テールガバカニ、ミジカク見エルノデ、ピッチングシナケレバヨイガト思ツタ
お晝前白戸來 夕方帰京 明日開店トノコト 明後日試運轉ト定ム。タイヤ出來タルモ車輪ニアワズ車輪ヲ東京ヘ送ツテ合サセル 鳥飼余ト連名ニテタイヤ支拂代金トシテ白戸ヨリ四十円借りタル由 夜提燈行列アリ。切抜整理ス
九時就床
本日十三名ばかり申込ミアリタリ

◆▼342ページ▲▼ 大正4(1915)年11月17日(水)

天気晴

今朝ハ無風ノ上天気 玉井君滑走ヲ幾度カヤツタ 要(ママ)心ヲシテ、切ツタリ入レタリシテ居タ 其内自分ハ便所ヘ行ツタ時小僧ガワートサワイダノデ旗行列ノ出發ト思ツテ居ルトお吉ガ來テ又逆立シタトノコト 行ツテ見ル 別ニナントモナカッタ
朝食 今日モ又一日カ、ツテ仕上ガラナカッタ 車輪モ來ナイ

夜千葉へ豊サント本郷君ト三人で行ク 十時半帰ル

▲▼343ページ▲▼ 大正4(1915)年11月18日(木)

天気 曇リ

今日モ飛行日和デアッタガ玉井君ノ方ハ車輪ノ位置ヲ前ニ出シテ居タノデ出来ナカッタ 僕ノ方ハ今日モ車輪ガ来ナカッタ

機ハスツカリ手バナレニナツテ格納庫ノ中ヲ掃除シタ

夜申込者ニ心得書ヲ送ル

今朝床ノ中ニテ不圖浮カンダ歌ヲ額ニ書キソエタ。千代八千代 君がみいづを もろと
もに 祝へ壽希 袖が浦松

▲▼344ページ▲▼ 大正4(1915)年11月19日(金)

天気 晴

今日ハアマリ天気ガヨイノデ格納庫ノ雨モリヲ防グベク、コイルターヲ買ヒニヤリ古イブレインヲハガシ其布ヲ屋根ニハル 午前中ニ北側ハ張レタ 午後南側ヲ張ル時僕ガ三度コイルターノバケツヲカヘシ大口ガ一度流シタノデ全部ヌレル筈ノガ、タリナクナッタ 急ナ屋根ナノデコボレタコイルターヲ、踏ムト落ちソーニ幾度カナッタ。後ノ方ハモル處ダケ一寸張ツテ居ク

午後白戸車輪ヲ持ツテ来テ呉レタ 今夜ハ泊ル

▲▼345ページ▲▼ 大正4(1915)年11月20日(土)

天気 曇リ

豊サンハ早クカラチューブ張リヲヤツテ呉レタガトードー間ニ合ワナカッタ

タイヤーガ少シ大キ過ギタガ先ヅハマッタ。午後エンジンヲ廻シテ廻轉数ヲ計ル 昨年諏訪デ、ケヅリ直シタ分デ千五余廻ツテ百十疋引イタソーダ 初メ一度ニブル、トカ、ツタノハ氣持ガヨカッタ。車輪ノゴムノ力ガ少シタリナイコトヲ發見シタ。初メカラ心配シテ居タ ヤツテヤッタ。白戸ニ明日持ツテ来テ貰フコトニ頼ム
夕方散髪ニ行

夕食後借金並ニ支出表ヲ造ル 大阪へ送ルモノ 借金ハスベテ千九百円余ニナツテ居タ
二百円ばかり、アラカジメ思ツタヨリ多イノニ驚イタ

▲▼346ページ▲▼ 大正4(1915)年11月21日(日)

天気晴

今朝ハステキナ天気デアッタガ終日北西ノ五米位ノ風ガアッタノデ中止シタ

お晝前国民飛行會ノ渡辺トカ云人ガ來タ。ソシテ白戸ノ處ハ奈良原サンノ處ヲ聞イタ玉井君ニモアッタ 何ンデモ長岡外史中将ヲ會長トシテ出來タモノデ一月元旦ニ雜誌ノ初號ヲ發刊スルニツイテ米國帰りニアラザル日本製ノ飛行家ノ照會(ママ)ニ重キヲ居イテヤルノデアルトカ 飛行機ヲ見セル 僕ノ機ヲ白戸ノダト思ツテ居タラシイ。處ガ僕ノダト云ツテカラ、ソレデハ僕ノ写真ト履歴ヲモ送ツテクレトテ言コー(ママ)用紙ト切手ヲ居イテ帰ヘタ

加藤ガ越後カラ帰ツテ今夜泊ル

シートヲツクル 豊サンハ機体ノ手入レヲナス

▲▼347ページ▲▼ 大正4(1915)年11月22日(月)

天気晴

参拝後格納庫ニ行キ練習

九時白戸來。車輪ノゴムヲ増シ機ヲ引出ス 昨日ト同ジ風ナリシモ中々ナギタリ 玉井君モ出ス。少シジャンプシテ後部ノ櫓ヲ折ル

僕ノ方ハ車輪ノタイヤーガ一本ハヅレソノナノデコレヲナオシ白戸乗ツテ二三回直線着陸ハ丁度旭ト同ジ様デアッタ 後チ角度ヲ直シ一廻リシテモロー 迎エ角マダ上リスギテイケナイトノコト 明日ハ少シテールニ角度ヲツケテヤルコトニシタ 二時頃晝食ニナッタノデ肉ヲ買ヒニヤリ大口、白戸、加藤、玉井ソレカラ運送屋ノ親父ナドトノム 四時四十分白戸帰ル 又明日來ルトノコト

越後ヨリ大口ニ來テ呉レトノ電報來ル

▲▼348ページ▲▼ 大正4(1915)年11月23日(火)

天気晴

イツモト同ジ北風デアッタ 玉井君モ用心シナガラヤツテ居タ。僕モ引出シテ六七回直線ヲヤッタ イツモ一パイ出サナイガフワ、スグ浮キ上ガッタ 下リルトキハ前ノト違ツテフワ、シテイツイツ迄モ浮イテ居ルノデドシン、降リル様ナコトハナカッタ 然シ久シクヤラナイノデ大分マゴ、シタコトガアッタ

一番終リニ豊サンヲ乗セテ上ガッタ 其時ハ思フマニ機ハ動イタ。ガ一番氣ニシテ居タタイヤーガトードー、ハヅレテチューブハヌケ出シ、シヤフトニカラミツイテツタ、ニナツテ居タ 之レニテ中止ス

玉井サンノハ發動機ヲ止メルトクル、ト機ガ廻ワツタノデ、トードー今日思ヒキツテ後部ノ布ヲハガシテシマッタ 余程オシソーデアッタ

午後各方面へ手紙ヤラ禮状ヲ出ス
大口東京ニ行ク 夜帰ル
發信 宅、兄、加藤、宮口

▲▼349ページ▲▼ 大正4(1915)年11月24日(水)

天氣 晴

今朝書留來 大口今夜越後ニ立ッ

大口ニ僕ノ飛行振リヲ見セルベク準備ノ處風が大分ツヨクナッタノデ一時ダメダト思ッ
テ居ルト、スツカリナイダノデ、パンクヲ直シタ車輪ニロープヲ卷キ引出ス 丁度正午。
ソコ白戸來 先ヅ白戸ニ乗ッテ貫フ 西南ニ滑走 タチマチ飛揚 グン、千葉ニ行キ歸
路檢見川ヲ廻ッテ無事着陸。機ヲ下ゲルノニ中々骨ガ折レタヨデアッタ。幾度カスロ
ーニシタリ又廻シタリシテ居タ。マダ余程前ガ重イトノコト 余同乗シテ直線ニ走ル 二
度上ゲタダケデカナリ上ガッタ。着陸少シ急角度デアッタ爲メ、ツヨクシヨクシタク
チビルヤ足ヲ打ッテイタカッタ。スグ引返スベク走り出シタトキ、フト氣ガツイタノデ、
ノビ上リ下ヲ見ルト、車輪ガ一個リムダケニナッテ居ル。後ヲ見ルトタイヤーガ五六間
先キニコガッテ居タ 余ハ下リテソレヲ持ッテ帰ル 白戸ハ機ヲ浮かセテ歸リ中止ス。協
議ノ結果角度ヲ一度減ジテールヲ一度増スコトニシタ
三時十分白戸帰ル 見送ル
夜豊サンニ英語ヲオシエ、三度ノ計算ヲナシ、重量表ヲ作ル。後チ日記

▲▼350ページ▲▼ 大正4(1915)年11月25日(木)

天氣 曇リ

今日ハ大シタ風モナク先ヅ飛行日和ノ方デアッタ

起床早々仕事ニカゝル テール又半度強角度ヲ増シプレーンヲ三度ニス。タンクヲ取付
ケ車輪ヲハメル。友野氏來 午後玉井サンニヨバレテ御馳走ニナル
午後豊サンニ千葉へ買物ニヤル。切抜整理
夕食ニ酒一本ノム 夜英語、化學 就床
今日ハ少シモ氣ガ進マナカッタノデ練習ヲヤラナカッタ
發信 田辺、當間。

▲▼351ページ▲▼ 大正4(1915)年11月26日(金)

天氣 雨

例ニヨッテ小供ガトナリデ泣キ出シタ 雨ガサカンニ降テ居タ シバラクスルトポツ

ン、ト音ガシハジメタト思ト次ニポタリ、ト頭ノ上ニ落チテ來タ フトシヨハイデコ
ツプデ受ケタ 間モ無ク静カニナツタ様ダト思フトイツノ間ニ眠ツタノカ戸ノスキガ明ル
クナツテ居タ

お晝過ギ迫ブラ、シテ居タ 曇テ居タヤツガトードー又雨ニナツテシマッタ 午後ハ棚
ヲツツタリ戸棚ヲ整理シタリシタ。夜四季ノ圖ヲ書イテ戸棚ノ戸ニ張りソレ、歌ヲ書
キツケタ

今日お吉ガ又手紙デ約束ヲシテ呉レトカ死ンデシマウトカ云ツテ來タ ヨクナグサメテ
居ク

朝大坂へ○イソグゼヒタノムト打電ス

▲▼3552ページ▲▼ 大正4(1915)年11月27日(土)

天気晴

日本晴レノ好天気 汐ハモー少シモ引カナクナツタ

終日飛行機ニ志シタ当時ヨリノ略歴ヲ書ク 夕方迫三元年九月廿三日ノ大風迫書イ
タ

夜玉井君遊ビニ來ル 明日東京へ行ツテ国民協會ヲ見テ來ル由 原高(ママ)ハマダ出來
テナイトノコト

夕方氣ニナルノデ又兄へ五〇、デンカワセタノムト打電シタ 明日ハ日曜ダカラ電報デ
ナケレバ間ニ合ワナイノデ

化學少時、九時就床 ツヤ子ガ泣イテ寢ラレナカッタ

利根君ヨリ飛行會ノ事ニツキハガキ來ル

▲▼3553ページ▲▼ 大正4(1915)年11月28日(日)

天気晴

朝早く汐ヲ見タガマダ廿カサカモー上ゲテ居タ

今日モ終日昨日ノ續キヲ書ク

朝利根、河村御母サン、白戸、自宅へ手紙ヲ出ス

夜一パイノム 五十円ガ氣ニナツテ寢ラレナカッタ

▲▼3554ページ▲▼ 大正4(1915)年11月29日(月)

天気晴

朝大坂ノ兄ト宅ト両方へ打電シタ 十時頃三十円兄ガ田中芳ニ借リタトテ送ツテ來タ
送ツタナラ送ツタト一寸電報ヲ呉レバヨイモノトスグ其旨手紙デヤツタ。お吉ノ十円

ト合計四十円 兎二角花チヤンニ渡ス 残十円白戸へ手紙出ス
渡辺氏へ出スベキ原稿ヲ書ク 夕方終ル
午後川上サンヨリ呼びニ來タノデ行ク 格納庫ノ件 地代ダケハ自分負擔スルコトヲ約
シタ。三十円丸太ノ件ハ野島氏へ話シスルコトニシタ
夜朝カラお吉ノ様子ガシヤクニ障ツテ居タノデ酒ヲ四合ノンダ。アトデ手紙デ又ナン
ダカアヤマツテ來タ

◆▼3555ページ◆▼ 大正4(1915)年11月30日(火)

天気晴

今日ハ朝カラ壘入りノ模型ヲツクル 夜出來上ル
お晝過ギヨリ本郷君ト習志野ニ行クト云フノデ豊サンヲヤル 花チヤンニ五十錢借リテ
小遣ニサセル

白戸ヨリ濱氏ト共ニ今夜行クトノ知ラセガアツタ 九時頃ヤツテ來タ 海氣館ニ行キ十
時過ギ追話シテ帰ル 星野氏ハ二三度破壊シタトノコト ソシテマダ一度モ飛ベイ由
村山モ東京へ帰ヘツテ居ルノデ濱氏ガ前(ママ)後策ニ來タトノコトデアツタ

◆▼3558ページ◆▼ 大正4(1915)年12月1日(水)

天気晴

今朝ハ風モ静カデアツタ。六時頃起床仕度シタ 七時過ギ白戸搭乗飛揚 約五六十米
突位ニテ千葉ノ向フ追行ツテ帰場 一週(ママ)間着陸約十二三分。カーブレイターノ、
バルブガシマリキラナカッタ。ヨクシラベルトダン、シマツテ來タノデ氷リト云フコトガワ
カッタ

車輪ガ一ツパンクシタノデ直ス爲メニ手間取ツタガ直ラナカッタ 濱氏ヲ同乗サセル筈ニ
ナツテ居タトノコトナノデ其マ、ヤルコトニシタ 直線ニ往復シタアトデ二十米突位ノ高
サデー週(ママ)着陸シタ 濱氏モヨロコソデ居タ 後チ氷上飛行ノ事ヲ濱氏ニ話シテ見
タ。サンセイノ様デアツタ。

共ニ東京ニ帰ル。アスノ朝多分ヨイト思ツタノデ帰ルート思ツタガ開店以來一人モ客ガ
ナイノダカラ金ハオゴルカラ遊ンデ行ケトテトードー止メラレタ。ソレデモ帰ルツモリデ
アツタガ酒ニヨツ。パラツテ寝テシマツタ 濱氏ハ費用持一ヶ所三百円デーケ所契約シテ呉
レトノコトデアツタ、ソーダガ白戸ハ五百円ト自分持ト云ツテヤツタトノコト 相談ノ上
返ラスル由。白戸ハアノ飛行□ガ安定ガ悪ルクテ、コワクテ上ガレナイト云ツテ居タ

◆▼3559ページ◆▼ 大正4(1915)年12月2日(木)

天気 晴

八時頃起床 九時朝食、帰途ニツク 河村サンニ寄り御晝ヲ馳走ニナリ写真機ヲ借りテ帰稻ス

▲▼360ページ▲▼ 大正4(1915)年12月3日(金)

天気 曇リ

豊サンハ暗イ内カラサワイデ居タ 六時過ぎ起床

機ヲ引出シエンジンヲ廻シスローヲヤツテ居ル内ニ止マツテシマッタ。シラベルトカーブレーターガ氷ツテ居テレバーガシマラナイ上ニ、ゴクスローニシタ時ニノズルノロガ氷ツタラシイカーブレーターヲ御湯デアタ、メルト廻ツテ風ガナイノデスローデ走り出シ中途カラ一パイ出シタ。ステキニ早イ氣ガシタ。少シジャンプシテスローニシタガナラナイノデスイツチデトメテ降りタ。其ノマ、機ヲソコニ居イテ熱空氣ヲ吸込ムベキパイプヲサガシ初メタ 中々見當ラナカッタガヤツテ、フイゴノ奥ニアッタノデ、ソレヲ、ツケヨートシタガエキゾーストパイプガミジカクナツテ居タノデツカナカッタカラ豊サンヲ同乗サセ格納庫ノ前迄飛ンデ帰ヘタ 二度共安定ハヨカッタ シカシヤハリ、スイツチデナケレバ止マラナカッタ。ソシテパイプニ手入レシテ取付ケルコトニシタ 余ハ其内ニ写真ヲ二枚取ツタ。其レヲツケテカラ氷ラナクナツタ スローモ極度ニキク様ニナツタ。

少シ風ガ出テ來タガ上ガナサソノノデ飛ビ出シタ、ガドーモ思フヨニ旗ガ沖ノ方ヘ出ナイノデ着陸シタ。ソシテ直線デ帰ツテ來タ 帰りハ向風ナノデ走り出シタト思フトブーツ上ガツテシマッタ ソシテ其上ノ方モ又風ガ出タ様ナノデ中止シタ。午後店ノ姉ガ金ガホシソーデアッタノデ信州モアニスルワケニ行カナイノデア父ニ手紙ヲ書イタガ如何ニモ出ス氣ニナレナカッタ 午後頭ガカン、シダシタノデ床ニ入ツタ

▲▼361ページ▲▼ 大正4(1915)年12月4日(土)

天気 晴

昨夜カラ引ツギ大風デアッタ 如何ナ海軍モ今日ハ飛ブマイ

午後豊サンニ写真ヲ現象(ママ)スルベク千葉ヘヤル。ウマク写ツテ居タ

午後玉井君夕方迄遊ンデ居タ 一昨日豊サンガ同乗シテ帰りニ壞シタコトツイテヤハ

リ豊サンガ操縦ギヲ引張ツタカラ面喰ツタト云ツテ居タ

夜各種飛行機ノダイアグラムヲ作ル

▲▼362ページ▲▼ 大正4(1915)年12月5日(日)

天気 晴

朝少シ風ガアツタガ次第二ナイダ。今朝友野君モ來テ居タ

自分ノ飛行機ヲ引出サノトシテ居ル處へ玉井君ノガブーツ走り出シタ 少シ上ガタカラオヤ、ト思フ内又上ゲタノデ又壞シタナト思フ内左へ廻リ出スト其マ、左ヲ下翼ヲ地上ニ打ツケルト逆立ニナツタ。自分モ、カケツケルト之レハ又ヒドク壞レテ機体ノ前部ハメチャ、翼モ一枚ヨリ役立タナイ。エンジンハポロリトコロゲテ居タ 玉井君ノ顔カラハ血ガ出テ居タノデ機ハ僕ガヤルカラトテ醫者ニヤツタ。チャント方付イタ頃ハモ一ツガ上ゲテ居タ 風モ少シ出タガ大イシタコトガナイノデ、ヤツテ見ルコトニシタ 汐ノ上ゲタ處迄イクラモナイノデ、ウント上ゲタガ中々上ガラナイ 三度上ゲテヤツトイツモノ一度振りシカ上ガラナカッタ 機ハ左右ト動揺シタ ヤハリ沖ハ出ラレナイデ水中へ着陸シタ。ソシテ帰ロト思ツテ飛ビ上ガルト、スググン、左へ廻リ初メタ ソシテ左へ傾シカテ、エレロンモ引イタ 方向舵モ引イタガ中々動カナイ 変ダト思タ 見ルトヤハリ直線ニナツテ居ルノデ思ワズ左ノ手デ、グート手張ツタ。一寸頭ヲ上ゲルト下ハケイカイノ象ガ帰ツテクルノデ三三五五人ガ居ル ツキオトスワケニモ行カズ又エレロンノ頭ヲ左ノ手デ引キソシテ、手デ方向舵ヲ動カシタ ロデ無中ニナツテ二三度ヤル中機水平ノ位置ニナツタノデシートニ帰リスグレバーヲユルメテ水中ニ着陸シタ 其時バカリハホット一イキシタ。マツタク天祐デアツタコトヲ感謝スル

鳥飼氏モ山ノ上カラ見テ居タトノコト トコガ一ヶ所最(ママ)非ヤラナケレバヤリキレナイカラ君ノ氣ハドータトソレヲ聞キニ來タラシイ

◆▼363ページ◆▼ 大正4(1915)年12月6日(月)

天気晴

終日好飛行日和デアツタ 十時頃機ヲ引出シ北ニ向ツテ飛揚 舟道上ヲ旋回シテ黒砂ニ向ヒ再ビ引帰シテ着陸

最高百二三十米突 ドーモ上ガリ安イ様デアツタ。後チ豊サンヲ同乗サセタ 中々重カッタノデ、ケイカイ象ノ頭上デ旋回シテ格納庫ニ向ツテ着陸 約五六十米突位ノ高さ。後チ千葉ニ行クベク同方面ニ向ツテ飛揚 少シ沖風ナノデ山ノ方へ押ツケラレル様ナノデソレヲノガレルベクグン、上ゲタ 左右ノ動揺モナクナツタノト下ヲ見ルト今迄トハチガヒ影ハシヅカニシカ動クノガ見エナカッタ。埋立ヲ目標ニシテドン、行ツタ 高度ハマス、マシタ 水平線ハモヤデ少シモ見エナカッタ 其内登戸ノ町ヲ大分行ツタ頃左ニ縣廳ガ見エタノデ町ノ上ニ出テ鉄道線ヲ見(ママ)標ニ旋回シテ沖ニ出タ。余リ高スギルノデスローニシタガウント下ゲナケレバ中々降りナイ 其内ニモ一靜遊館ノ前迄キタ 格納庫モ見エルノデ、グート下ゲタ 身体ガホーリ出サレル様ニナツタノデ又水平ニ直シ又下ゲタ トタチ、地面ニ接近シテ着陸シタ 上カラ見ルト、ワヅカシカ州ガ見エナカッタノデ帰ツタ處ハルカノ沖デアツタ。アノ高サカラ、ズイブン近クニ降りラレルモノダト思ツタ 水留(ママ)リヲ注意シナガラ直線飛行シテ帰ル 約五百米突以上デアツタト

ノコト 黒砂ノ學生ガ萬歳ヲヤツテ居タト店ノジイサンガ云ツテ居タ
水平飛行シテ居ルトキ手ヲハナスト頭ガ下ガッタノデ初メハ前ガ重イノダト思タガ後チ
イツモ上ゲ柁ヲ取ツテ飛ンデ居タコト

376頁

(369ページへ続く)

◆▼364ページ◆▲▼ 大正4(1915)年12月7日(火)

天気晴

目ガ醒メルト波ノ音ガシテ居タノデ風ガ出ナケレバヨイガト思フ内モ一レツニ吹キ出シ
タ。豊サンヲ起シテ格納庫ノコトヲ尋ネルト見ニ行ツタノデ後自分モ行ツタ。モ一大分
明ルクナツテ居タ

朝食後一寸ナイダガ後チハ返(ママ)対ノ方カラ北西ノ風ガ又盛ンニ吹イタ。自分等ハ予
定ノ仕事ヲ初メタ 濱氏ト白戸ハ十一時ノ汽車デ帰ヘツタ。最(ママ)非ウマクヤツテ下サ
イト云ツテ帰ヘツタ 白戸ハ何モ云ワナイノデホントノ話ガヨクワカラナカッタ。角度
ヲ二度ニシ、エンジンノ力デ入射角ヲ三度ニシタ。ソシテ以前ヨリハ後部ヲ四寸ばかり下
ゲテ水平飛行スルコトニナツタ訳デアルガマダナリナイ様ナ氣ガシタ

◆▼365ページ◆▲▼ 大正4(1915)年12月8日(水)

天気晴

今朝ハ馬鹿ニユックリ寝タ 起床後昨日ノ仕事ノ残りヲ十一時頃迄ニ仕上げタ。少シ山
風ガ自分ニ少シ強イノデ中止シタ。ソシテ散髪ニ行ク

足袋ガ買イタクモ金ハナシ 冷タイノバマダ我マン出來タガ店ノ姉サンガ二見トモナイト
云ワレタ、ノデ返事ニ困ツタ

後チ白戸ニ信州ヲキメテ貰ヒタイト云ツテヤツタ。急グノデ停車場ヘ持ツテ行ツタガ間
ニ合ワズ千葉ノ人ニ頼ンダ 夜七時半カラ九時迄店デ話シタ 十時入浴後床ニ入ル
化學ヲ學ブ

◆▼366ページ◆▲▼ 大正4(1915)年12月9日(木)

天気晴

朝カラ上天気デアッタ 一時頃カラ仕度シテ二時頃ヤツタ

角度ヲ直シテ初メデアルノデ先ヅ直線デ二回 後チ黒砂一週(ママ)着陸、検見川ニ向
ツテ一週(ママ)着陸 次ギハ黒砂検見川両方面ニ二週(ママ)着陸 此ノアトノ二回ガ自

分デモ着陸ハヨイト思ツタ。後チ豊サン同乗黒砂方面一週(ママ)着陸。ソコハ浜サンカラ電報ガ來タノデ白戸ト相談スベクニ時ニテ帰京 河村氏ニヨリ、夕食ニアラスゾーニラ馳走ニナリ鳥飼氏ニ行ク途中モドシソーニナツテ困ツタ ヤット同氏宅デ胃散ヲ貰ツテノム。又酒ヲ馳走ニナリ白戸ニ行ク 不在 シバラクシテ帰ツテ來タ

◆▼367ページ▲▼ 大正4(1915)年12月10日(金)

天気晴

朝早くト云ツテモ九時頃浜サンニ打電シタ 之レガ皮キリデ四五回電報ノ往復ヲシタガ結局白戸ガドーモ進マナイノデヤメルツモリデ打電シタ

十時頃カラ野島氏ヲ尋ネタガ青山へ、ナイルスノ手傳ニ行ツテ居ルトノコトニ自分モ行ク 強イ風ガ吹イテ居タ 格納庫ノ内ニ這入ツテ野島氏ト久々ニテ會ヒ飛行機ヲ見セテ貰フ ブレリオノ方ハ運搬中コワレタトカデ、協会ノ職工ガ左ノ翼ヲナオシテ居タズイブンキヤシヤナモノデアッタ。複葉ノカーチスノ方ハ之レハ又ベラ棒ニ、丈夫ニスベテガ出來テ居タ

晝食ハ野島氏宅ニテ馳走ニナリ午後又格納庫ニ行キ三時頃帰宅ス。二機共宙返リソノニ出來テ居タ

◆▼368ページ▲▼ 大正4(1915)年12月11日(土)

天気晴

朝雨カト思ツタガ降りモシナカッタ 十時頃鳥飼氏來

浜サンノ話ガドーモアブナソノナノデ氏ノ大會ヤル處ヲ聞イテ見タガ之レモ不確カデアッタ。ソレニ、アル方面カラ飛行機ヲ買ヒタイトノコトデアルガ君ノハ賣ラナイカトノコトデアッタ 二千八百円程デハドーカトノ話デアッタガ三千円以下デハ丁度ハナセナイト思タ。少時花 鳥飼氏帰宅 後チ自動車デ迎ヒニ來テ呉レタノデ乗ツテ行ク ドコガヨイ場所ト思ヒナガラ信濃ノ町込來ルト丁度向角ノ式階ガ見物ニ持ツテ來イト云フ様ナノヲ聞イテ見ルト貸ストノコトデソコヲカリタ 茶代ヲ出スト御茶御菓子ヲ出シテ呉レタ 入場スルヨリハルカニヨカッタ

第一回ブレリオノ試飛行 六回ハ、ヤッタ、、、クルリ、、トツメケ様ニヤッタ。イツドーシテ、ドー云フ風ニ返ツタノカヨクワカラナカッタ

後三回ハカーチスノ試飛行 四回目ハ同式ノ低空バンキングト宙返リハ少シデアッタ。夜カジノツカヒ方ヲイロ、、ヤツテ見タ ドーモ分リニクイノデ豊サント交タイスルツモノ

■モー一日見ルコトニ決シタ

◆▼369ページ▲▼ 大正4(1915)年12月12日(日)

天気 晴

空気が落ツイタ極メテ静カナ日デアッタ 十二時頃鳥飼氏へ電話ヲカケタガ豊サンガマダ帰ラナイトノコトデアッタ 十二時半再ビ電話シタガ未ダナノデ白戸ト二人デ出来(ママ)カケタ 丁度一丁目ヲ横ニマгалトブレリオガ飛出シタ處デアッタ。原ノ横ニ行キノコデ見物シタ 丁度頭上デS字ヲヤッタ カナリ長クサカサニ走ルモノデアッタ。ソレガスンデ昨日ノ家ニ行ク 昨日ヨリ約十倍ニモ人が出ダ様ニ思ワレタ 場内外共ニ大変ナ人デアッタ。三時頃複葉ガ飛出シタ 高ク低ク例ノバンキングヲヤツテ降りタ。發動機ニ故障ガ出来テ、ルーピングハヤラナカッタトノコト

四時頃ブレリオガ飛ンダ () 飛行デスグ降りタ 之レデ終ル 豊サンハ一番シマイノダケ見タ。白戸ニテタ食。浜氏ノ宿ニ白戸ト共ニ行ク 明日稲毛デモ一度ヤルコトニシタ ○印ハ村山契約通リト云フコトニキマッタガ金ガドモアブナソデアッタ。宙返リノ舵ノ取り方ハ今日スツカリハカツテシマッタ

◆▼370ページ◆▼ 大正4(1915)年12月13日(月)

天気 晴

今日モ絶好ノ飛行日和デアッタ 朝食後入浴 十二時四十五分錦糸町発ニテ白戸山形ト帰稻 仕度シテ機ヲ引出ス 三時過ギ浜氏モ来 白戸先ヅ搭乗 稲毛、検見川間ヲ高ク低ク或ハ傾キ時ニ左右ヲ、ユツテ見タリ右回轉ヲシタリ十六分間ニシテ降りタ。ソシテ左右ガ、エレロガ重イト云フコトヲ云ツテ居タ。成程ソレナラバ或ハ重イニチガイナカロト思ツタ。後チ自分搭乗 黒砂ト稲毛間ヲ二週(ママ)シテ着陸。マダツクマイト思フ内ニ水ヲカスッタノデ再ビ上ゲテ着陸シタ 今少シツヨケレバ、壊レタカモシレナイ先ヅ天祐デアッタ

白戸、浜両氏ト夕食ヲ共ニシ、スベテヲ白戸ニ頼ンデ居クコトニシタ 二人ハ六時十二分デ帰京シタ

夜終列車ニテ大口帰ル 大分困ツタ様子デアッタ

◆▼371ページ◆▼ 大正4(1915)年12月14日(火)

天気 晴風強シ

七時起床 風ハ強カッタ 店デ茶ヲノミ浅間様ニ参ル 朝食後大口君ニ晝頃追越後ノ話ヲ聞キ又□クノ話ヲナス。ソレヨリエロンノ製作ヲ初メル 色々ナ木ヲ取合セ夜業ヲシテ骨組ダケ出来上ル

三時頃白戸ト浜ト松本ノ主催者小林氏ト三人来ル ヤハリ十七日試験ノ結果ハ當方ヨリ通知スルトシテ一時帰ラセルコトニスルト白戸ハ云ツテ居タ ソシテ明日原ノ町へ運動ニ行ク由

松谷ノ姉ヨリ手紙來 親父モ姉ガ分家スルニツキ家ヲ買ワナケレバナライノデ金ガ入ルノデ心配シテ居ルトノコト トテモ送金出來マイトノ通知デアッタ。又平井氏ヨリ手紙來 今横須賀ニ來テ居ルガ十七八日頃東京へ行クカラ會ツテ兄カラノ事傳フシタイトノコトデアッタ

▲▼372ページ▲▼ 大正4(1915)年12月15日(水)

天気晴

朝上天氣デアッタガ、スグ潮ガ上ゲテシマッタ

エロンニ布ヲ張ル 大ロスタンション 豊サン、プレーンノ後部ヲ切ル 夜蝶番等ヲツケテ明朝出來ル様ニ準備ス

白戸ヨリ三時頃アス出來ルカヘントノ電報アリ 出來ルト返電ス。然シ原ノ町ヘハマダ行カナイトスト今年中ハドーモ、アブナソーナノデ他ニ金ヲ借ルコトヲ色々考ヘタガマツ都築氏ントコガ頼ムカ山田カ、前ノ商会 此ニツヨリ方法ガナイ 然シニツ共ドーモ頼リ少ナイノデアル

今日ハお金ノニツノ祝トカデ夜酒ヲ馳走ニナル。向フノ室デハ随分遅ク追ヤツテ居タヨ一デアッタ

▲▼373ページ▲▼ 大正4(1915)年12月16日(木)

天気晴

終日一點ノ雲ナク又風モナカッタ

エロンヲ朝早クツケタガ出來上ガッタ時分ニ汝ハパイニナツテ居タ。朝食後白戸來ルヤハリ汝ノマニアワナカッタ イロ、話ノ末松本ハ明日電報デコトハルコトニ決シタ ソシテ今日三時ノ汽車デ平、原ノ町ノ方面ヘ運動ニ行ツテ貫フコトニナツテ十一時ノ汽車デ帰京シタ

アト鳥飼氏ガ鉄砲ヲ以テヤツテ來タ。飛行機ノ買手ハ廿七日頃見ニ來ルトノコトニ三千円デソレ以上ハ鳥飼氏ノ腕次第 三時頃仕事モ終ツテ鳥飼氏ノ酒ヲ馳走ニナル 大口ト三人デ鳥ヲ打チニ行ツテ雀ヲ五六羽トヒヨ鳥ヲ一ツ打ツテ來タ 時分ハ行カナカッタ夕方四時四十分デ帰京 午後ノ汝ハヤレナカッタ

▲▼374ページ▲▼ 大正4(1915)年12月17日(金)

天気曇リ

風強ク汝干カズ

終日各種飛行機ノプログラムヲ作ル 夜ハ、水上ノ製圖。

夕食中白戸ヨリ飛電アリ。有望明日キマルトノコト 意氣大ニ上ル

▲▼375ページ▲▼ 大正4(1915)年12月18日(土)

天気晴

今日モ風アリダメ

プレーンヤ柱ノ箱ヲ作ルベク松板ヲ引割ル

午後猪口君來 早ク帰ル

夕食中白戸ヨリ電報デ今夜赤坂迄來テ呉レトノコトニ七時半ニテ行ク

丁度白戸ガマダ洋服ノマデ居ル處へ行ツタ 今帰ヘタバカリダトノコト。向フハ大變好

都合デ住吉屋ト云フ宿屋ノ主人ガ同町ノ一番ノハギキキデソレガ寄附ヲ募集シテ呉レ

ル由 ソレニツキ寄附帳ト趣意書ヲ送ラナケレバナナイトノコトニ、鳳號時分ノ趣意

書ヲ少シ訂正シテ送ルコトニシタ 十二時就床 東京ノ町ハモースツカリ暮ラシクナツテ

居タ

▲▼376ページ▲▼ 大正4(1915)年12月19日(日)

天気晴

九時頃起床 十時朝食 後チ、賛助名簿ヲ買ヒニ行ツタガ適當ナノガナイノデ、美濃

紙ト大高紙トヲ買ツテ帰り自分デ作ツタ 書イテ貰フノハ白戸ニ頼ンデ帰ルコトニシタ

紙ノ代残リト外ニ一円借リテ帰ル

河村氏ニ寄リ一時間バカリ話ヲシテ鳥飼氏ニ行キ白戸デ貰ツタ、シオカラヲ分ケテ江

東橋ニ行イ三十分間待ツテ三時三十五分發車

夕方帰宅 入浴 夕食

大坂カラ人ガ來ナカッタトノコト

▲▼377ページ▲▼ 大正4(1915)年12月20日(月)

天気晴

今日ハ朝カラ飛行準備ヲトノエタ 十時過ギニ引出シタ 風ハ少シアッタガ大シタコトハ

アルマイト思ツタ 此頃毎朝風ノ中ノ飛ビエ合ニツヒニ工風(マ)シタノデ無風ノ試験ハ

モ一終ツタカラ此位ノ風ハヤツテ見様ト思ツタ 沖キニ立テテ旗ハヒラヽト上ガツタキリ

落チナカッタ。北風ナノデ沖ノ方カラ北ニ向ツテ飛揚 何ンダカ流サレル様ナ氣ガシタ

稲毛ノ舟道ノ上デ回ツテ黒砂ノ沖カライツモノ處へ着陸シタ 風ノエイキヨーガ殆ンド

無イ位デアッタ。時々ミッスシタノデ氣ニナツタガ又ヤツタ。ケイカイノ沖デ、發動機ガ

バラヽ云ヒダシタノデ下ゲナガラ着陸場ヲサガシタ。ヨ程下ガツタ時又ブート出タノ

デ急イデ格納庫ノ方ヘ方向ヲ轉ジタトスグ又バラ、云ヒダシテモ一止マツタモ同様デアツタ ヤムヲ得ズケイカイノスグ手前デ着陸。海岸ニ引上ゲテ、シラベルト、プラグガ壞レテ居タノデ新シイノト取替ヘテ又ヤツタ 横風デ降りテ居タガ何ントモナカッタ 其後モ一一度ヤツテ終ツタ 四回デヤク二三十分ヤツタ 風ニツイテ多少自信ガ出タ

◆▼378ページ◆▼ 大正4(1915)年12月21日(火)

天気晴

マダ寢テ居ル内ニ鳥飼サンガヤツテ來タ。鉄砲ヲ二挺持ツテ居タ 犬モツレテ來タ。朝食後養生館ノ方ヘ打チニ行ツテヒヨヲ一匹取ツテ帰ル 十一時頃カラ引出シタ 昨日ト同ジ風デアツタ。モ一何ントモ無クナツタ。スグ北ニ向ツテ飛揚 一回轉シテ千葉ニ行キ埋立上ヲ廻ツタ 町ニ這入ロートスルト、ソレヲコバムヨ一ニラレタノデ帰ツタ 今日ハ此前ヨリ余程早カッタ。ドーモバイブレーションガ多スギテ氣持ガ悪イノデ、取付ケ捻ヲ皆ベテ貰フ。ソレカラ稲毛十週(ママ)シテ降り、後チ、ケイカイノ上ヲ回ルコトヲヤツテ稲毛ノ村ノ上ニ出デ畑ノ上ヲ検見川町ニ手前ニ行キ海ニ出テ、稲毛ノ舟道ニ舟ガ一隻(ママ)通ツテ居タノデ、ソレヲ目ガケテ降りケイカイノ南ノ端迄底(ママ)空ヲヤツテ又上リ黒砂沖ヲ廻ツテ着陸。ツギニ鳥飼氏同乗。風ガ少シ又出タ 大口同乗 何ントモナイノデ豊サンモ乗セ小サイ回轉モヤツテ降りタ時ナルベク格納庫迄持ツテ行カート思テ、ツヒニ道端砂地迄上ガツテ亀沢ノ舟二片足乗上ゲテ止マツタ ワイヤ一一本ユルンダダケデアツタ。

午後稲毛ノ村中ヲ花打チニ行ツタ
發信みね、宮口、加藤、村山。

◆▼379ページ◆▼ 大正4(1915)年12月22日(水)

天気晴

昨夜ノ雨キレイニ晴レテ風モ昨日位 正午頃機ヲ引出ス
沖ニ向ツテ飛揚 右回轉シナガラ検見川、幕張ヲ過ギハルカニ鉄道隊ガ見エタノデ行キテ其上ヲ旋回シ帰場 津田沼デハ大分ユラレタ 往復十八分 巨(ママ)離約十三哩 降りテマゴ、スル内汐ガ上ゲテ來タノデ飛揚 少シ風モ加ワ、ツテ居タガ、一ツノ洲ニ下リテ見ヨトノコトニヤツテ見タ ウマク降りラレタ 離陸ハ四十米突着陸ハ七十米突デアツタ。午後何モセズ、夕食後スグ床ニ入ル

◆▼380ページ◆▼ 大正4(1915)年12月23日(木)

天気 晴

天気ハ好カッタガ風ガアツタ 少シ気色悪ルカッタノデ御晝迄寢テ居タ。午後起キタガヤハリ何ニモ手ニツカナカッタ
夜夕食ト共ニスグ床ニ入ル
發信 白戸河村二氏

▲▼381ページ▲▼ 大正4(1915)年12月24日(金)

天気 曇リ

今朝齒ノヌケタノト御湯屋ノ夢ヲ見タ處大変ヨクナイカラ今日ハ飛行ヲヤメロトノコトニ中止シタ
ソレニ、お吉ガ何ノカノト心配サセタノデ心持悪ルカッタ
夜ソレ等ヲ解決シタ
インディアアンノ水上ヲ設計ス

▲▼382ページ▲▼ 大正4(1915)年12月25日(土)

天気 晴

今日ハ三リンボーデ御休ミ
インディアアンノ水上製圖ト各種飛行機表
玉井君トコロノ菅原ハ今日カギリ帰ヘシテシマッタトノコト
其アトヘ又八日市場ノモノトカデ見學ニ於テ呉レロトテ來タモノガアツタ。ヨソデ下宿シテ手傳フ由。何ンデモ新聞デ玉井君ノコトヲ見テ宅ヘ成田ヘ行クトテ出テ來タノダトノコト
豊サンノ話デハマダ操縦器ヲアレニシヨカコレニシヨカトマヨツテ居ル由。又壞サナケレバ
イ、ガ今頃ソシナコトヲ云ツテ居ル様子デハ危ナイモノダ

▲▼383ページ▲▼ 大正4(1915)年12月26日(日)

天気 晴

朝カラ飛行日和 軟風デアツタ
今朝床ノ中デ考ヘ出シタガ平カラ何ンモ來ナイノデアテニナラヌノデ何處カ借金ヲシナケレバナライガ東京デモ、アテナナル處モナイノデ結局稲毛デ何處カ借リラレレバト思ツテ大口ニ話シタ 夜店ノ親父ト方々奔走シテ十二時頃帰ツテ來タガモ―三四日早ケレバ、スグ出來タノダガスデニ日ガセマリ過ギテ居ルノデ誰(ママ)目デアツタトノコト。平ノ方ガ出來レバ其レデ返ストモモツト早ク借リルノデアツタト氣ガツイタガモ―取

カヘシガツカナカッタ 今朝みね姉カラ、金ガ出来タトノコトデ安心シタト云ツテ來タガ
ドーシテモ一度又帰ラナケレバ年ハ過ゴセソーニモナイノデ種々氣ヲモンダ
一時半起練習ヲ初ム 四回飛行。今日ハ千葉県廳ノ上ヲ回ツテ帰リニ汽車ト競争シタ
ガタチマチオイツケタ。百米突位ノポールプランモヤッタ 8字飛行モ低空モヤッタ 稲
毛ノ停車場モ一廻シタ 最後ノ着陸ハマツカッタ

▲▼384ページ▲▼ 大正4(1915)年12月27日(月)

天気 晴

イヨ、ダメト思ツタノデ東京ニ行ク 丁度白戸ノ家ニ行クト今稲毛カラ電報ガ來テ、
タイラガ見合セルトノコトデアルトノコト ドーシテモ大坂へ帰ラナケレバナラナクナッタ
夕食ハ白戸デナシ五円借り河村サンへ写真機ヲ返シ鳥飼ニ立寄り一円歳暮トシテ貰ヒ
八時東京發ニ乗ル

▲▼385ページ▲▼ 大正4(1915)年12月28日(火)

天気 晴

ヨク眠レナイデ十時半大坂着 正雄サンノ事傳ヲナシ帰宅ス

想象(ママ)シタ通り又帰ツテ來タト云ツタ姉ハ金ワナイカラ父ニ話シセヨト云ツタ 帰ル
ナリ云ワト思ツタガ父ガゼンソクデ寢テ居タノデ見合セタ 午後起キタノデ話ス。コン
ドハタレガ何ント云ツテモイケナイト云ツテ出テ行ツタノデ一人涙ヲ禁ズルコトガ出来
ナカッタ 兎三角兄ニ夜帰ヘテ貰フ様電話カケ夜話ス 姉ガ裏ノ内へ這入レバ家賃モ取レ
ナクナルシ、兄ノ五十円ノ月俸デハトテモ今ノ家ハヤリキレナイノデ、ドコカ家ヲ一軒サ
ガシテ居ルトカ姉ガ此春以来内へ入レナイデ貯金シテ居ルナド兄ガ云ツテ居タ 姉ハ
姉デ兄ガ金ヲ使ツテ仕方ナイナド云ツテ居タ 父モ兄ガ三百円バカリ行道不明ニシタ
トオコツテ居タ。兄ニ聞クト、相場デ百廿円バカリ損ヲシタノト、マントヤ色ナモノヲツ
クッタノデ、ナクナッタシ上野ノナントカ云フ人ニ二百円バカリオサレタナド話シテ居
タ 要スルニアマリ円満ナ家庭デナイコトハ以前カオ母ガ死ンデカラデアッタ。ソシテ居
ナノ話ヲ聞カサレタガ兄ガヤット親父ヲ説キツケテ呉レタ ソシテ明日ニ二百円出シテ呉
レルコトニナッタ。後床ニ這入ツテカラ親父ガイツニナク飛行機ノコトナドヲ色々ト聞イ
タ 一時ノ鳴ルノヲ聞イテ眠ル

▲▼386ページ▲▼ 大正4(1915)年12月29日(水)

天気 曇リ

ヤット安心ガ出来タノデ御晝前西ノ内へ行ク。叔父ノタン生トカデ酒ヲ馳走ニナル。後

千延次郎君天下茶屋ノ練兵場ヲ見ニ行ク。セマイ上ニ電柱ガアツテテモ誰(ママ)目。帰リニ武徳殿裏ニ武石君ノ機ヲ吊フ。一時帰宅。三時頃ヨリ又共ニ新世界ニ行ク。イロハニ登楼。酒ヲノム。ドーモウマクナイデ後チサイダーニスル。延君ニ大分見セツケラレタガ、ドーモ此頃皆ダラクシタ様ダ。帰宅。仕度ヲナシ七時宅ヲ出八時八分發ニテ上京ス。おつやん電車迄送ル。

◆▼387ページ◆▼ 大正4(1915)年12月30日(木)

天気晴

トナリニ坐ワツタ横着野郎ニホコマサレテ昨夜トハトト眠レズ。国府カラ一寸スイタノデ少シ眠ル。

十時半新橋着。汽車中デ幾度カ豫定シタ通り白戸ニ行ク。丁度御湯ガアイタトノコトデ入浴。サツパリトナツタ。宮口へ五円。汽車賃五円。ガソリン十二円ノ處ヲ廿五円預ケテ帰ル。スグ河村サンニ行ク道々御歳暮モノヲ買求メ明日豊サンニ取ラセルツモリデ河村サンニ預ケテ居ク。河村サンノ帰リモキレイニ返ヘシ鳥飼氏ニ六時間ノ都合デヨラズ。兎ニ角稲毛ヘイソグ。三時稲毛着。店ハ十一月末迄全部スマセ外ニ一円。少シ少ナイト思ツタガ大口ガソレデヨイトノコト。大口廿円。地代十四円四十銭。豊サン行違イニ東京ヘ行ツタトノコトニ、ヤロト思ツタシヤツガ、イラナクナツタノデ自分デ着ルコトニシタ。

夜千葉へ格納庫ト飛行機ノ御飾リヲ買ヒニ行ク。十一時床ニ就ク。

◆▼388ページ◆▼ 大正4(1915)年12月31日(金)

天気晴

アタ、カイ上天気。今日ハ自分等ノ様ナモノデモ暮ラシテハタライタ。マツ帰坂以來ノ日記ヲナシ、飾付ニ障子ノ切張リナドデ日ハクレタ。

大口東京ヘ行ク。夜帰ル。

玉井サン、プレン組立テ。機体ノ前モ出來ル。

夜玉井、本郷、大口諸君ト忘年會ヲヤル。ト云ツテモ夕食ニ一寸一杯ノンデ居ル處へ來合セタニ過ギナカッタ。

◆▼389ページ◆▼ 補遺

本年ハ総体ヲ通ジテ幸運デアッタ。練習カラ白戸ノ旭號製作巡回之レデ金ヲ得タノ
デ間接、直接ニ内外ノ信用ヲ得タ、ニヨツテ發動機モ買ヘ飛行機モ出來充分練習モツメ
予定通りノ自信ヲ得ル迄ニナッタ。タ、機ノ完成ガオソカッタ爲メ一ヶ所モヤラナイデ
年末大坂ニ帰ル様ナ事ガ出來上ガッタ。然シ之レハ大ニヨカッタと思フ。兎ニ角金ニ困ッ
タト云フコトハ自分ヲ励マス最モ好イ先生デアッタ。借金ヲ作ッタコト、操縦法ヲ覺エタ
コト、設計製作ニ大ナル確信ヲ得タコト、飛行機ヲ得タコト、以上ナシタル仕事

◆◆390ページ◆◆補遺

大正4(1915)年1月29日(金)

(30および36ページから続く)

一月廿九日

今朝早ク馬車來。荷物ヲ積出シタトノコトデ午後豊サンニ兎ニ角先キニ稻毛ヘ行ッテ貰
フ。金十一円渡ス。夕方四時半頃大口來。二階ニ上ゲ、シバラクスルト、仕度ガ出來タ
トノコトニ下ニ行クト御酒ガツイテ居タ。余ノ旅立ニ酒ヲ出サレタコトハ実ニ、感謝ニ堪エ
ナイ次第デアル。六時十分皆様ニワカレヲ告ゲ、用事ノ出來タ時ハ何時デモ知セル様河
村氏ハアマリ頭ヲツカワヌ様ト云ツテ出タ。御母サンハ御小使ガイルナラ何時デモ云ツテ
來ナサイト云ワレタ

二月二日

余ハ其マ、終ル予定ナリシモ大口君沖迄飛行機ヲ持ッテ行ッテヤルカラ風向ヒニ今一度
ヤレトノコトニ、ヤ、風ギタルヲ見テ追風ナガラ滑走ヲ初ム。速力以前ニ倍シテ頗ルハヤ
シカイ掘リノスグソバ迫行キテ、アヤブミナガラモ方向舵ヲウントフミ

◆◆391ページ◆◆補遺

大正4(1915)年2月2日(火)

(390ページから続く)

テ回轉。風向トナリ少シ上ゲ舵ノマ、全速力ヲ出スニイツノ間ニカ飛揚シ居リ右ニカタ
ムキタレバコレヲ直ス中、機ハ少シカシガリシマ、着陸シタリ。其マ、滑走ヲツゞケシモ少シ、
カジヲ引ケバスグ飛揚セリ。カクスルコト三回バカリニテモトノ位置ニ歸リシモ、少シ愉快
ニナリシマ、モ一一度ト、センカイ滑走ヲナシ横風トナルヤ、流サレシモノト見エ車輪スデ
ニカエリテ機ノ下ニナラントスル様ナリシカバ氣ヲモミナガラ直線ニ滑走ヲツゞケル中モト
ニカエリタリ。時シモ水タマリニ入りテ、マグネトヲ、シメセル爲メ、發動機ハ停止セリ
之レニテ中止ス。後チエンジンノ調子ヲシラベ飛行機ノ角度ヲ見ルニ右ノ方少シ少ナカリ
シカバ之レモ直シオク。飛揚スル度ニ右ニカシギシ爲メ氣持悪シカリシ。水溜リニテ、エン

ジン止マリシハ天祐ナリシ ナゼナラバ、アノ時少シ調子ツキ居タル時ナレバモットヤル中ニ壞シタルベケレバナリ。尚車輪ノコワレザリシモ天祐ニシテ今日ノ練習中左ノ機体樞間ノワイヤー一本少シユルミ居タルノミ

◆◆392ページ◆◆ 補遺

大正4(1915)年2月8日(月)

(42ページから続く)

シカシ昨日程デハナカッタ 今度黒砂ノ方ニ向ツテ直線飛行シ着陸シテ、エンジンヲスロ―ニスルト同時ニポイント大キナ音ガシタ シカシイツモノエンジンノ音ダト思テ居タガ機ガ停止シテヨイ不圖見ルト左ノ端ノ車輪ガパンクシテ居ル。ガトニカク其マ、帰ヘロート廻轉シヨート思ツタガソコハ丁度山ノ下ノ例ノドロ深イ處ニ近カッタノデ大急ギニ下リテ自分デ機ヲ廻スヤ否ヤ車輪ノメリコマヌ中ニト發動機ニ全廻轉ヲ與ヘテ居テ飛ビ乗ツタソシテ格納庫前ニ帰りシラベテ見ルト、タイヤーノツギ目ハナ、メニ切レテ、チューブハニツニチ切レテ居タ シカシ豫備ガナイカラ其マ、モ―一度練習ヲヤローカト思ツタガ樞ノ後部ガ地ヲ摺ルノデ、万一ヲ思ツテ中止シタ。機ノ安定ハ今日ハ非常ニヨカッタ。ヤハリキールガ大變ジヤマラシテ居タラシイ 多分マガテ付イテ居タノデアロー ソシテ前後ノ鈞合ヒヨクナッタト見エル。實際今日ハモ―少シヤツテ見タカッタ。

今日得タ處ハ何分速力ニトボシイ飛行機デアルカラボールプランヲシテ、シヨックノアルノハヤムヲ得ザラシイノデ地上ニ接近シ機ヲ水平ニシタ時モ―一度發動機ヲ充分ニ働カセタナラバ

◆◆393ページ◆◆

(392および396ページから続く)

ヨカロート思ツタ。コワカッタノハ貝掘リノ女ガバラ、ニゲタ中ニ一人ダケ返(ママ)対ノ方ニ來タ女ヲアヤフク翼ノ先キデツキタオス處デアッタ 今日モ二度バカリ車輪ヲ樞ノ下ジキニシソーニナッタ。ドーモ四車輪ノ欠點ダカオデアルガ、シカシ操縦ノシカタデコワサナイ方法ハ得ラレタ

夜東京ヘ行カウーカドーシヨート大口君ト相談シタガ、明日早ク大口君ト一所ニ行クコトニキマッタ ソレハ、プレーンヲ諏訪ヘモツテ行カレテモ練習ガ出來ル様ナプレーンヲ加藤デツクラセ高井當間両家デ少シヅ、補助シテ貰ツタナレバエンジンダケ鳥貝(ママ)カラ借りテヤレルト云フツモリアッタ ソシテ此飛行機ハ滑走ヲ長クシテ居ル内ニ風當リガ少シ變ツタ様ニ思フコト 一寸上ゲ柁ヲ引ケバスグ上ガルガ二三米位ノ滑走デハイクラ、後部ヲ上ゲテ行ツテモタゞイタヅラニ後部ガ地上ヲ打ツノミデ上ガラナイ タトエ飛揚シテモスグバタリト降りテシマウ。之レモ速力ノナイ爲メダロー

二月廿五日

勢イ鳥飼ノ世話ニナラナケレバナラナイ。ソーシタアカツキニハ鳥飼ノ云フ通りニナラナケレバナラナクナルカラト云フコトヲ話シタ。ソレニ對シ別ニ之レトシタ返ハ

◆▼394ページ◆▼ 補遺

大正4(1915)年2月22日(月)

(393ページから続く)

ナカッタ。シカシ僕トシテ話シテ置キサエスレバ後日ソーナッタ時ニ、氣持悪クナイト思ッタ。ソレカラ白戸ハアノ女ガ別ニ生活スルカラ御母サンヲ頼ムト云ッタトノコト ソレモ、ソノ方ガヨカロト云ツテ居イタ。實際アノ女ジヤ別々ノ方ガヨイカラデアル 何ンニシテモ白戸モ何ントカ目算ガツカナクテハ僕モ飛ベル様ニナツテモ少シハ彼レノ見極メノツク道ドーモ出來ナイト思ツタ 話シ中風ガスツカリナイダ 例ニヨツテ何ントナクオヅ、シタ様ナ氣持ガスルノデ浅間様ニ參詣シ仕度ヲナシ格納庫ノ戸ヲ開ク處ハ河村氏ガ見エタ。近頃頭ガ悪クテ毎日ブラ、シテ居ルトノコト 今モ幕張デ氣車ヲ降りテシマツテ車デ海岸迄出初メテ間違ッタコトガ分カッタ上ニ氣車ノ内へ土産ノ牛肉ヲ忘レテ來タトノコトデアッタ

今日ハエンジンノ引ガアマリ宜クナイト思ヒナガラモ少シ飛揚シニ三回直線飛行ヲヤッタ 午後二回目ノ着陸ハ一番マツカッタ ソレデモ人目ニハモ一分カラナイ程ニナッタ 白戸ガ一廻リシタガ飛行機ニナレナイノデー一寸トモ上ガラナカッタ。後チ僕ガヤッタ

◆▼395ページ◆▼ 補遺

大正4(1915)年3月17日(水)

(394および81ページから続く)

ガ一本爆發シナクナッタ 其内クラクナッタノデ仕舞フ 七時三十七分ノ氣車デ二人トモ帰京 ステーション迄大口君ト送ル 両君ヨリ二円ツゝ入ル 天祐ナルカナ

三月十七日

テ呉レルトノコトニ鳥飼氏ニ又電話デ相談シタ。一ヶ月ヨロシイ 其間機ハ豊サンニ番カタブ、充分手入レサセテ居クトノコト ヤレ、コレデ此間カラノ頭ガヤツト落ツイタ 二時早速宅ヲ出デ都築氏ノ工場ニ立寄り矢野君ニ、ライトプレーンノ承(ママ)細ヲシラベテ貰フベク頼ンデ稲毛ニ行ク

五時着 大口君ハ新製ノ模型ヲ作ツテ居タ ソシテ今日ノ決(ママ)果ヲ話ストガツカリシタ様ナ顔ヲシテ村田ノツクル飛行機モ君ノ練習ノ爲メヤラセルノダカオツモリダッタ

ノデ、ウマク行ケバ、ロバートヲ買ヒ入レル筈デ今秋ニハソレデ大坂へ行ケル筈デアッタノ
ダトノコト シカモ上總屋ノ拂ハ大口君ノ材料ヲ賣ツタ金デ支拂ヒシテ居クツモリデア
ツタト好意ハ実ニ感謝ノ外ナイ。ゼヒ君ニモ相談シナケレバナラナカッタ筈デアッタ。シカ
シ昨日村山デ借リタ十五円ノ金ヲ鳥飼トヤルニツヒテハ返サナケレバナラナイノデ、ヤ
ムヲ得ズ今日即決シタ様ナ訳デアッタノデ大口君ニ謝シタ。ソシテ

◆▼396ページ◆▼ 補遺

大正4(1915)年12月6日(月)

(395および362ページから続く)

兎三角大口君ハ村田氏トヤリ、新潟ノ試運轉ニハ僕ガ行ツテ直線ナラ今デモ出來ルカラ
ヤルト云フコトニ之レモ決シタ。コトガスベテキマルト八時頃カラ急ニ眠クテ、タマラナ
クナツテ寝タ

十二月六日

ニ氣ガツイタ。ソシテ、アンナニ高ク上ガツタリ下リルノガ余リエイビンスギル様ニ感じタ
ノデアッタ。千葉ノ帰りカラ目ガ痛カッタ 後お吉ニ目薬ヲサシテ貰フ 夜風呂デハナ
メテホコリヲ取ツテ呉レタ。三時過ぎ浜氏來 一氣車後白戸氏來 今一應安定ヲ見テ
松本ヲドーデモ濱サンニヤレテ呉レトノコトデアッタ。ソレデ白戸ノ意見ヲ聞イテ見ルト
要スルニ自分ガ今日前ヲ上ゲテ飛ンデ居タ如ク水平飛行ヲシテ居ルト前ガ下ガルノデ
氣味ガ悪イラシイノデ、前ヲ上ゲテ後部ヲ下ゲテ水平飛行スル様ニ直ソート云フ 下ニ
ナリソレニハ翼角度ヲ今一度減ジエンジンヲ前ヲ少シ下方ニ向ケルコトニ決定シタ

399～400 ページ

知人名簿

住所	電話	氏名	郷国
府下雑司ヶ谷金山三一四		矢野周一	
府下巢鴨町一一九二		太田祐雄	
柏崎島町		田村清五郎	
全今町		鱒梁五郎	
長岡文治町山川楼		長谷川トモ	
山形縣西田川郡鶴岡町	ノーム 50	斎藤外一	
成都和珠内刀子巷 31		志賀潔	
東京市			
大阪市南区西円手町一〇一二		竹島工場	
東京市本郷区元町一ノ三	下谷五六九二	東京割烹講習会	東京一九四一〇
400 ページ			
磐城国平町字紺屋町	一五九	住吉屋旅館 青天目政ノ助	

413～415 ページ

収入録

月日	摘要	金額
	前年繰越	6.000
10	白戸	1.000
12	河村お母サン	5.000
21	白戸ヨリ借	1.000
25	10-白戸ヨリ 20-模型ノ謝礼	30.000
31	河村氏ヨリ借	5.000
一月	合計	48.000
	繰越金	
2/9	川村氏ヨリ借	5.000
2/22	川村氏白戸氏ヨリ貰フ 2ヅハ	4.000
25	川村御母サンヨリ借	.500
々	5,村山氏貰フ 2.50 時計	7.500
28	白戸ヨリ借	5.000
二月	合計	26.550
2	白戸ヨリ借	3.000
11	全	2.000
16	村山氏ヨリ借	15.000
29	々	.500
	合計	20.500
	残	.110
4/3	村山ヨリ	2.500
4/12	白戸ヨリ	1.000
414 ページ		
4/30	村山ヨリ受取	20.000
	合計	23.610
5/1	村山ヨリ受取	10.000
	残	1.000
5/7	御母サンニ	2.000
5/12	村山ヨリ借	2.000
5/26	川村氏ヨリ借	5.000
	合計	10.000
6/2	新発田行不足白戸ヨリ借ル	5.000

6/11	新発田手當	15.000
6/17	柏崎ニテ	10.000
6/22	長岡五泉ノ分	35.000
	合計	65.000
7/3	沼垂分	9.250
7/8	三條分	10.500
7/13	残金入	7.650
7/20	山形赤湯二ヶ所	45.000
7/26	盛岡分	37.000
	合計	109.400
8/3	弘前分	50.000
前月	残高	1.340
8/12	兄ヨリ 5、竹島 5、	10.000
415 ページ		
8/10	白戸ヨリ借	50.000
々	旅費白戸ヨリ	5.000
18	村山ヨリ借青森ヨリ東京	10.000
8/23	白戸ヨリ借	13.000
	合計	139.340
	繰越	10.440
9/5	竹島 1000 父 200	1200.000
	合計	1210.440
	繰越	77.325
10/	白戸ヨリ借	30.000
	々	3.000
	合計	110.325
	繰越	3.370
	借	50.000
	白戸青森ヨリ	20.000
	々	10.000
十二月一日	々	2.000
	宅兄	30.000
	合計	112.000
12/15	時計 3.5 白戸ヨリ 5	8.500
19	白戸	1.330

31	宅 200、鳥飼 1	201.000
	合計	210.830

416~423 ページ

支出録

月日	摘要	金額
	元旦横濱行ト二日飲食	3.000
	三日ヨリ八日迄小使	2.100
	紙、パウリスタ、薬、活動、タバコ、パン、フロ	1.680
	大口ト浅草	2.500
	洗濯、川辺ト浅草、紙、ラジューム	1.700
	散髪	.150
20/21	代々木行き晝食 25 亜麻仁油 40	.650
22	大口ト晝食ト、ハミガキ、ノリ	.450
28	川辺 5-河村 5-ワイヤー1-	
	模型 1.50、センタク、切抜御土産其他	15.320
30	馬力 9、豊サン渡シ 2、大口ト稲毛行 1	12.000
31	豊サ小遣 50 ゴーリ 25 ハミガキ 15	.900
	不明一月中	4.000
一月	合計	43.450
2/1/3 迄	菓子.25 シルコ.50 石鹼.17 アレシラズ.20	1.120
	稲毛往復.70 豊サン東京行.50	
	川村祝.56 電車散髪.38 茶代.10	2.240
2/9	汽車 1.40 大口 1.00 電車.54	
	電報.20 夕食二回 1.00	4.140
10	ラバーセメン	.170
15	大口君ト千葉行費用	1.500
23	一円大口君へ焼芋代トシテ 針金ト肉	1.350
々	切ヌキ	.500
28	サンパツ.25 本.20 電車.18 キ車.35	
	車.15 ハミガキヨーシ.17 豊サン手帳.25	1.550
417 ページ		
	上総屋へ拂	11.000
	不明	1.050
二月	合計	26.550
	模型布.54 ナワ.13 石鹼.17	
	馬方.15 上総屋白戸大口.90	1.900
8	炭一俵.30 カサノ油.15 針金.18 ホーシヤ、エナメル等	.800

11	東京往復費	1.520
	稲毛往復.70 電車.18 上総屋 10.	
	頭 2.80 稲毛片道.33 電車.10 稲荷.25	14.360
21	製圖紙並ビニ手帳電車コーヒー	.500
30	電車.9 茶.10 散髪.20	.390
	不明	.920
	合計	20.390
4	■■カイ.27 クツ油.15 下タ.66 ■■■■.31	1.400
々	切抜二ヶ月分	1.000
12/13	電車.09 顔ソリ.10 パウリスト.10 センタク.12	.410
	上総屋拂	15.000
	雑費	3.000
	切ヌキ	.500
	合計	21.310
5/2	河村氏へ返却.10 雑 1.30	11.300
	切抜.30 紙.15 石鹼.17	.620
	シルコ茶受ニ出ス	.300
5/12	東京往復 1.05 電車.27 浅草行.55	1.870
418 ページ		
5/13	油(飛行機用)塗料	.700
5/16/7	石鹼散髪糸	.400
5/29	東京往復、舟代、紙、印紙、ハガキ、間々木小遣	4.500
	合計	9.390
	不明	1.610
	合計	10.000
	新発田行買物其他十日迄小遣	5.000
6/12	河村氏 5ー 上総屋 10ー	15.000
13	アンマ爲替料散髪運賃	.650
6/18	シャツサル又ビールエハガキ其他	3.000
6/22 迄	靴 7. 靴下 1.2 写真 1.50 シャツ其他 1.0 外イロ、々	14.000
6/23	河村 10. 稲毛 10. 豊サン 2.	22.000
6/23/4	遊郭 2.30 切手 10. 洋食 3.20 間々木君ト二人	5.600
	合計	65.250
	ワイシャツ 2. ボタン 1.90	3.500
7/6	大口馳走 8. アンマ二回ハミガキ 1	8.500

7/3	沼垂ニテ末広 4.5 其他雑費	5.750
7/8	不明三條ニテ	2.000
7/9	大口宿料	.950
7/20	遊郭赤湯	3.600
々	白戸返済 5. アンマ 20 電報.35 センタク.20	5.750
7/21	川村 18. 上総屋 20 爲替料.20 水 1.2 印紙.10	33.420
419 ページ		
7/15	着物 4.00 牛肉マツノ三人キタ方	6.700
	不明	2.230
7/24	オーバーシユース	1.600
7/25	山形正雄君來費用其他	1.200
7/27	上総屋 20 豊サン 2. 川村 5.	
	サル又印紙ヌレ物入 3.0	30.000
7/28	ツルカゴ 1.50 エハガキ地圖石鹼ハミガキ名刺.90	2.860
	合計	108.060
8/3	大シヤカニテ 7.50 赤帽.30 二回 アンマ.20 鉛筆.03	2.030
8/4.5	氷代五所川原	.810
8/6	繪ハガキハンカチ帽子水	1.000
8/10	河村氏	22.000
々	センダク	1.160
々	大口 10. 全員 5.50 車代 1.45 汽車 1.40	13.350
々	時計質受	4.000
々	大坂東京間	2.000
々	ワイシヤツ裏地 5. メガネ 5.	10.000
8/13	時計	11.500
14	マクラ 2.21 クツ下.80 シヤツソボン下 2.1 クツ 1.70	6.850
々	豊サン 1. 西ノ宮行.50	1.500
20	電車切符	1.150
8/1/16	帽子ニツ其他不明ノモノ	12.550
18	サンパツ.30 電報.40 サル又.40 カゴ.50 其他	2.000
420 ページ		
8/16	青森ヨリ旅費ト青森ニテ夕食三人	15.000
19/22	女良屋大口ト二人 7.5 晝食 1.5 夕食河村君ト三人 1.5	10.500
8/25.6	矢野君へ.30 土産活動.60 電報料残	3.500
28	稲毛行	1.000

30	大口渡	2.000
31	不明	5.000
	繰越	10.400
	合計	139.340
9/4	大口 10. 東京ヨリ大阪マデ 5. 大阪ヨリ 5.	20.000
々	鳥飼氏へエンジン内金	8000.000
5	土産 2.5 大口 10. 白戸 13. 其他	
	大阪ヨリ東京行き 5.5 電車 2.05	35.050
6	スクラップブック 3. 鉛筆 2. ペーパー10.	
	ハガキ切手油ヒゲ筆	3.500
6	今日買物合計	66.510
7	今日買物合計	41.490
9	今日千葉ニテ受物合計	27.860
10	合計	1.260
11	合計	.800
12	合計	4.070
13	合計	4.900
14	合計	41.630
15 16	合計	29.515
18 19	合計	6.720
421 ページ		
20 21	合計	11.900
26	合計	3.700
27	合計	9.980
28	合計	8.370
30	合計	15.860
	合計	1133.115
1	合計	1.600
3	合計	16.900
4	合計	2.870
5	合計	5.000
	先月中行違不明	6.000
7.8	合計	12.180
9.10	合計	1.075
12/3	合計	3.340

14/18	合計	14.010
19	合計	2.790
20	合計	1.990
21	合計	1.450
22	合計	.710
23	合計	1.410
24/27	合計	22.400
28/31	合計	12.190
422 ページ		
	不明	1.040
	合計	106.955
	一日ヨリ十一日迄	36.775
	十三日	1.560
	十四日	5.850
	十五日ヨリ末日迄	65.685
	不明合計	115.870
12/6	豊サン	.500
	ハガキ	.150
	ガソリン運賃	.200
	写真現象	.450
12/8	石鹼、散髪、紙、ハミガキ	.380
12/10/13	東京行き野島氏土産電報其他	
	布 12 尺木捻	4.000
12/25 迄	東京行.66 電車.9 お吉.38 ハガキ.15	
	イサン.20 ヒモ.30	1.780
12/31	稲毛ヨリ大坂往復	10.280
々	大口分宮口へ	5.000
々	ガソリン二箱	12.000
々	白戸	3.000
々	店十一月末迄	71.110
々	手工	1.000
々	大口	20.000
々	地代	14.400
423 ページ		
12/31	お歳暮 野島、白戸、奈良原、鳥飼、加藤、河村、上総屋一同	4.870

々	着物、車賃、切抜、河村氏へ	5.050
々	下駄二足シヤツ上下	2.950
々	東京ニテ晝食御飾り 千葉ニテ買物	3.000
々	豊サン正月小遣	5.000
々	お吉 1. 三方、ミソ、ローソク立 60 ハガキ.30	
	大口 1.50 手紙ハミガキ.80 タバコ.40 酒.40	4.650
々	タビ	.600
々	不明	5.000
	合計	175.370